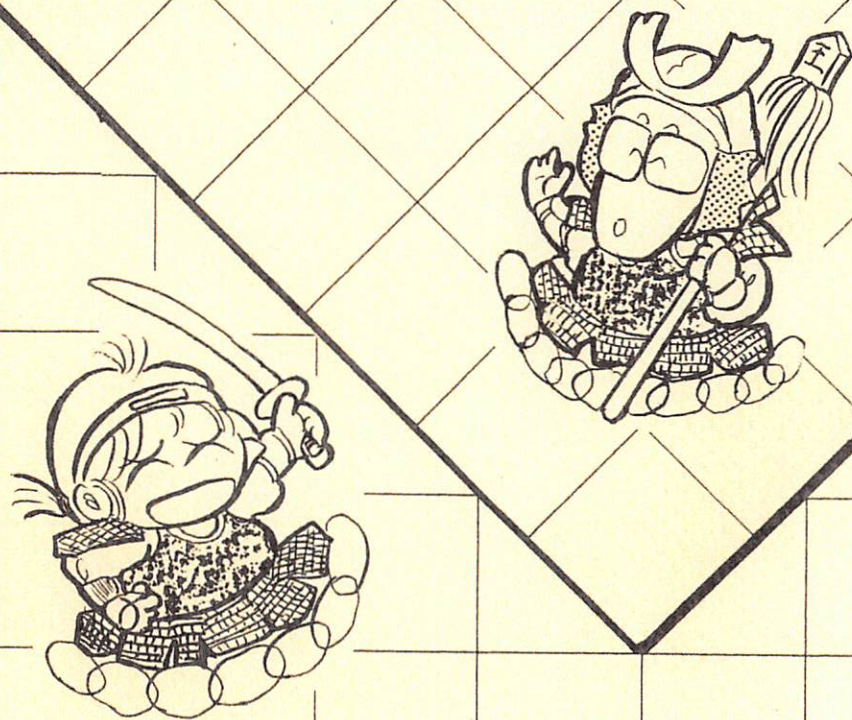
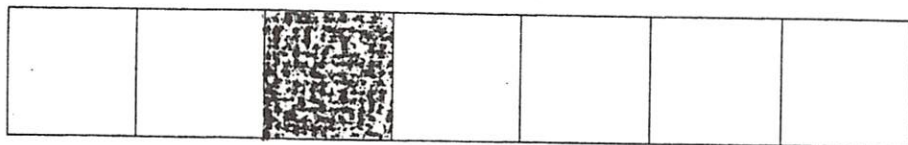


KOBO

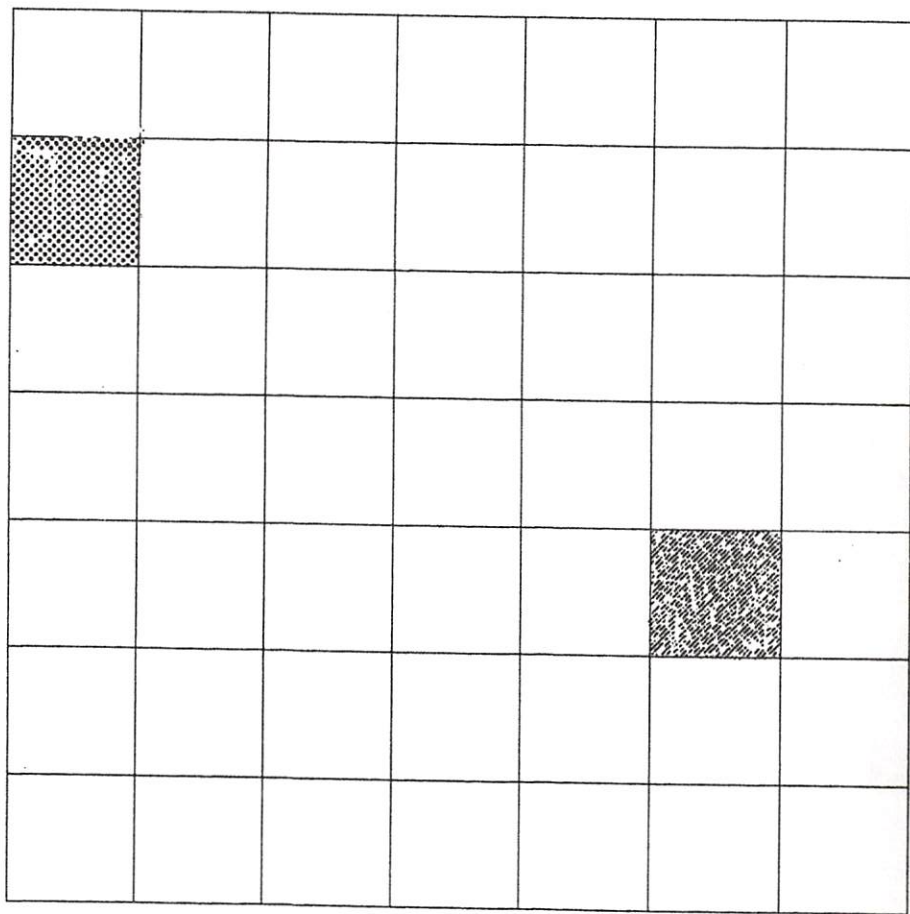
東京詰将棋工房作品集

我ら愉快的仲間たち





K O B O



東京詰将棋工房

序 文

詰将棋マニアの同好会の第一号は田宮克哉氏が主宰して昭和31年に生まれた「関西詰将棋ファン・グループ」である。大橋虚士・里見義周・西村英二・北川二郎・藤倉満・谷向奇道・田代達生・川崎弘・岡田敏・湯村光造・小西逸生・柴田昭彦・長谷繁蔵・横田進一・北川明……といった京阪神在住の錚々たるメンバーが数カ月ごとに集まって楽しい会合を持つようになった。当時、僅か十七歳の内藤國雄少年（現九段）がこれらの大人に交じって参加していたのも特筆すべきことである。

この「詰フグー」は田宮氏の転勤で暫く中断したが、昭和47年に「壮棋会」として生まれ変わり、さらに55年には「創棋会」と改名して今なお続いている。そのうえ、これまでに『あさぎり』、『凌雲』、『白雨』、『金波銀波集』と、素晴らしい会員作品集を世に出してきた。

その田宮氏が東京に移住されて、昭和50年に始めたのが「詰朗会」である。この会は初心者にも門戸を開き、詰将棋人口を増やすことに貢献した。また同じ年の暮れから筆者が中心となって結成した「詰将棋研究会」はマニアの創作や研究活動を促進することを目的として、定期的に例会を開き、会報の発行や作品集の編纂などを行ってきた。平成元年に上梓された詰研会員作品集「饗宴」は第三期昭和詰将棋黄金時代を支える俊英作家たちの傑作集である。

これらの活動に刺激されてか、この頃から全国各地で詰棋人のグループがつくられるようになった（しかし、いつの間にか消滅したものも多い）。現在も活動しているのは、名古屋の「香龍会」、京都の「ACT」、九州の「九州G」、北海道の「彩棋会」、静岡の「駿棋会」等々。

そうしたグループの一つに、平成元年に誕生した「東京詰将棋工房」がある。発起人は摩利支天氏だったらしいが、実質的な主宰者は金子清志氏である。若手が中心の集まりで、詰将棋ばかりか、フェアリーをはじめ、色々なパズルやゲームも楽しんでいる（お酒やカラオケも?）。しからば、ワイワイガヤガヤだけの会かというところではなく、『東京詰将棋広報』と称する葉書通信を出したり、清水英幸氏が参加してからは『KOBQ』と題する読み物の多い会誌も発行するようになった。どのような会も、世話人の献身的な情熱なしには永続させることは難しいが、もう一つの必須条件が、このようなミニコミ誌である。その意味で、詰工房の運営の仕方は理想的といえよう（なお、昭和55年から筆者が引き継いでいた「詰朗会」も、平成3年の第50回記念大会を機に金子氏が世話人を引き受けてくれている）。

さて、前置きが長くなってしまったが、本書はこの詰工房メンバーによる初めての作品集である。詰将棋だけでなく、フェアリー作品も入っているところが若々しい。また、愉快な読み物や漫画など、会員諸君の多才ぶりには目を瞠るばかりである。しかもワープロを駆使して安価に制作したあたり、今後の詰将棋作品集づくりのお手本にもなるう。

遊び心の横溢した、こんな愉快な作品集は初めてではなからうか。

平成5年7月

森田 銀杏

詰工房 我ら愉快な仲間たち

柳田 明

さて、東京詰将棋工房（詰工房）って一体何だろう？ テーマの無い詰将棋会合とか、居酒屋で飲んで騒いだり、カラオケボックスで逆向きに歌うとか、とにかくヘンな会というもっぱらの噂である。では、その実態は？

将棋ライターの湯川博士氏は、きゅりあん（品川区立総合区民会館）での詰工房に参加してみて、こうレポートしている。（週刊将棋91・10・30）

「部屋のあちこちには若者が数人ずつ固まって、ある者は詰将棋の検討、ある者は中国将棋に興じている。へえ、詰将棋をやらない人もいるのか、と思っていると、五、六人のグループがカード遊び（トランプではない）を始めた。受付のようなものはないか聞くと、入口に名簿が置いてあるという。行ってみると、来た順に名前が書かれ、傍らには千円札やら百円玉が無造作に置かれている。一人四百円の会費を勝手に置いていけ、というシステムのようなのだ。詰将棋の会には今まで何回か参加したことがある（関西の創棋会、関東の詰研）が、まるで違うムードだ。一口でいうとテンデンバラバラ、まとまりがないというか、まとめようとしていないといった方が近い。その日のテーマもなければ、詰将棋の会から希薄だ。これが本当に詰将棋の会なのか。」

そう、実は私も、最初は全く同じ感想を持ったものだ。詰将棋の会として集まって

いるのに、何の課題作もない。何のテーマもなく、まとまりがない。しかし人は集まる。それは一体何故だろう。金子清志事務局長は「今までの詰棋会と大分違うようだけれど」との質問に対し、こう答えている。

「ええ。むしろ違うものにしたかったというか。研究とか勉強とか、あまりまじめな雰囲気に入りにくい人もいるようだったので。とにかくあまり堅苦しく考えないで詰将棋を自由にやりたいですね。」

また金子氏は会誌KOBORO第6号の中で、会合のあり方について、こうも書いている。

「会合というのは、そもそも何なのか。詰将棋を抜きにして原点に立ち戻って考えてみよう。会合というのは、そもそもは情報交換の場である。余詰の検討ひとつをとっても、こちらは新作という情報を持ち込み、結果余詰であったという新たな情報を得る。さて詰工房にも自分が持っているスタンスがある。それは例会の日程だけはかなり前もって（4ヶ月以上前に）予告していること。そしてできるだけ毎月やること。それから「自分で情報を持っていく」ことが必要だという点、これをメンバー全体が良く分かってくれているだろうことである。ミニコミでなければできないこと、ミニコミの良さを追うこともひとつの方針であり、集まるべき人が「集まること」こそ詰工房例会の主目的ではないか。」

どうだろう。端から見るとただ騒いでいるだけのようだが、少しはその意義がお分かり頂けたらどうか。詰将棋を通じて知り合った仲間が、とにかく集まる。集まればもちろん詰将棋もやるし、コーヒーを飲み、酒を酌み交わして語り合う。そしてボウリングをし、カラオケで騒ぎ、とにかく楽しむ。仲間が集まって楽しむこと

こそが目的なのだ。それで十分ではないか。
湯川氏のレポートはさらに続き、こう締めくくっている。

「しゃべっている途中で、この会紅一点の船戸陽子さん（女流初段）が入ってきた。男ばかりの会場に一瞬光が輝いた。ところが会員は横目でチラッと見るだけでまた元の姿勢に戻る。一見無視しているような。船戸さんは初参加だというのに、失礼な。と思うのはすでに旧世代の人間らしく、彼ら独特のシャイな表れのようなだ。その証拠に会の終わりの自己紹介、二次会の喫茶店と、次第に活発に自己表現が進み、三次会の居酒屋では声もだんだん大きくなり笑い声もよく聞こえる。そして四次会はカラオケボックス。今風の歌やアイドルの歌が主流で、よく知っているのには驚いた。この会目当てに静岡や大阪から日帰り来ている人もいた。なるほど、集まることに意義ありか。十時間くらい一緒にいて、その事が理解できた。」

どうだろう。詰工房の楽しい雰囲気は少しでも伝える事ができただろうか。さて詰工房を語る上で欠かす事が出来ないのが、リバースカラオケと夏の合宿である。これらについても触れておきたい。初めて聞く人には誠に奇妙な言葉だろうが、リバースカラオケとはカラオケの画面に出てくる文字を逆向きに歌う事である。そもそもこの技を開発したのはあの王泉慶安氏。彼が初めて『リバーカス愛は勝つ』を歌った時には不幸にしてその場にいなかったのであるが、その次には私もいた。王泉氏が『愛は勝つ』を入れたのを見て、「この人にしては普通の選曲だなあ」と思ったのであるが（王泉氏は軍歌などをよく入れるのである）、もう一本のマイクを持った清水英幸氏といっしょに逆向きに歌いだしたのにはビックリした。なにしろそのシンクロの仕方が余りにピッタリなのである。笑うというより驚き呆れてしまった。後で聞いたのだが、王泉氏は自分の職場の忘年会などで練習して（ウケるかどうかわかめて）から詰

工房でやったそうである。また一方の清水氏は王泉氏のリバーカスを聞いてから、電車の中で手帳に歌詞を書いて覚えたという。どっちもビョーキだよ！ この『リバーカス愛は勝つ』は詰工房の中で爆発的にヒットした。カラオケボックスへ行くと毎回のように歌ったし、私も金子氏や松田圭市氏といっしょになって、あちこちのスナックで歌ったりした（この歌は初めて聞かせる時にはピッタリとシンクロさせて歌わないとウケないのだ）。また松田氏が無差別乱入プラスなんでもリバーカスという荒技を編み出したお蔭で、それ以後のカラオケはほとんど収拾がつかない状態になってしまった。

さて詰工房では千葉にある加賀孝志氏の別宅をお借りして夏の合宿を行っている。強化合宿と銘打っているが、一体何を強化するのかよくわからない合宿で、何故か詰将棋だけはほとんどやらない。91年は「ゲームトライアスロン」と題して、チェス、中国将棋、トランプ将棋、資本還元将棋、王手将棋、本将棋の6種類を交代で対戦。夜は麻雀やら花札をやり、夜の更けるのも忘れた。92年は、もはや将棋という文字すら出てこない。カラオケのロシアンルーレット、UNO、ボードゲーム、それにこの本の打合せ（と言うと聞こえはいいが、酔っぱらって各自が勝手な事を言っているだけ）などを行った。一体どこが詰将棋の合宿なんだろう。実際、詰将棋は門外漢の鈴木芳広氏を連れて行ったが、何の抵抗感もなかった。要するにゲーム類が好きで、お酒が飲めて、ノリがよければ（すこしばかり将棋を知っていればなおよい）誰でも参加できる楽しい合宿なのだ。

以上、詰工房の「大騒ぎ」の一端をご紹介したが、どういう感想を持たれただろうか。こんなものは詰将棋会合じゃないという人もいれば、私も参加したいという人もいるだろう。批判される方のご意見もよく分かるが、なにより人が集まり、そして楽しむ事に意義があるのだ。

詰工房、我ら愉快的仲間たち、今日も大井町のきゅりあんに集う。

目次

序文	(森田 銀杏)	四
詰工房 我ら愉快な仲間たち (柳田 明)		六
作品の部		一一
解説の部		二七
馬詰 恒司	(1番~3番)	
王泉 慶安	(4番~8番)	
加賀 孝志	(9番~13番)	
金子 清志	(14番~18番)	
川 清雄	(19番~22番)	
河原 泰之	(23番~27番)	
斎藤 吉雄	(28番~32番)	
佐藤 伸夫	(33番~37番)	
清水 英幸	(38番~42番)	
富樫 昌利	(43番~47番)	
松田 圭市	(48番~50番)	
三谷 郁夫	(51番~55番)	
柳田 明	(56番~60番)	
山下 雅博	(61番~65番)	
今宵みんなでチンチロリン (藤沢 秀樹)		八五
趣味の詰将棋 (清水 英幸)		八八
プラパズルで芸術を (佐藤 伸夫)		九二
多国籍の蒼い流星 (王泉 慶安)		一〇〇
詰将棋雑誌の簡単な作り方 (服部 敦)		一〇二
ところで……ばか自殺詰って何のこと?		一〇八
まんが つめきクン (清水 英幸)		一〇九
『KOBQ』のあゆみ		一一四
座談会「詰工房の過去と未来を語る」		一二〇
執筆者プロフィール		一二九
編集後記		一三二

(表紙デザイン・本文マンガ 鈴木 芳広)

作品の部

馬詰 恒司

「将棋の駒舞う盤上に今日も余詰めが吹き荒れる(タイガーマスクOP替え歌)」という事で、不完全率の高さでは今回の参加者中トップと思われる私にとって、この作品集用に選題するために考える必要はまったくありませんでした。ここに選んだ3作以外の(既発表作での)完全作がないのだから仕方がありません(といっても、この中の1作は発表時不完全で修正したのですが...)。つい先日もう1作余詰めを出してしまい「思考回路はショート寸前(某アニメOP)」な私ですが完全率5割を目標にぼちぼちやっていくつもりです。

とりあえず、今回の作品集の私の部分については「今はこれが精一杯(ルパン3世カリオストロの城、ルパン3世の台詞)」というところでしょうか。

私をこの世界へ引き込んだH君、T君、M君に感謝と×××を込めて.....

「修羅王」

9	8	7	6	5	4	3	2	1
		と						
		香	歩	と	と	歩	と	
桂	歩	銀		歩			歩	と
と	と		桂	銀	金			
香	角		金	香		と	と	
		金	銀	香			龍	
桂	金	銀	角	と				
		歩	飛		歩			
	桂	王				と		

【第3番】

一 二 三 四 五 六 七 八 九
持駒 なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1
					王			
馬	飛		王	香		龍		
	桂	桂						
	金		王	銀				
			銀	香				
						香		

【第1番】

一 二 三 四 五 六 七 八 九
持駒 歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1
		王						香
				香	香	と	龍	
			香	王			馬	
				王				
		王	飛			歩		
				馬				

【第2番】

一 二 三 四 五 六 七 八 九
持駒 金

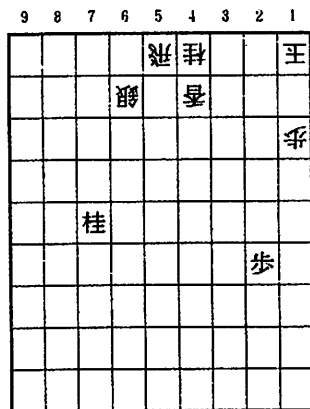


王泉 慶安

この度、東京詰将棋工房の作品集の刊行に当たりましては、拙輩をその末席に加えて頂き、光栄至極に存じ上げます。関係者の皆様方には厚く御礼申し上げます。
まさか自分が作品集の発行に携わる立場に立つ事になるうとは……。何だか夢のような心境であります。しかし折角の機会ですので私も参加させて頂きたいと思ひます。
何分初めての経験ですので、自作が果たして鑑賞に堪え得るかどうか心配です。

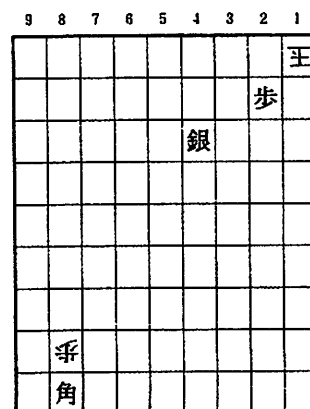
【第4番】

持駒 角角金桂



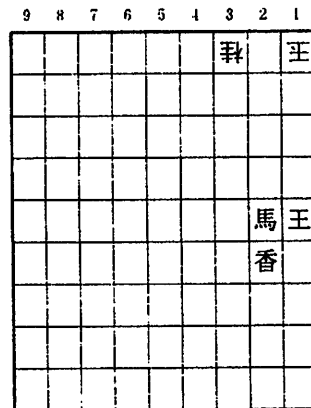
【第5番】

持駒 なし



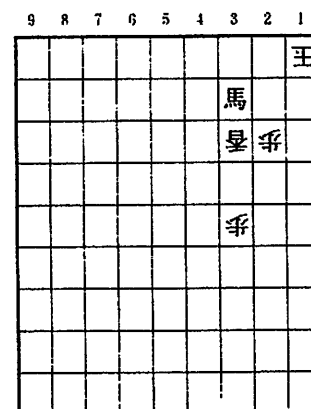
【第6番】

持駒 桂



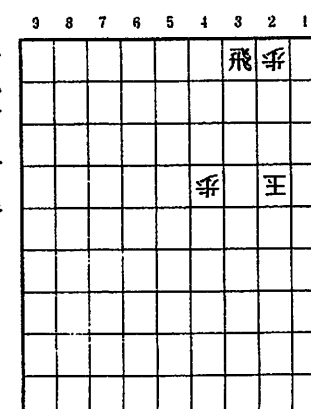
【第7番】

持駒 なし



【第8番】

持駒 銀

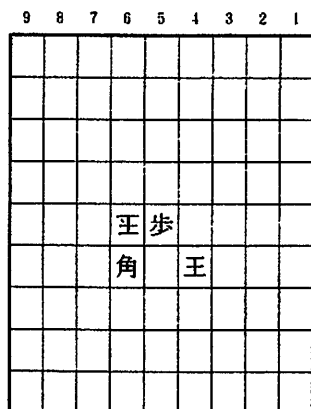


加賀 孝志

フェアリー詰将棋の楽しみは、ゲーム感覚で楽しめ、新手順の発見が容易であること。しかし現在では色々とルールが多様化してきたので、私は「ばか詰」「安南ばか詰」「対面ばか詰」等に絞って創作しています。
特に双裸玉作は日進月歩の時代で、一ヵ月遅れると新手順や類似手順が発表されているような現状です。
創作歴は2年ちよつとですが、自分では新人のつもりがベテラン扱いされる歳に変わってきているようです。

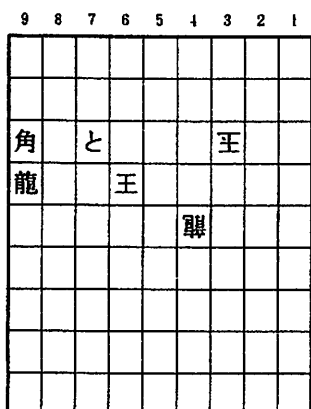
【第9番】

持駒 飛歩



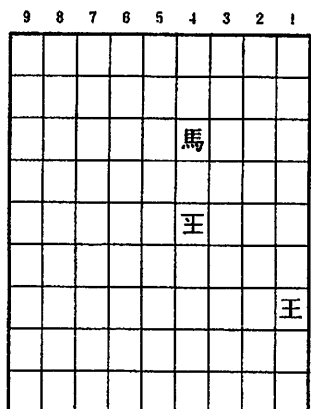
【第10番】

持駒 なし



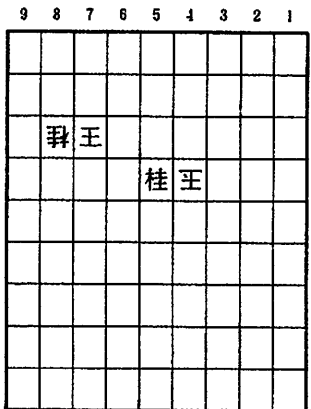
【第11番】

持駒 角



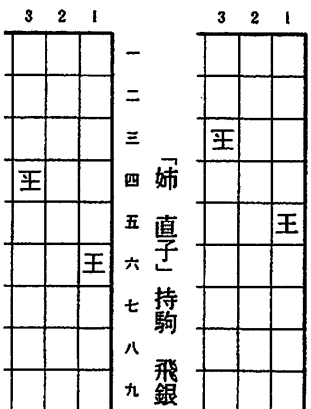
【第12番】

持駒 飛



【第13番】

持駒 飛



ばか自殺詰6手(安南)

ばか自殺詰6手(対面)

両図とも ばか自殺詰6手(対面)

金子 清志

自分の作品をほとんど整理していない私だが、気に入った作品は覚えている。だから、適当に5作選ぶなんてこと、簡単だと思っていた。ところがどっこい、発表場所や正確な図面を覚えていない。
ここに掲げた5作は、手順はすぐに思い出せるものである。それだけ印象はあるのだが、図面は調べるまで思い出せなかった。
私の頭の構造は、普通の「詰将棋作小屋」とはチョット違うらしい。

【第16番】

持駒 角金

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								銀
								角

「夢追いスナイパー」

【第14番】

持駒 飛飛

9	8	7	6	5	4	3	2	1

「姫様ズームイン」

【第15番】

持駒 飛

9	8	7	6	5	4	3	2	1

【第17番】

持駒 香

9	8	7	6	5	4	3	2	1

【第18番】

持駒 飛桂3歩2

9	8	7	6	5	4	3	2	1

川 清雄

「対面」向かい合った駒の性能が入れかわる

「鏡」王は、王手をかけられた駒の性能に変化する

両王手の場合は、両方の駒の性能を重ね持つ

「ばか自殺詰」

先後後手協力して最短手数で、先手の王を詰める
先手が王手をかけ、後手がそれはずすのは同じ
最終手は逆王手になる

「圧縮」

【第19番】

持駒 桂桂

9	8	7	6	5	4	3	2	1

【第20番】

持駒 角角

9	8	7	6	5	4	3	2	1

ばか自殺詰8手(対面)

【第21番】

持駒 飛桂

9	8	7	6	5	4	3	2	1

【第22番】

持駒 なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1
金	銀	金	銀	銀				王
と	歩	歩	歩	歩				金
と	桂	香	銀	香	桂	金	桂	王
と	と	香				香		
と	桂	と	と	と	と			
と	と					と		

ばか自殺詰8手(鏡)

ばか自殺詰74手

佐藤 伸夫

☆ 先代の言葉

駒の捌き、効率があまりに悪すぎる。奇巧

図式を見習って欲しい。(看寿)

☆ 仙台の言葉

なんだこれ。愚作だっちゃあ。

☆ 選題の言葉

詰将棋パラダイスに入選したのは、わずかに五題。他の雑誌に入選した事はない。よって組合せの数は $5C_5 = 1$ で1通り。何も悩む事はなかった。持たざる者の不惑。

【第33番】

持駒 角

9	8	7	6	5	4	3	2	1
			銀			皇	皇	
			飛			龍		
			王					
			銀					

【第34番】

持駒 金桂

9	8	7	6	5	4	3	2	1
						王	皇	
			金	飛	皇	皇	皇	
				皇	皇	皇	皇	

【第35番】

持駒 飛銀

9	8	7	6	5	4	3	2	1
飛							馬	皇
		皇						
金	歩							
		銀						
皇	皇	馬						
歩	金		王	王				
王								

【第36番】

持駒 なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1
		皇						
		と						
		歩	角	銀				
				香	皇			
飛	香	飛		香	王			
				香				
			角	歩	桂	銀		

【第37番】

持駒 歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1

清水 英幸

【第38番】

持駒 歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1
		皇	皇	飛				
		王		馬				
		皇		と				
				飛				
		銀		皇				

【第39番】

持駒 角香

9	8	7	6	5	4	3	2	1

「作品ですか？ ありませんよ」
師匠との電話での会話。各作家からの原稿の集まりが悪いので、作品を出せないかというお話。
パラ入選2回。自ら作家と名乗るのはおこがましい身分だから文章のみにしようと思っていたが、どうせ今後自作が印刷物に載るのは滅多にないことだし、どさくさ紛れに混ぜちゃえば分かるまい、とタカをくくって原稿だけは用意することにした。

【第40番】

持駒 なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1
皇		王	皇					
皇	皇							
		皇						
			歩	銀				
		馬	桂					
				角				

【第41番】

持駒 桂桂

9	8	7	6	5	4	3	2	1
							王	
							飛	
			角					
			皇					

【第42番】

持駒 桂

9	8	7	6	5	4	3	2	1
			桂	皇		と		
						歩		
				皇	皇	皇	皇	
			皇	香				飛
			角	銀	皇	皇		

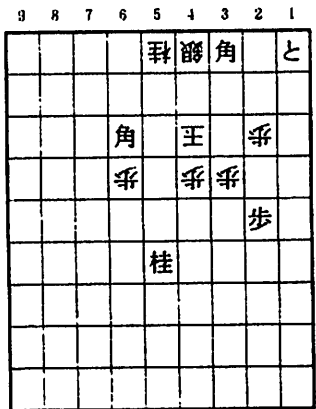
富樫 昌利

冬には詰将棋大賞を選考し、夏には合宿と称して酒を飲む。不思議な会合東京詰将棋工房。いつしか大井町で飲むのが楽しみになっていた。

この本を出す話も、そんな酒の席の勢いで決まったように思う。自分も仲間に入れてもらえるのかと思ったら、嬉しくなって大いに盛り上がった記憶がある。
酔いが醒めて、解答はおろか作品の投稿すら億劫に感じる自分に気がついた。

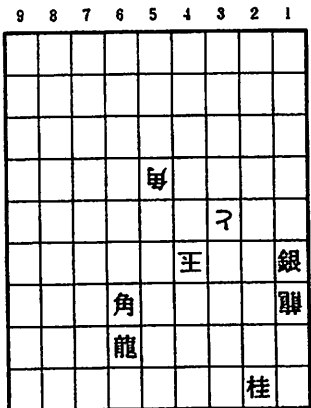
【第45番】

持駒 金桂香



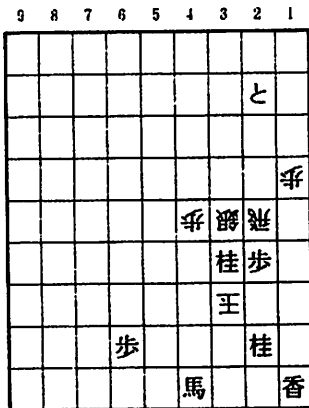
【第43番】

持駒 金金桂桂



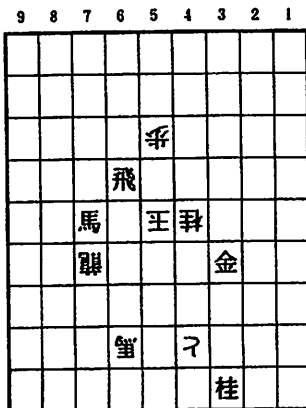
【第46番】

持駒 角金



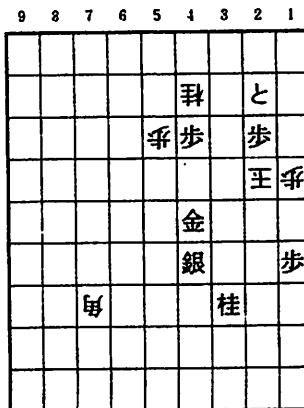
【第44番】

持駒 銀桂香



【第47番】

持駒 角桂



松田 圭市

48番と50番が詰パラ初登場作。小学校と短大に載り、しかもいずれも首位。うれしさを通りこし、恐ろしくなって、どこかへ逃げ出したくなりました。

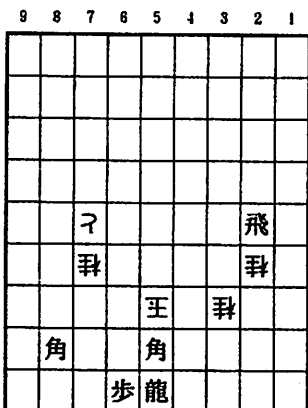
49番がジャーナルで僕の初入选作。びっくりした後、うれしくてうれしくて、本屋に寄ってはそのページだけ立ち読み。

おまけに2冊買いこみ切り取ってスクラップにし、額に入れて眺めていました。ナルシストだなーおいらは。

「うちあけ花火」

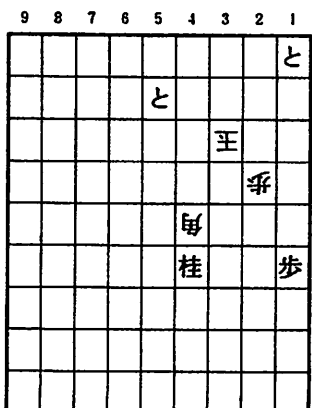
【第48番】

持駒 なし



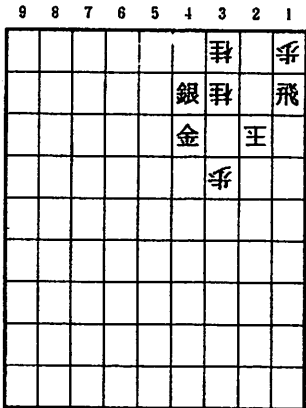
【第49番】

持駒 飛金金



【第50番】

持駒 金桂桂香



山下 雅博

毎日きちんと働いてお給料を稼ぎ、そのお給料でおいしいご飯を食べて、フロの後に冷えたビールを飲んで、友達とバカ話をして寝るーそんな日常の繰り返しの中に詰将棋は存在しています。

学生の頃のように夢中になれば朝までも、って事はもうありませんが、それでも日々コツコツと時間を割いている所から見ると、私はやっぱり詰将棋のことが好きなんですよね。

【第61番】

持駒 桂歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1
							桂	
							銀	

【第62番】

持駒 飛

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								王

【第63番】

持駒 金4桂2

9	8	7	6	5	4	3	2	1
					馬	と		王
								王
						桂	銀	
					香	銀	歩	歩

【第64番】

持駒 銀

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								と
								と
						角		
						歩		
						王		
						歩		
						龍		
						角		
						龍		

【第65番】

持駒 なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1
と	龍	金	角	と	桂	王		
	角	角						
歩	金	歩	銀					
	歩	歩	歩	香				
銀	金	銀	歩					

解説の部

(1番、3番)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				将					一
									二
馬	飛	弓	歩		龍				三
	桂	桂							四
	金		将	王	銀				五
									六
			銀	弓					七
									八
				香					九

持駒 歩

【第一番】詰将棋パ・ラタイス 92. 1
 3七香、同桂成、3六銀、同成桂、3四金、4五玉、
 4六歩、5五玉、2五龍、3五角、同龍、同成桂、
 2二角、4四歩、同角成、同と、5六歩、5四玉、
 5五歩、同玉、53飛成、同桂、8二馬、5四玉、
 6四馬まで25手詰。

詰工房課題組曲「ツメコウボウ」の4文字目です。「合駒」を少なくとも一つ入れよう。」というささやかな目標の下、創作を始めました。というわけで、既成の収束ではあるけれど角と歩の合駒が入ったとき作者はニンマリとしたわけです。けれど詰工房の席上、歩合のところ桂合で詰まないと指摘され、大あわて。修正する手段は四桂配置しかないとあがいた（取り組んだ）らこういう作品になりました。

作者として気に入っているのは、4六歩と打ってから龍を引き角合させるところで、同じように感じてくださった解答者がおられてうれしく感じたものです。

なお発表時不完全でしたが、幸いにもこの作品は結婚記念曲詰ではなかったので4三步追加で修正できました。なぜ結婚記念曲詰ではだめなのかといえば、結婚記念曲詰に合（愛）駒を入れるのは常識（？）ですが、「捨て合（愛）やら移動合（愛）は禁じ手でしょう。（某氏談）」（？？）ということです（この修正図では4四歩合が移動合になっています）。

関係ない話(1)

詰将棋とプログラミングは似てると思いますが、仕事で
るプログラムはちよつと違います。仕事でのプログラムは、
バグ（不完全）があつたら、必ず直さないと（修正しなけれ
ば）いけませんから。



9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
	金								七
	龍								八
王									九

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			と							一
			香	歩	と	と	歩	と		二
桂	歩	銀		歩				歩	と	三
と	と		桂		銀	金				四
香	角		金	香		と	と			五
		金	銀	香			龍			六
桂	金	銀	角	と						七
		歩	飛		歩					八
	桂	王				と				九

〔詰上り図〕

9	8	7	6	5	4	3	2	1
						馬	香	
			歩					
	金	王	王	歩	と			
			ろ					
	ろ		馬		歩			

持駒 金

[illegible]

【第2番】 詰将棋パラダイス 92・1
5六馬、5四玉、6四飛、同桂、6五金、6三玉
7四金、5四玉、5五歩、同と、3四龍、4四金
同龍、同玉、3四と、5四玉、4四金、同歩、
3二馬まで19手詰。

詰工房課題組曲「ツメコウボウ」の5文字目です。「合駒を少なくとも1つ入れよう。」というささやかな目標の下、創作を始めました。と、ここまでは前問と同じです。創作過程を思い出すと、金台の部分をつくり、それに収束をつけ、1・2の駒に意味を持たせるように序を作ったようです。手順については、最初の8手さえ乗り切ればあとは自然に解けますが、まともにはいいと思っています。

前問と本問で思ひ出すのは創作中、無防備煙詰創作の後遺症でどうしても無防備っぽく作ってしまい（玉方の駒をなるべく置かない逆算になってしまい）苦勞してしまった事です。この事に關して、「玉方の駒を置くのに慣れていない。」などと酒の席で私が言ったそうですが、覚えていません……。あと、誰も言ってくれなかった事を一つだけ……。この2作は最終手が馬なのです。だから馬で詰めてる（だからなんだと言われても困りますが……）。

先日、美術館で「反復と増殖」をテーマにした展示をしていたので見てきました。思った通り（？）わけの分からないものでしたが（単に私の感性が鈍いのかも……）、そのときふと思いました。詰将棋を知らない人には詰将棋が、その時の私が見ていた展示物と同じように見えているのかもしれない。

【第3番】詰将棋。パラダイス 90-1		8八銀、6八玉、5八と、6九玉、5九と、同玉
4九と、6九玉、5八角、7八玉、6七角、6九玉	5九と、同玉、2九龍、4八玉、5七銀、同玉	5九龍、4七玉、5八龍、3七玉、3六と、同玉
3八龍、2五玉、2七龍、3四玉、3六龍、2四玉	3三銀、1三玉、1二と、同玉、1六龍、2三玉	2五龍、3三玉、4三と、同玉、4二と、3三玉
4三と、同玉、52角成、3二玉、4一馬、同玉	52步成、3二玉、4二と、3三玉、4三と、同玉	53香成、3三玉、43成香、同玉、53香成、同玉
5四金、同玉、6五金、5二玉、5四金、同玉	4五龍、5三玉、52桂成、同玉、8五角、7四歩	同角、5三玉、63角成、同玉、7四と、同玉
5四龍、7三玉、8五桂、6二玉、6一と、同玉	71香成、同玉、81桂成、同玉、82歩成、同玉	8三と、同玉、6三龍、8四玉、7三龍、9五玉
9六歩、8五玉、9七桂、9四玉、9五歩、同玉	9六金、同玉、7六龍、8六金、8七銀、9七玉	8六銀、8八玉、9七銀、同玉、8七金、9八玉
7八龍、9九玉、8八龍まで百17手詰		

この作品は、私の詰将棋バラダイス誌初入選作であり、また半期賞、看寿賞までとってしまったという現時点での代表作と言えるものです（完全なのがあった3作で、どこが代表作だという声もありますが……）。創作には気がつけば浪人中から大学4年まで約4年もかかっていました。とはいえ、当時詰将棋をするのは詰バラが届いたときと詰朗会（そのころ詰工房はまだありませんでした。）へ行く前と帰ってから

しばらく（その他試験の前など（笑））というパターンでしたので無理もないかもしれません。

手順については、9手目からの歩の消去の伏線（効果は92手目の変化にあらわれる。）と72手目2手稼ぎのための74歩中合が見所でしょう。この歩の消去の方は摩利支天氏のアイデアですが、この時私は短中編作家の良い意味での貪欲さみたいなものを感じました。また歩の中合の方は、何人くらいが引つかかってくれるかと楽しみにしていましたが（極悪人ですね、コイツは……）、解答者38人中（無解者数は除いています。）21人がハマっておられて満足しています。収束の変化同手数については作者はあまり気にしていませんが、35手目2歩成以下の迂回手順は多少気にしています。とはいっても、次回からはできるだけ使わないようにしようと思ふ程度ですが……。

この作品について心残りが今は一つあります。「修羅王」という作品名についてです。完成当時「修羅の＊」と言うマンガを読んでいた、なんとなく「修羅」と言う単語が使いたかったというのが命名の真相です。そんなわけで作品の内容と作品名の間になんとなく違和感を感じてしまうのです（當時はそうでもなかったのですが……）。やはり煙語には男性的な命名は合いくいのかもしれせん（「三十六人斬り」とか例外も多いのですが）。例えば、この作品に「Rose」とも命名していれば（これもしっくりとはしませんが）「きれいな花（Rose）」には、刺（「四歩合）」がある。「きつでピシ」と決まったのにと思うと残念です。どうも私は気に入った命名のできた作品は不完全になり（「星の降る夜」は特に気に入っていたんですが……）、完全な作品に対してはいい命名ができないような、そんな気がしてしまします。

◇王泉 慶安 作 (4番、8番)

例えば八十過ぎの老人が古びたブリキ箱を後生大事にかか
えている事がある。中には一生掛けて築き上げた財産、例え
ば土地の登記書とか、定期預金通帳が入っているのかと思ひ
きや、幼少の頃に使ったヒビ割れたビー玉や破れたメンコな
どが入っていた…。

こんな話、誰でも一度や二度は耳にするだろう。詰将棋もまたしかりである。他人から見れば何の価値もないガラクタでも、その人の思い入れとか愛着が強ければそれはその人にとって何者にも代え難い宝物なのである。考えてみれば看寿賞作品もFIDEのターニエも大多数の人から見れば「何の価値もないガラクタ」なのかも知れない。

ここにあげた自作もまさしくその通りである。私はそんなに作れる方ではないけれども、それだけに一作一作に対する思い入れは強いものがある。一応内容は普通作が一作、残り4作はフェアリーである。これは「不完全をなるべく出したくない」という編集サイドの意向を考えたもので、ばか系は実はf m というフリーソフトによって完全検討が可能なのだ。が、かしこには今のところ検討プログラムが存在しない様である。できれば全問ばか系にしたかったのだが、悲しい事に私には量産能力がないのでそうもいかなかった。さて、f m が検討ソフトであるという事はとりもなおさず解答作業にも使えるという事だが、皆さんは決してその様な使い方はしないで下さい。そんな事をしたらフロッピーの上に磁化された0と1が悲しむでしょう。例えばガラクタでも自己の努力で解いて欲しいと念じてやまない。

関係ない話 (3)

詰将棋を見て（初形を見ただけで）背中に電気が走るような感じを受けたことがあるでしょうか。私の場合、友人から全駒から三枚になる作品や、六百手を越える作品があると聞き、やっと捜し当てた伊藤看寿の「煙詰」「寿」、奥園幸雄の「新扇詰」を見たときです。（私のバイブルはこれらの作品が載っていた福田稔「名作詰将棋」です。）そして最近では、橋本孝治氏の「ミクロコスモス」です。次にこんな感じが味わるのはいつ、誰の、どんな作品なのでしょう。そしてもし自分の作品で誰かにこんな感じを与える事ができたなら……。

いろいろ思いつくまま、ここまで書いてきました。もっと書きたい事もあったのですが、文才の無さで書ききれませんでした。最後は私の好きな詩を載せることにします。

きみはなにをおそれるのか

漠然とした未来か

それともやりきれない現在か

いずれにしても

もう帰れない

ためらうよりも
すすむのだ

(やなせ・たかし 勇気の詩集より)

				桂	飛				王
			銀		香				
									歩
			桂						
							歩		

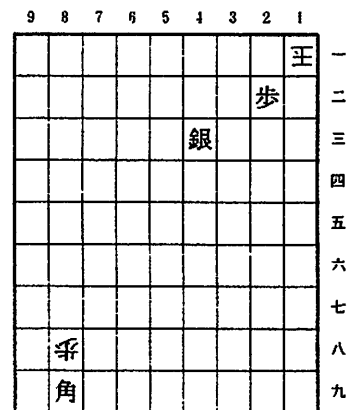
持駒 角 角 金 金 桂

【第4番】詰将棋パラダイス 85・5

2 三桂 1 二玉 2 二金 同 玉 1 一角 2 三玉
1 二角 3 二玉 21 角成、 2 三玉 1 二馬 3 二玉
2 二馬 4 三玉 4 四馬、 5 二玉 6 二馬 同 玉
6 三金 7 一玉 7 二銀、 8 二玉 83 桂成、 9 一玉
55 角成、 同 飛、 81 銀成、 同 玉 7 二金、 9 一玉
8 二金まで 31 手詰。

この問題は8年前、香龍会作品展に出題されたものである。当時の課題は「雪隠詰」であった。すなわち玉が11、91、99のいずれかで詰上がるものだが、本問は初形11にいた玉が詰上がりでは91に移動する。本当は「ゲルマン民族」という命名があったのだが、当時の担当者（柳原裕司氏その人である）に「意味がない」と一蹴されてしまう。さらに森田正司氏には「習作!」と思いきりけなされてしまい、自信作だっただけに意気消沈したが、あの毒舌解説で有名な信太弘氏には何故か好評を受ける。毒舌は向上心を持たせようと

する配慮であって本当は新人には優しい人だったのだと、その時知った。今となっては何もかもなつかしい。



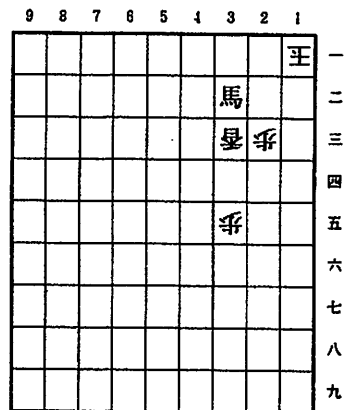
持駒 なし
ばか詰 7 手 (対面)

【第5番】 詰将棋パラダイス 88・7

21歩成、同 玉、32銀成、1 玉、22成銀、同歩生、12角生まで7手詰。

f mチェック 解析時間6秒、解析局面数 2299 (バジヨン1.97、使用機種88NOTE SXT、以下同様)

この問題は歩角考内(喜多真一)氏の名前に因んで作ったもの。すなわち詰上がりが歩と角だけである。こういう物を文字詰と称するが、創作条件が厳しいので作例は極めて少ない。対面のルールを選んだのは、歩と角だけの詰上がりは無変換規約では不可能だからである。他に私は森田銀杏氏の名前を詰め上げているが、当時の事ながら誰も意図を見抜けなかった。この創作条件ではろくな物ができるとは思えず、不評を買う分作りの損である。ところがルールが変わると不思議と好評を得るもので「これは凄い!!特A」という人がいたが、



持駒 なし
ばか千日手 12 手

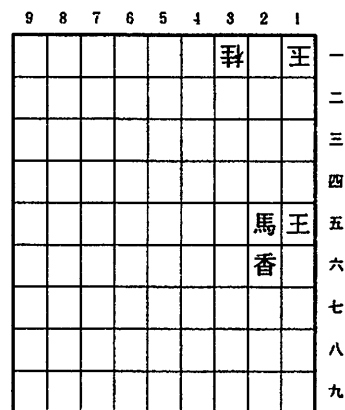
【第7番】 将 13号

3三馬、2一玉、4三馬、3一玉、3四香、32香合、4二馬、2二玉、33香成、同 香、3二馬、1一玉まで12手。

f mチェック 解析時間2時間26分16秒、解析局面数 2400679

やっとf mが悩んでくれた。嬉しい...とばかりも言っていない。実は解かせている方も大変なのである。中断を7回程入れ、3日掛かりで解かせた。そうそう、f mは解析を一時中断し、その時点でのデータをフロッピーに保存させ、後で再開する事ができるのである。f mが悩んだというよりはハードウェアが悩んだと言った方が妥当かも知れない。f mの作者(石黒俊太郎氏)によると、デスクトップなら倍ぐらいのスピードで解けるそうである。もっとも、ばかの口ジックは開発途上で詰や自殺と比べるとまだまだ時間がかかるそうである。それはそうと本作、小林看空氏から「王泉慶

機械にやらせるとたったの6秒で解いてしまうのである。



持駒 桂
ばか自殺詰 6 手 (鏡)

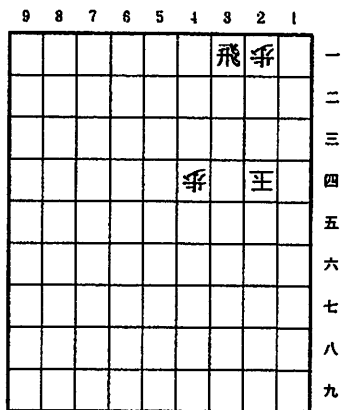
【第6番】 将 3号

2三桂、同 玉、1四馬、3三玉、23香成、同桂まで6手詰。

f mチェック 解析時間6秒、解析局面数 3077

鏡とは玉の性能が王手を掛けた駒と等しくなるといふものである。最終局面、一見先手王は詰んでいない様に見える。跳ねだした桂が馬で取れる状態だからだ。しかし取ってしまうと33の玉に23の馬で王手を掛けてしまう事になる。すると玉が馬の性能となり、先手王を素抜いてしまうのだ。先手王の性能は当然桂でありよって詰みという理屈。こういう様な問題をフェアリーの世界では「法則問題」と呼んでいる。実際、鏡ではよく使われる手法で新味はないのだが、普段フェアリーに慣れていない人に出題すると一様に悩み、驚き、そして感嘆するのだからいい加減なものである。しかしf mに解かせてみると、やっぱりかくの如しなのである。

安の最高傑作」とのお言葉を頂いた。恐縮である。



持駒 銀
ばか千日手 8 手

【第8番】 詰将棋パラダイス 92・12

3三銀、3五玉、24銀成、3四銀、同成銀、2五玉、24成銀、同 玉まで8手。

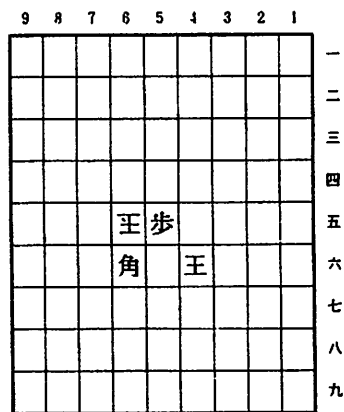
f mチェック 解析時間6分40秒、解析局面数 27402

本問はフェアリーランドで開催された「フェアリー短編コンクール」の応募問題。残念ながら間に合わず普通出題となった。どうもばかに関しては長編が好まれる傾向がある様だが、私にはこれ位の手数で性が合っている。そして私自身に對しても長編創作を望む声がある様である。ルール創案者のだから作れるだろうと思われているのかも知れない。さてf mの方はというと、モニタでぞいてみると初手飛車が成ったり21歩を取ったりしている。そんな事をしている8手で初形に戻る訳ないじゃないか、とは人間だから言える事。本当は実質的に問題を解いているのはソフト開発者のだから最終的には人間が鍵を握っているのかも知れない。

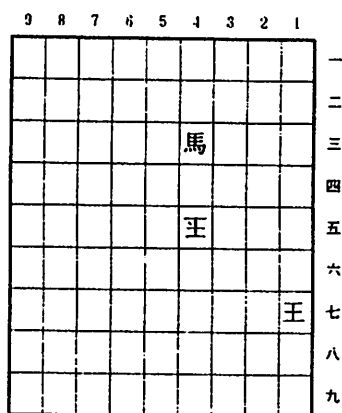
◇加賀 孝志 作 (9番〜13番)

「一筋の爪跡を残すために」

「私たちは何も持たずにこの世にやってきた 何も持たずこの世を去ってゆく」(パウロの言葉より)。
今までは詰バラ、近将、将世の解答のみの読者であったがほんのチョット人生の爪跡を残してみたく一九九一年二月十六日を期してフェアリーの作品を発表することにした。
その間、今日まで百局以上の作品を創作したが余詰早詰で検討係(?)の岩本、川西氏を泣かすことになった。今回発表するものは完全であると思うが、コンピュータで解析の時代、一抹の不安はあるが「私の思い出の作」として跡をたどってみたい。



持駒 飛歩
ばか自殺詰 6手 (安南)



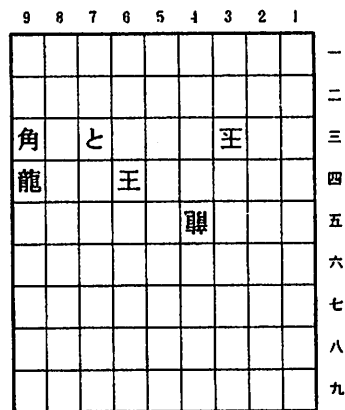
持駒 角
ばか自殺詰 6手 (安南)

【第11番】 詰将棋パラダイス 91・9
5四馬、4六玉、2八角、3五玉、1八馬、2六金
まで6手詰。

つかみ所がない作。この時代は二日に一局のペースで作ってたから、詰バラの短編コンクールに載った時、誰の作かと思っただけ。印象は薄いが初めて解答者から(川氏も)難解作、と言われた。

【第9番】 詰将棋パラダイス 92・1
67飛打、7四玉、65歩打、6四玉、4七歩、5五玉
まで6手詰。

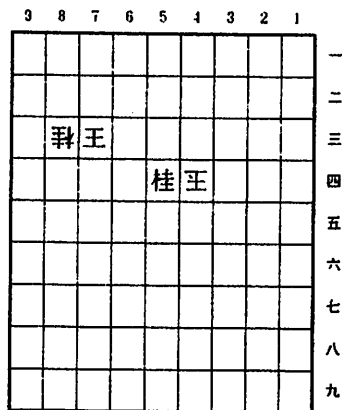
当時は安南系しか作れなかった。易しいがバラでは好評だった。誰もが解けるから岡本氏も4七歩迄の詰上りは好感が持てると言ってくれた。



持駒 なし
ばか自殺詰 6手 (安南)

【第10番】 将 56号
7四龍、53桂合、66角生、4三玉、6五龍、同龍
まで6手詰。

発表二作目、ただし詰バラでは返送された。形も悪いし安南の特徴が出ていないと言われた。「将」発表の時は解答者はなくさめてくれたが、その後詰バラに何作か載せてくれた作はこれ以上の作とは思えなかった。主観と客観の目の違いを感じた作品でもあった。



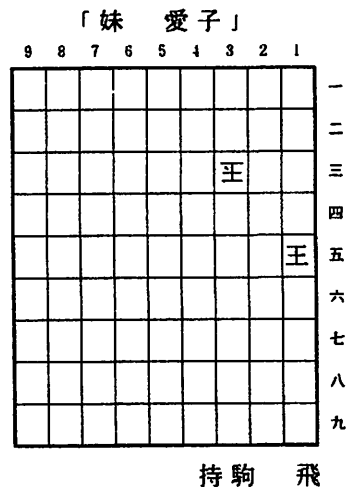
持駒 飛
ばか自殺詰 6手 (対面)

【第12番】 将 61号
43飛打、5四玉、63飛成、62飛対、6四龍、6三香
まで6手詰。

「将」より、「出題当時には余り見かけなかった詰上り形で裏をかかれた?」解答者が次々と白旗をかかげ、とうとう正解者四名という、作者もビックリ?の結果になりました。中級向け好局です。

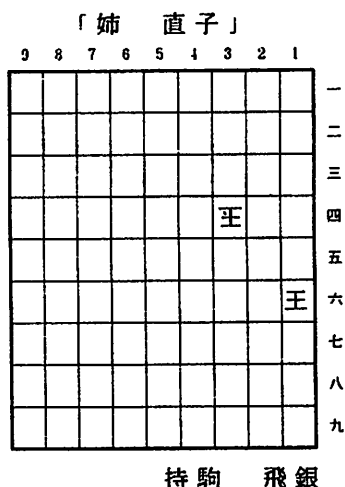
この頃よりバラには好形作、KOBOROには解きやすい作、将には野心作を発表することにした。
私のストックにはまだまだ難しい作がある。いつか将に発表するからお楽しみに。

(a)



持駒 飛
ばか自殺詰 6 手 (対面)

(b)



持駒 飛銀
ばか自殺詰 6 手 (対面)

【第13番】 将

(a) 6三飛、62角対、36飛成、2三玉、2七龍、26角打対まで6手詰。

(b) 3八飛、37角合、7四飛、3五玉、2六銀、同角成まで6手詰。

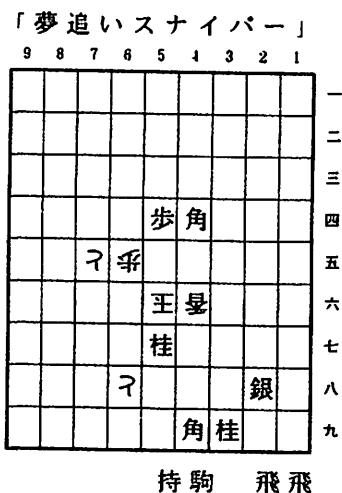
この二作は同時に作られた。双裸玉はあと何作が残ってるが意識的イメージで作ったのは初めてである。毎年詰工房で夏合宿をやっているが太東の駅前にある小さな教会、その教会で奏楽（ピアノを弾く）する二人の姉妹のイメージをとったもの。妹の活発さと姉の素直さを詠み込んだものである。可愛らしい作、素直な作と思って解いて下されば本望である。

表題の言葉は聖書の中の言葉、生まれた時も死ぬ時も裸、何がこの世に残せるかを考えてみたい。このあと百局完全作を創作したい——これが私の人生の爪跡である……。一作でも読者の心に残る作が作れば、と念じながら。

◇金子

清志 作

(14番~18番)



持駒 飛 飛

【第14番】

詰将棋パラダイス

88・10

6六飛、5七玉、5五飛、6六玉、5九飛まで5手詰。

5手詰は多く発表したが、その中でも特に気に入っている作である。自分の評価と同時に周囲の評判もよく、詰将棋パラダイスの幼稚園（3手と5手のコーナー）で半期賞（半年間の最優秀賞）を受賞した。しかし、発表前は（良い内容とは思っていたが）まさかそれ程の評価を得るとは思っていなかった。4手目に合駒をする手が「変長模様」でもあり、幼稚園の中での各月の首位はともかく、である。

ところで、普通は「将棋盤と駒」を使って作図する人が多いだろうが、私は「紙とエンピツ」で、つまり机上で作図することが多い。だいたい、家において時間的に余裕のある時と

いうのは、良い案は浮かんでこないものなのだ。

「盤と駒」で作図すると、紛れや変化を確認しようという方向に考えが働いてしまうものだが、「紙とエンピツ」の場合は紛れも変化も自分の都合の良いように決めてしまっても、それに合わせて駒配置を変えていくのである。つまり、図面がだいたい固まってきた時には、手順の構築は完全に済んでいることになる（その結果として余詰がある、というような場合は除いて）。本図では特に、手順を発想した段階で構図がほとんど決定していた。

駒配置の上で唯一迷った点、そして当初の予定と違う点は、28銀と39桂の2枚。この配置は1枚で済む予定だったのに2枚になってしまった。しかしこれは、頭の中だけで手順を構築して作図する私には、よくある錯覚。よくよく考えてみれば1枚で済むはずがない。全体の構図を変えればどうにもなるのだが、他の配置を動かしたくなかった関係でこのままとした。とはいっても結局は、この図がベストに近いと思う。

【第15番】

詰将棋パラダイス

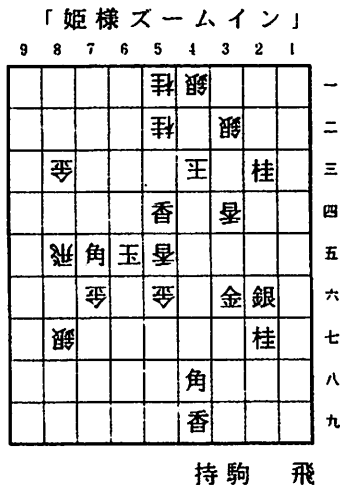
89・10

5三飛、4二玉、73飛生、64桂跳、53飛成まで5手詰。

同様に、詰将棋パラダイス幼稚園で半期賞を受賞した作。5手詰では3度、半期賞を頂いた（もう一つは合作）。

さて、「生を実現するには、最低何手必要か」という議論をしよう。もちろん、銀桂香で「成では王手にならない」などの場合は除き、純粹に打歩詰（つまり利筋削減）に関係するものだけ、とする。変化長手数などを含む場合も失格。

普通に考えたとすると、生を指した後に歩を打つので、5手必要と思える。本図はこれに明快な（その一方、インチキ



まがいな結論の一つを与えたもの。すなわち、3手で可能であり、本図の後半がそれに相当する(5手詰に前半・後半もない)。当然ながら、1手で可能な訳がないので、これが最短ということになる。

さて本図、盤上の駒をよく数えてみよう。すると、玉方の持駒は歩だけだと気付く。初手は当然として、2手目は開王手する一手だが、73飛生以外の手では、すべて64歩の逆王手を食らってしまい、後続が王手にならない。しかし作意通り進めると、64歩合に全く手出しが出来ない。打歩詰である。つまり64歩合は禁手である。64桂跳は、持駒がないゆえの王手を防ぐ唯一の手段というだけで、手順そのものはすでに店仕舞いしている。

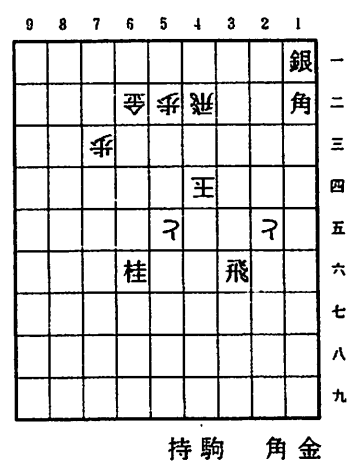
構想上、両王手の機構などで飛角の配置はほとんど必然。しかも合駒防ぎに金銀桂香を全て盤上に置く必要がある。コンパクトな構図を採り、他の駒をどこかにまとめて置いてもいいのだが、何となく「全部の配置がどこかの手順に必要」

検討用紛れが多い図を私は好まない。検討が大変なばかりで、その結果として、報われない(紛れ手順が評価されないばかりか、結果として不完全になる)ことが多いからである。本図は詰将棋パラダイス誌の短編コンクールで発表した。上田吉一さんにイチオシされたが(正面きってだから社交辞令かも知れないけどね)、優勝ならず3位。短編コンクールは私にとって鬼門ともいうべきもので、3位までは何度も行くだが、その上が一度もない。詰将棋界のкоксайтトリブルか、私は。出品さえすれば、優勝できないことはないと思っているのだが。現実には出品しない奴に言う資格はないか。



【第17番】 詰将棋パラダイス 88・10

3一馬、同玉、3四香(1)33歩合、同香生、4二玉、22飛生、4三玉、4四歩、3三玉、43歩成、同玉、4四と、同玉、4二飛まで15手詰。
(変化)



【第16番】 詰将棋パラダイス 91・12

3四飛、4五玉、3七飛、4四玉、45角成、同玉、2三角、4四玉、33飛成、同玉、3四金まで11手詰。

解く側としては理詰めで解ける図であろう。「33飛成、34金を狙うのはミエミエだが、すぐには32に逃げられる。そこで角を23にずらす。そのためには45に捨てて23に打つ。そのためには、事前に36飛を取られないように……」という具合。玉が左辺に回る変化は、いずれも容易である。

例によって手順を先に組み立てた。しかし本図の場合は、左辺の変化・配置や、どうでもいい紛れ(業界用語で「検討用紛れ」)が多くなりやすく、苦勞した。結局この図に落ちついたが、この図が紛れが一番少なく、余詰の危険が少なかったから、というのがその理由である。

(1)33桂合、同飛成、21玉、32龍、同飛、同香成、同玉、22飛以下。

普通に見れば「両王手の収束から、邪魔駒消し、生、中合、という順に逆算した図」と言われそうだが、これも手順を全部構築してから作図したもの。というか、もともと22飛生以下の図と、32龍とする図とがあって、それを融合したというのがより適切な表現かも知れない。

頭の2手だけは逆算。この手自体は大した紛れも伴っていないし、いかにも付け足しという感じがするのだが、持駒が香しかない形から、いきなり、しかも中合が見えている香打というのでは芸がない。これは作図側の感覚の問題だが、ここには何でも良いから1手入りたいところなのである。

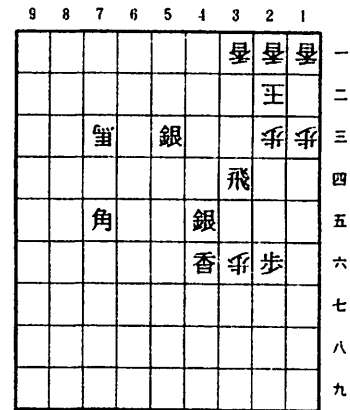
(1)33桂合以下の変化も、当初よりの予定の行動ということになる。解答しようとする側からは、この手順の特に32龍の一手が相当に見え難かったらしい。解答者からは「33桂合で不詰では？」という指摘さえあった(もちろん誤指摘であることはいうまでもない)。33歩合の場合は、32龍に11玉と逃げ込んだ時に打歩詰状態になるため、この変化に入れない。逆に33桂合の場合は、作意手順に入れないが、この変化で23桂と打てるといふ仕掛けになっている。

打歩詰を避けて、発生した33香を消去するのがポイントとなる作意手順は、私の作の中では淡白な部類に入る。

【第18番】 詰将棋パラダイス 86・11

5二飛(1)32桂合、1四桂(2)同歩、33飛成、同玉、44銀生、同桂、42角生、2二玉、15角生、32桂合、3四桂、1二玉、1三歩、同玉、2五桂、1二玉、

という図面にした。この辺りは作図者のマスターベーション。



持駒 飛桂3歩2

22桂成(3)同玉、33角生、1二玉(a)32飛生(4)同香、2四桂、同歩、1三歩、2三玉、3四銀、同玉、44角成、2三玉、3五桂、同香、3三馬まで35手。
(変化)
(1)32銀合は、同飛左、同香、14桂、同歩、31銀、同玉、42銀成以下。
(2)32金合は、同飛行、同玉、34桂、33玉、44銀生以下。
(3)12玉、32飛行、同香、同飛成、22飛合(桂香は品切れ、金銀は23から打てるので早く詰む)、同桂成、同香、同龍、同玉、34桂以下。
(4)同香、13歩、21玉、33桂生まで。
(5)22桂、24桂、同歩、13歩、23玉、22角成、同香、33桂成以下。
(紛れ)
(a)32飛成とすると、22桂合で逃れ(変化(4)と同様に進んで、13歩が打てない)。

初めて「賞」と名の付くもの(詰将棋パラダイス誌・詰将棋学校「大学」・半期賞)を頂戴した作。短編ばかり作っている現在の私だが、以前はこんなこともしていた。本図の出発点は、いわゆる「ヒラメキ型」ではない。同じく「紙とエンピツ」なのだが、この場合、「15角生と開王手する」という発想があって、そこから収束を作り、逆算で序盤を作るという方法。(実力がない者には)ヒマがなければ出来ない作り方なのである。
15角生を中心に、先に収束を作った。この場合の考え方としては、生角が33に行きさえすれば打歩詰の構図はいくらでも作れることは分かる。そこでその方針で、収束で無理な展開をしようとした積もりはない(15角生・33角生までの手順が安易であることに、それを感じ取れるだろう)。それだけに32飛生が付いてきたのはラッキーだった。この一手があるので、後半も見られる手順になっているし、ハードな序盤を逆算しようという気持ちにもなった。
その序盤だが、これは純粹に逆算。曲詰以外で8手も逆算した事はほとんどないのだが、この部分についても評判は悪くなかった。特に多くの人(多くといっても、実際の解答募集では正解者は8名しかいなかったのだが)から「不詰感がある」と批評されたが、この感覚が作った私には分からないのが困りもの。フェアリーでも、何の気なしに出題した図が実質正解者ゼロということがあった。
不詰感とは「このまま追っても詰みそうにない」という雰囲気のことだが、詰むことが分かっている作者として推し量ることは、私のような若輩では無理。したがって、この点だけは逆算による偶発というべきもので、狙った訳ではない。狙って作れるものなら作ってみたい、と思っているが。

◆ 川 清雄 作 (19番・22番)



持駒 桂桂
7手(対面)

【第19番】 詰将棋パラダイス 92・9
2一金、同龍、2二桂、1三龍、1二桂、同龍、21銀成まで7手詰。

21銀成を同龍と取ると22桂が龍に変身し、王手がかかってしまうので詰、という変身物に特有の法則問題の詰上りです。ば自系の作の創作にも飽きてきたころ、かしコンが行なわれることになり、それを契機として、やや普通の作を作りだし、少し慣れてきたころの作です。
これは、岩本修さんの安南詰を見て思い付いた手順を作図化したものですが、他に予定していた作が潰れたのと、詰上りがきれいにまとまったので投稿しました。しかし、この詰上りがそのものは、佐藤伸夫さんの作に前例があることを岩本さんから教えられました。その頃「将」の解図をさばって



持駒 角角
8手(対面) 自殺詰

いたので気付きませんでした。
「圧縮」と命名したのは、初形を圧縮すると詰上がりになるからです。一応、曲詰ですが、逆算で作った訳ではありません。22に駒を打ち32の駒を21に滑りこませて法則問題の詰上がりにするという手順を作図化しようとしていたところ、この形にできてしまいました。
当初は、翻弄する駒は馬で、32の駒は岩本作と同じく金でしたが、馬だと23桂と打つ余詰が防げませんし、金だと23の退路を防ぐ駒を逆用されて余詰んでしまいます。
別にこれと言う手もありませんが、後手の龍を翻弄する味と詰上りを楽しんでもらえれば良いと思います。
どちらかというと詰む将棋ですが、素直で易しい私らしい作です。フェアリーランドのコンクールの解説では、解答者の短評が採用されないため、「作者に似て可愛い」・「作者の性格そのままの素直な作品」等の評に接することができませんでした。

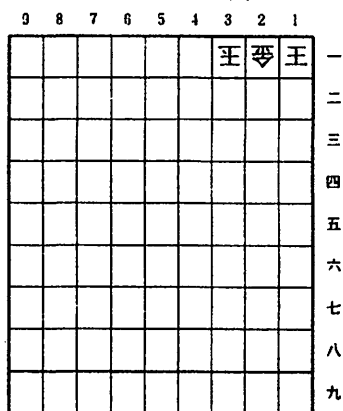
(d)成生非限定。非限定箇所はここだけです。

次に示す詰上り図のとおり、小駒の無防備煙です。

全駒の煙詰の場合には大駒を囲い込むのが難しく、完全作は、最初に大駒4枚を消してしまう佐々木康作だけだと思います。小駒の煙なら大駒を合駒で入手する筋を消し手順の限定さえ気をつければ比較的作り易く、それだけでは価値がないと思います。この作は無防備という味付けを加えたので価値があると思います。普通作も含めて色々なルールがあると思いますが、小駒の無防備煙はこれだけの筈です。

横追いの配置は既成手順ですが、桂にと金をはりつけて手順を限定させる手順と収束はオリジナルだと思います。

〔詰上り図〕



後に参考図として載せました「再会」(詰バラ400号)の修正図です。「カピタン」に全駒無防備煙の修正図と一緒に載せてもらいましたが、吉田直嗣さんより、全駒煙の余詰

◇河原 泰之 作 (23番〜27番)



【第23番】 近代将棋 92・6

2二角、2一玉、3二角、1二玉、23角成、2一玉、3二馬、1二玉、11角成、同玉、2二馬まで11手詰。

斜対称形で着手が真中からですので、「どちらに逃げて同じ」と錯覚させようという魂胆です。

2手目1二玉だと2三角、32角成、11角成で同飛と取っても2二馬までの詰み。作意順の7手目に11角成とした時は、同飛成と取って2二馬を防ぐことができるのです。

3二の駒が王である理由は、初型の駒枚数を整え、7手目31角成や9手目13角成の紛れをつくり(共に同飛で逆王手の逃れ)、かつ金では5手詰になり代用できないからです。

一色図式や七色図式の名の通り、各駒には色があると思うのです。私なら本作には青い色をつけますが、あなたは?

は指摘されましたが、こちらは完全だと認められました。93年の年賀状にもこの図を載せられました。余詰の指摘はありませんでした。

400号を記念したばかり自殺詰のコンクールが刺激となつて作図を始めました。これが、実質的な処女作になります。解答者としての期間は長かったのですが、いざ作ろうとしたらどうやって作ってよいかわからず、取りあえず条件作でも手がけようとして、小駒煙を選びました。

最初は、バカチョン煙でしたがそれでも潰れました。色々いじくっている内に、2筋に香を置く小駒無防備の準煙ができたがありました。

これを検討している内に、34香配置による煙る詰上りを見つけた「再会」が完成しました。

〔参考図〕



持駒 なし
ばか自殺詰 74手
「再会」
詰バラ 400号

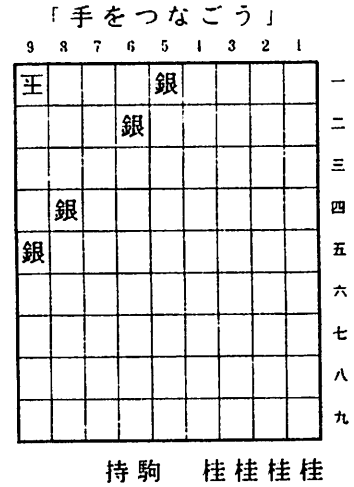


【第24番】 近代将棋

2六角、1六玉、3八角、27歩合、同角、同玉、38金左、1六玉、1五金、2六玉、25金右、1六玉、1七歩、同玉、28金出、1六玉、27金左まで17手詰。

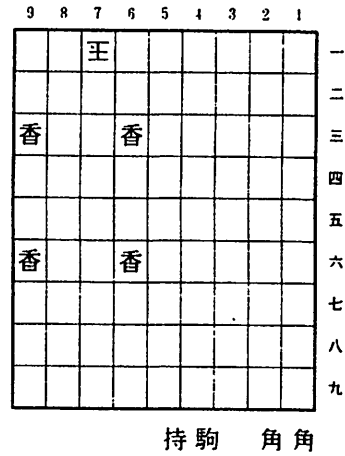
初手2八角と打つと、本手順同様に進み8手目に1八玉とされて困ってしまいます。となれば逆から打ってみますが、これも8手目で打歩詰の状態。ただし、この場面には詰将棋ファンお馴染みの打開手順がありました。攻方の過剰勢力である2六角を消却してしまえば、後は詰みまで一直線。ここで再び盤面を眺めてほしいのです。

「初形、終形共に一色図式」これが狙いでした。源泉は古図式に桂馬一色図式があり、その現代風復刻版です。本作完成時は嬉しくて、会合で見せ回っていると「山下君も同じ趣向を創ってるよ」との声が……後に衝突を避けるため互いの作品を見せ合ったのは言うまでもありません。



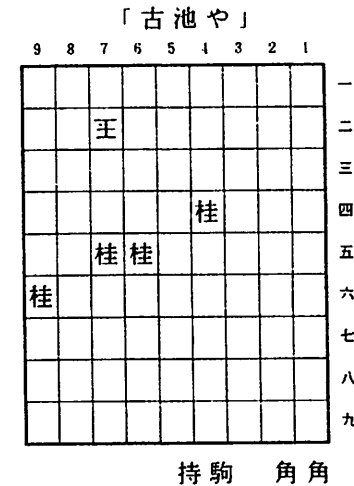
【第25番】 詰将棋、ラゲイス
 8三桂、8一玉、71桂成、9一玉、8三桂、9二玉、
 93銀成、同玉、8五桂、8三玉、73銀成、9二玉、
 8四桂、9一玉、81成桂、同玉、72桂成、9二玉、
 82成桂まで19手詰。

玉が2段目に上ってしまおうと93銀成、8五桂と形を決められてしまうので、一旦8一玉と延命を図ります。2度目の8三桂には否応なく2段目に追い出され収束へと向かいます。一見5一銀は不要に見えますが、4手目9二玉、93銀成、同玉、8五桂、8二玉、73銀成、7一玉の変化のために必要な駒なのです。収束17手目に9三桂、81桂成の迂回手順があるのが痛いキズです。いつも4人のグループ交際だった。いつしか2組のカップルになった。そんな空想で初形から題名をつけました。



【第27番】 詰棋めいと 11号
 5三角、8二玉、64角成、73銀合、92香成、8三玉、
 93成香、8四玉、9五角、8五玉、8六馬、7四玉、
 73角成、同玉、6四銀、7二玉、62香成、同玉、
 53銀成、7三玉、63成銀、8四玉、94成香、7四玉、
 64成銀まで25手詰。

最初から香が成って玉の遁走を阻止できないので、角で手掛りをつけることになります。4手目銀以外の合駒は9一角で簡単。銀合でも9一角が筋にみえますが、8一玉、92香成、7一玉できわどいが、詰みません。ここで今度は香が成って上部へ追う意外性が本作の取り柄です。20手目からの収束の乱れが発表時の評価を落としましたが他の駒を置いてまで直す気にはなれないのです。香車の色が決まりません。匂いには色が無いし、槍という武器を連想させる色も嫌なのです。何か良い案はないかな？



【第26番】 近代将棋 91・11
 8四桂、8二玉、92桂成、同玉、7四角、9一玉、
 6四角、82桂合、同角成、同玉、83桂成、7一玉、
 6三桂、6一玉、51桂成、7一玉、61成桂、同玉、
 7三桂、7一玉、81桂成、同玉、63角成、9一玉、
 7三馬、8一玉、8二馬まで27手詰。

この作の題名は4枚の桂を蛙に見立てて、その手順からつけました。ストーリーは、どうぞ考えてみて下さい。初手から角を打つ手は、きわどいのですが逃げられてしまいます。細かい変化が多くて避けたくなる手ですが、桂跳ねからなのです。2手目7一玉は5三角以下、7手目8一玉は7三桂以下、このあたりが難しい所でしょうか。幸運な事に塚田賞を頂戴しましたこの作、実は詰バラ発表作の修正で出来たのです。受賞の気分は？それは想像して頂かないでしょう。まさに「棚からボタモチ」の世界...

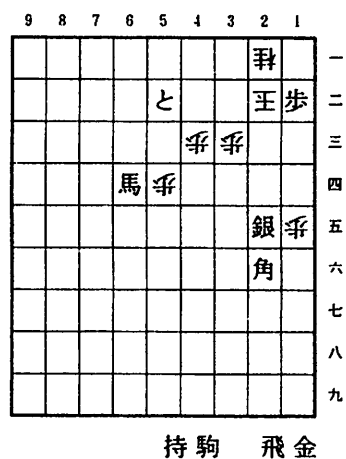
娘「タッタカラタタッタ。ねえ、一色お父さん」
 父「何だい、一色娘」
 娘「もう少し何か書かないと、ページが埋まらないよ」
 父「そうだな。それではアンコールに答えよう」
 「...のバカヤロー」

私は今、東京にいる。三年間働いた旅館を退職し、京都から戻って来たのだ。私が旅をしていた間に、この街も随分と変化した。しかし私が上陸したこの瞬間から、麗麗とそびえる新都庁が、灯点し頃に輝く東京タワーが、そして羽根団扇Tバックお姉さんが集うジュリアナが、私を演出する舞台となるのだ。まずは仕事を探さねばならない。強味であるのは、就職のコツを知っていることである。「面接では詰将棋の話絶対にしてはいけない」これを守れば良いのだ。一時的にでも、詰将棋とは縁を切らねばならない。在庫作は全て投稿し、本や雑誌は押入れの奥へ隠した。準備はOK。○月×日、某会社面接会場。会話はそよ風に包まれた様に進み、ついに「君、何回か転職しているけど何か一つの事に打ち込んだことは有るの？」予期した通り金頭桂の手筋である。「特にありません」「それじゃあ趣味は何かあるの？」これが偽作意である。「特にありません」「今日は遠い所、来社してくれて有難う。結果は後日」駆引きは成功した。

私は今、東京にいる。半年間も職を探している。新都庁と東京タワーは冷淡に私を見下し、ジュリアナのお姉さんの声も聞こえない。慰めであるのか、塚田賞の景品が届いた。私はスイッチを入れる。女性の声が響く...「10秒・20秒...」

◇斎藤 吉雄 作 (28番、32番)

創作初期の作品としてはまずまずでしょうか。



持駒 飛金

【第28番】 詰将棋パラダイス 74・3
3一馬、同玉、53角成、2二玉、3二金、同玉、
4三馬、2二玉、2三歩、1三玉、1四飛、2三玉、
2四飛、1三玉、1四銀、2四玉、2五馬まで17手詰。

高校時代に作った記憶があるので20年以上前の作品です。
馬を捨てて馬を作り、さらに金を先に手放す不利感(?)
が狙いだったのでしょうか。43に馬を持ってくることに気付け
ば後は簡単に詰みます。

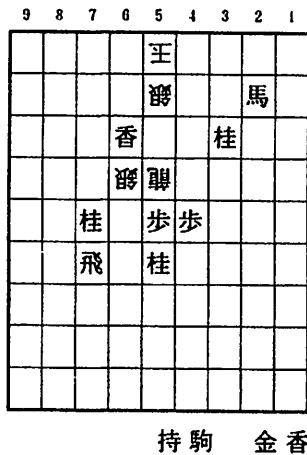
うまく表現できませんが、このインパクトに欠ける手順も
歩が多い初型にマッチしている感じがします。
初形に歩がきれいに並んでると、落ち着いた局面に見える
んですよ。

当時もそんなことを感じてたのかもしれませんが。

いところが面白いでしょう。
初形配置の16歩と26歩は16銀1枚で済むのですが、今でも
この図がいいと思ってます。

私の創作方法は理想手順を思い描きながらの逆算法が主体
です。一手一手ではなく数手まとめてバックするので、成功
するとそこに一つのリズムができるわけです。

この作品は最後に角合まで入り、ツキを感じました。確か
塚田賞候補に上がりました。



持駒 金 香

【第30番】 近代将棋 91・12
41桂成、同銀、3三馬、4二銀、5二香①同龍、
6二金、同龍、同香成、同玉②8二飛、6一玉、
52飛成、同玉、6四桂、6二玉、63桂成、同玉、
5四銀、6四玉、4二馬、5五玉、6四馬、同玉、
65銀打、5五玉、5六飛まで27手詰。
〔変化〕



持駒 金 銀

【第29番】 近代将棋 75・10
1五龍①14角合、同龍、同玉、3二角②23歩合、
1五銀、1三玉、2四銀、同歩、12銀成、同香、
2三金、1四玉、1二金、3二金、1五香、2三玉、
1三金まで19手詰。
〔変化〕

①他合は24銀、22玉、32金、同金、同銀成以下。
②香合は15銀、13玉、23角成、同玉、24香以下。
③桂合は15銀、13玉、24銀、同玉、34金以下。
④他合は15銀、13玉、14金以下。

第28番とほぼ同じ頃の作品。

5手目に取ってくれと32角ですが、取ると早詰なので玉方
は23歩合と抵抗します。それではと上下で軽く銀を踊らせて、
駒取りですが金のソッポ。玉方も最後は角を取らざるを得な

①同玉は、64桂、(同竜、43銀、同銀、42金以下) 53玉、
54歩、64玉、42馬以下。

〔紛れ〕

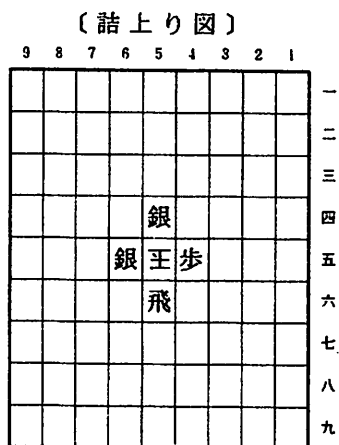
(a) 63飛は、51玉以下逃れ。

(a) 52飛は、61玉以下逃れ。

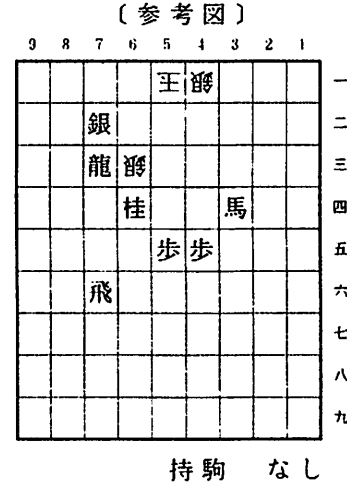
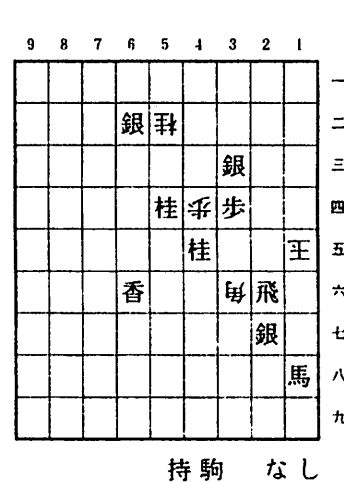
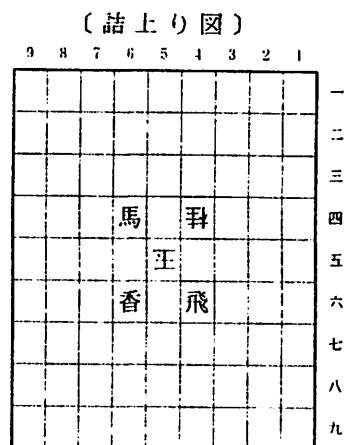
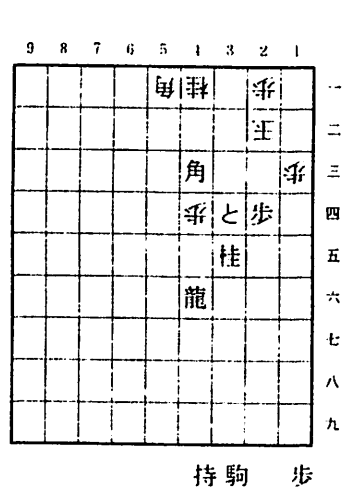
(a) 92飛は、73玉、83桂成、同玉、72飛行成、84玉、82飛成、
95玉で逃れ。

序で玉方の銀を軽く動かして、11手目82飛の限定打がこの
曲詰の主眼手です。63飛とか、63桂成とやりたくありません
か。

後半はスイスイと手が進んで詰上りは次図です。



第29番からこの第30番までに、十数年の冬眠期間がありま
した。91年の9月頃、無性に詰将棋を作りたくなり、仕舞って
あった盤駒を取り出しましたが、寝起きのぼんやりした頭で
は手筋すら浮かんできません。成り行きにまかせて盤の隅で



一応ベスト5を選んだつもりですが、何と言っても入選作がわずかに10作しかないの内容はお粗末です。次回の作品集は、入賞作を、と言いたいところですが、さでどうなりますか。

阿部健治一馬の小刻みな動きで局面を進めていく構成力はすばらしい。収束型通りとはいえず、これ以上は望めない見事なまとめで、特選級。

玉から離れて行くような馬の動きが気に入っています。収束は、詰棋慣れしてる人には一目ですが、感触は悪くないでしょう。13手目、43馬から21馬の乱暴は31桂合で切れます。紛れも適当にあつて楽しめると思います。嬉しかった短評を一つ。

- 【第32番】 詰棋めいと 13号
- 2三と、1一玉、1二と、同玉、34角成、1一玉、1二歩、2二玉、4四馬①3一玉、3二歩、同玉、5四馬、3一玉、4二龍、同角、3二馬、同玉、23歩成、3一玉、4三桂まで21手詰。
- 〔変化〕
- ①33桂跳は、23歩成、31玉、53馬、42合、43桂、41玉、51桂成以下。
- ①33角合は、同馬、同玉、23歩成、34玉、43角まで。
- ①33金（飛）合は、同馬以下。
- ①その他の合は、23歩成以下。

詰上り図（次頁）を見て分かる通り第30番のペアとして作ったものです。前作よりでは悪く、②の変化だけが少し厄介で、手順全体に調和がとれていません。こんなところで力まずに、軽い手順で統一した方が良かったかと思っています。91年暮れからは「詰パラ」の購読を再開し、本格的に復帰しました。詰将棋工房の会報紙「KOBORO」を知ったのもほぼ同じ時期で、早速入会。会報を読むだけでは飽き足らず、月例会にも出席するようになりました。数多くの詰キストに出会え、今こうして作品集にも参加できて喜びも倍増です。一度月例会に来てみませんか。楽しいですよ。

- 【第31番】 近代将棋 92・1
- 1六飛、2五玉、2六銀、3四玉、3五銀①4五玉、3六馬②5五玉、4五馬、同玉、4六飛、3五玉、1三角、3四玉、24角成、4三玉、53銀成、同玉、44銀成、同桂、4二馬、5四玉、5五歩、同玉、6四馬まで25手詰。
- 〔変化〕
- ①23玉は、24銀引成、22玉、33桂成、21玉、12飛成以下。
- ②56玉は、58馬、55玉、73角、45玉、46角成、54玉、76馬、65合、同馬、63玉、73馬まで。

材木運びをしても、やはり一向に埒があきません。そんな時、思い付いたのがあぶり出し曲詰。これなら形が決まっていって、自由度が少ない分むしろ作り易いかもしれない。という訳ででき上がったのがこの作品です。そして近代将棋に投稿。久しぶりの入選はやはり格別でした。ただ一つ残念だったのは右上図山本勝士作（15手詰）と似ていた点。勉強し直さなくては。

◇佐藤 伸夫 作
(33番〜37番)

つけてやるか」とうれしい返事。私自身もずうずうしくAをつけたから、組織票が2票入っていたことを告白する。

松尾弥昇「どんどん捨てるのが面白い。A

蔵野正明「あっさりまとまっている。

				銀			曼	曼	一
					飛			龍	二
					將	王			三
					將	零		銀	四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 角

【第33番】 詰将棋パラダイス 82・10
22 飛成、同 香、23 銀成、同 香、4 二角まで5手詰。

蒲地 聖―重い、重すぎる。形、手順ともに。C

★こういった評が多いのですが、しかし新人としてのねらいはかなりしっかりした物だと思えます。（担当 石田正勝）

詰バラ初入選作である。昔（74年）、「不解集」50番と「不答集」50番という代物を作った事がある。とても作品集とは呼べない物だが、その中から一番まとまなやつを詰バラ向けに改作したのが、これである。評のとおり駒の効率は確かに悪い。しかし、担当の言葉には勇気づけられた。悪い事に柳原氏と橋本氏の佳作にはさまれてしまい投票失格かとはらはらしていたら、東京の兄から「51銀の意味は？」と電話があった。4手目42玉防止であると説明すると「まあ、Aを

ところで、この作のポイントは香を一段ずつ釣り上げるところにあるわけだが、近将91年10月号付録「やさしい詰将棋ランド」に簡素型（7枚）で表現してある作があった。別作品であるが参考になった。

9 8 7 6 5 4 3 2 1

						王		曼	一
				金	飛	毎			二
					歩	桂	歩	歩	三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 金桂

【第34番】 詰将棋パラダイス 82・12
41 金行①同 角、22 飛成、同 玉、3 四桂、3 二玉、
2 二金まで7手詰。

〔变化〕

①21玉は3金打、12玉、32飛成、22合、21角まで7手駒余り、鶴田諸兄ー今回の28題の中では最も易しいと思われた一局なのに6名の誤。これは①の変化に落ちた人である。フシギという外はない。手順は正に幼稚園的であるがAをつけた人が21名いるという事実は何を物語るか。とにかく入選を果たした! (主幹の詰棋観が出ていて懐かしいー伸夫)

途中無仕掛を作ってみたかった。但し、合駒ものは実力不

堀口国雄「初手の飛捨ては邪魔駒だからわかるが次手の成が好手。A

畠山広吉―42角打迄のヒトニラミ。B
川崎幸太郎―23銀成がやや盲点でした

参考図が原作だが紛れがないと思ひ作りかえた。紛れ筋としては、15角、(1)24合、23銀成、同香、22竜迄。但し(1)24金の移動合で逃れ。詰バラ用として悪形覚悟で改作したわけである。詰バラに悪形が多いという声も聞かれるが、解答者に合せてそうなってしまうのかもしれない。最近の幼稚園は開王手物の広がった図式が多い。5手詰の新分野を開拓しているのだろうか、昔ながらの手筋物も恋しくなる。そんな風に思うのは私だけなのだろうか。

足だし、短競の手数では収まりそうもない。そんなわけで桂打から逆算した。33桂はしらじらしいが、実戦配置でカムフラージュしたつもり。投票失格と思っていたら①の変化に落ちた人がいてかろうじて入選になった。変化3手目32飛成、同玉、31金打、22玉、33桂以下9手解にしたのだろう。

松尾弥昇——これはいい、A。

加賀孝志——どこかで見たと思わせる作、C。

亀井陽東—暗算むき、B。

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
飛								馬	皇	一
		皇								二
金	歩									三
										四
										五
	銀									六
科	科	馬								七
歩	金			弓		弓				八
王										九

持駒 飛 銀

【第35番】 詰将棋パラダイス 83・12

1九飛①同香成、8九金、同玉、1二馬、9八玉、
8九銀、同桂成、8二金まで9手詰。

〔变化〕

作者―同手数があリスッキリせず、投票失格は覚悟の上。担当―大きいひろがりである。この形は当然大駒の活躍と

〔参考図〕

	9	8	7		5	4	3	2	1	
一		昼						昼		
二	昼		歩			飛			龍	
三	王		銀		角	爵	王			
四	馬					歩	歩		銀	
五		歩								
六										
七										
八										
九										

持駒 金銀銀

近代将棋付録

持駒 なし

不解集 25番

なるが、12馬としたい為の玉方11香の移動を19飛で図る。これに同手数変化があつては作者と同じ嘆きを発したくなる。そして収束も82金とひとつ出るだけという単純さで、作者は投票失格を覚悟したが二七八点で見事に合格しました。よかったね。手順前後(89金と19飛)成立せず。

原田清実―せい、B。

橋本孝治―ばか詰みたいな配置、期待したのに、C。福井孝幸―配置がややロコツのきらいがある、B。

この競作展では、少し前に木村氏の似たような作が載っていてピンチ。順番が悪く投票失格と思ったが、ベテラン小西氏と同じ得点で余裕の入選。短競ならではの出来事である。



【第36番】 詰将棋パラダイス 84・6

5四香、6五桂、5五香、77桂生、5六香、69桂成、8六香まで7手詰。

作者―一本道ですが、一応記録挑戦作です。

57銀直まで7手詰。
「変化」

①他の場合は同龍、同香成、69歩、同成香、57銀直まで7手駒余り。

「紛れ」

(a)79角は99に飛があり不可。
(b)78同龍は同香不成で逃れ。

作者―双玉にまでする程の作に非ずと言われそうですが、『歩取駒発生』で歩合はまだないようなので発表します。担当―一風変わった作を物にするので有名(?)な作者の双玉もの。今回の催しでも唯一の双玉作品。やはり狙いの底が浅かったのだろう。百78点はすべり込んでセーフ。

五作目にして一風変わった作というレッテルをはられた。この路線を続けたかったが、なぜか創作活動から遠ざかってしまった。アイデアが浮かばないせいもあるが、掲載し入選となつてから、出しづらくなつたせいもある。『矜持』という自分自身による「監査」という程ではないが、自分で吟味する責任が必要になつたと感じたのである。入選は解答者の投票まかせのほうだが、私にとっては気が楽だつたわけだ。

松田哲裕―一寸配置が広がりすぎたのでは、B。
奥村理也―このまともすぎる手順に双玉はどういうこと？

全く面白くない。17番のような作をこの人には期待する。C。

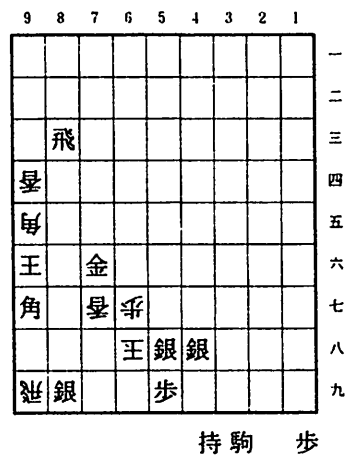
山崎泰史―何だか不思議な詰将棋、A。
前の作(17番)に佐々木康司氏の一風変わった作があつて、またまたピンチ。17番の評として、
奥村理也―お次の方(佐藤伸夫氏)が作ったのかと思った。とある。こういう順番の不運を嘆いたものだったが、今考え

(香の開王手4回、桂ハネ3回)
担当―手順は考えるところがないこの趣向をいかにとらえるか、いってみれば解答者の詰将棋感覚が試される問題である。果たして、評は二つに分かれた。

明菜命―考えることがおかしくて、何とも言えない、A。
藤井美大―香と桂の動きの面白さ。こういうの大好き、A。
佐伯治雄―これはすごい。詰将棋の手は香のみ。玉方は桂のみ。しかも三段跳ね。いうことなし、A。

落合健次―作者のお遊び。唯駒を動かしてみただけ、C。

須川卓二―こんなのは詰将棋というよりパズルだ、C。
この二人、何様のつもりやねん。本作は普通作ではないのだよ。などと私は言わない。詰将棋は遊びだし、パズルであると思つていい。なかには芸術的な作品もあるが、それもパズルの芸術と思つていい。詰将棋は、パズルだ！



【第37番】 詰将棋パラダイス 84・12

(a)88飛成①78歩合(b)7九龍、同歩成、6九歩、同と、

ると、「あの時奮起していれば」と後悔する。自分自身が、絶版になつた出版物のようで、さびしい。

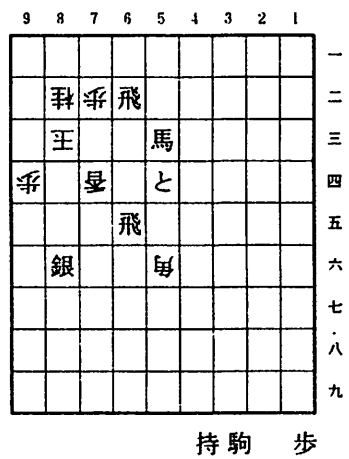
たつた五作しか入選作がないが、どの程度支持されていたのか調べてみることにした。

誤解無解ABC	得点	解答者	平均点	入選点
33番	1	2	30	78
34番	6	1	21	26
35番	0	14	36	48
36番	0	2	38	62
37番	0	4	15	45
			31	178
			178	95
			1	87
			171	171

得点は誤解・無解・Aが3点、Bが2点、Cが1点で、平均一・八で入選となる。オールBで2点だから簡単なことだ。事実トップは二・八以上の高得点をとる。Cが無い作品もある。ところが私の場合、一・八の入選ラインが大きな壁となる。一番ゲテモノと思つていた飛遠打の平均点が一番いいとは思えない話である。

ところで、しばらく創作活動を休んでいたのであるが、ミニコミ誌「詰恋会」「将」などに刺激を受けて、昔の作を改作しはじめた。それを短競とか順位戦D級戦に投稿しようと思つた。できればCの少ない作品を作つて見たいものだ。ではこのへんで。

◇清水 英幸 作 (38番〜42番)



持駒 歩

【第38番】 詰将棋パラダイス 91・12
63飛行成、8四玉、7三龍、同玉、63飛生、8四玉、7五馬、同香、8五歩、7四玉、6四とまで11手詰。

記念すべき詰パラ初入選作。といっても短編コンクールから入選は当たり前である。今は短コンがなくなつて安易に入選回数を増やすことが出来なくなつた。残念である。手順の方はさして解説すべきところはない。初手は72飛成を見て63飛行成でなければならず、3手目が同歩に82飛成を見越した龍捨てで気持ちいい。後はお馴染みの打歩打開。初入選に加えて「詰むパラ」や「KOB」の知名度が功を奏してか割合好評価だった。
作図時に中央からどちらに王様を寄せるかは人それぞれだが、私の場合左側に寄ることが多いのは、多分右利きで居飛

54との配置が玉を右へ逃がすことを暗示しているので気づけば解き易い。結果発表の筈の11月号が休刊で待ち遠しかったのも懐かしい思い出である。

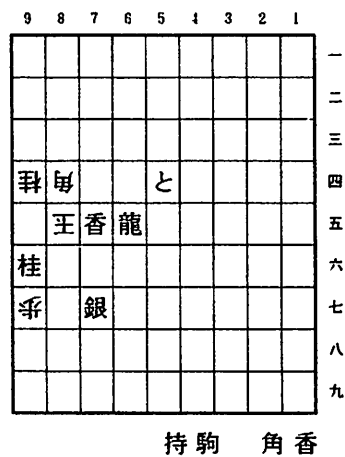


持駒 なし

【第40番】 近代将棋 (詰朗会課題作)
6一と、7二玉、63銀生、8三玉、73桂生、9三玉、83角成、同歩、9四歩、8二玉、72銀成、同玉、6三馬、8二玉、81桂成まで13手詰。

実はこの図は拙著「詰む将棋パラダイス」に収録されている。ただし頭2手を省いた11手詰として、である。
詰朗会の課題 (持駒なし) の時、その前日愛着のあった本作を「逆算できないかな」とこね繰り回していたら、何の苦もなく頭の2手が入ってしまつて啞然とした。長いこと11手が完成作と思つていたからである。
この2手が入ることで (初手62との紛れもあり) 作品にぐんと厚みが出て見違える程良くなった。

車党だからだろう。振飛車の玉を寄せる感覚があるようだ。



持駒 角 香

【第39番】 詰将棋パラダイス 92・11
7四龍、9六玉、8五龍、同玉、7四角、7五玉、7六香まで7手詰。

形としては邪魔駒消去なのだが、実は詰上りから逆算したもの。パラの7手短コンに応募したが、あまりにも紛れ不足だったので改作した。コンクールの締め切りをすでに過ぎていたので小学校に転校届けを出した。その時に「9手の偽作意が云々」と書いたため、小学校に9手詰を投稿する変な人と皆に思われたらしい。

9手の偽作意とは、初手から73香成、75合以下作意と同じように進めるもの。これは銀合をして84角にヒモがつくので4手目95玉で逃れている。また初心者なら初手から76龍、95玉、86角、96玉、95角と詰めてしまうかもしれない。(無論合駒で逃れ)

手の方は銀生・桂生が83角成が分からないと指せないという意味ですぐには気づきにくい。『近代将棋』で発表され好評だったのはうれしい。金子さんにも過分に誉めて頂いたが古い作なのでどうやって作ったかは覚えてないのが残念。



持駒 桂 桂

【第41番】 詰将棋パラダイス 91・10
3三桂、1一玉、2三桂、同角、31飛成、1二玉、1一龍、同玉、21角成まで9手詰。

易しい作である。それもその筈。本作はヤン詰発表作だ。愛着があるのと、「易しいのもいんじゃないか」という意図で選題した。(作品がない、というのが一番の理由だが) やはり「詰むパラ」に収録されている寺子屋1番の作品をあれこれいじつてたらいっつの間にか飛角図式になつていたという代物。玉方の飛が一個でも近いと初手に飛を取って余詰んでいたように記憶する。
ヤン詰だから初手に42飛成として、54角、13桂以下という

5手詰の誤解があるかと思っただが流石になかったようだ。
飛角図式というのは同一作がありそうで怖い。本作など、
あってもおかしくない図だ。同一作・類作のチェックは会合
に出すのが一番だ。山下さんが出席されるとな良い。

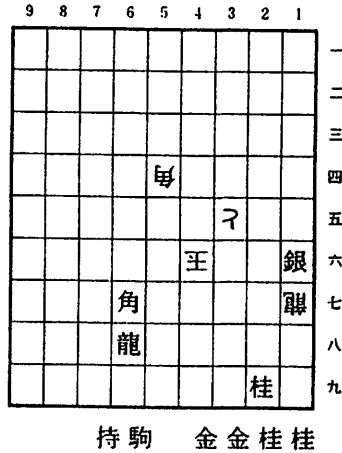


【第42番】 将 93・2

4四銀、3二玉、3四飛、同角、53番生、5四歩、
同角、4三香、3三歩、4二玉、43角成、同角、
32歩成、同玉、3四香、同角、3三歩、4二玉、
5四桂まで19手詰。

『将』に発表した作。ミニコミ誌だが、発表作ではある。
番生は打歩が見え見えだから発見しやすい。43への単純な
合駒は33歩から54桂だし、42玉と逃げるのも32角成がある。
54桂を防ぐため43銀合では、歩を叩いてから銀を取り33にぶ
ちこんで早い。よって2段合となる。
桂を合駒するとやはり33歩から34桂、54桂がある。つい最

◇ 富樫 昌利 作 (43番~47番)



【第43番】 近代将棋 91・1 (塚田賞)

5六金①3六玉、2八桂、同龍、3八龍②同龍、
(a) 4八桂、同龍、5八角、同龍、3七金まで11手詰。

(変化)

①47玉、37金、同龍、57龍以下。
②37金、58角、26玉、28龍以下。
③37他合、27金、同龍、同龍、47玉、37龍まで。

(紛れ)

(a) 58角、47飛、48桂、26玉、17金、同飛成で逃れ。

例の古作の3手詰から「新扇詰」まで百局の有名な作品が収

近分かったのだが、6手目は香でもいいようだ。この非限定
は大きなキズで、ここに出すのもやめようかと思ったが、締
め切りの関係もあって収録してしまった。

合駒を手に入れるとあつという間に終わってしまふし、か
なりの駒が不動で「杵」のような印象をうける。番生の意味
づけも51に利かす意味もあって意外性がない。先の非限定が
なくとも、どうも欠点ばかりが目についてパラに投稿する気
になれなかった。無論投稿しても載らなかつただろうが。

そのかわり詰朗会で課題が5×5の時に、この図を一間寄
せて無理矢理5×5に直して出してしまった。作家としては
あまり誉められた行為ではない。

なお、作品発表時のPNは宇坪梅子を使っている。並べ替
えると「ツメコウボウ」となる意で、今後也使おうと思う。

詰将棋創作を趣味にする人たちは、ある人は長編作家、ま
たある人は短編、不成を専門にしたり曲詰だったり得意分
野は違っているのだから、物凄い実力者から初心者までと
そのレベルもビラミッド式に異なっていると思う。雑誌など
で入選回数が多い人は山の上の方の人達であつて、なかなか
入選できない人は裾野に広がる多数派だろう。指将棋だつて
級位者の方が多いのだ。

自分は裾野の方を自認しているから、何とかその人達に詰
将棋創作の楽しさが分かるようにして頂きたいと思う。実力
者にはヤン詰は通過点かも知れないが、創作の場として見て
もヤン詰をもっと拡張して、重要視してほしい。

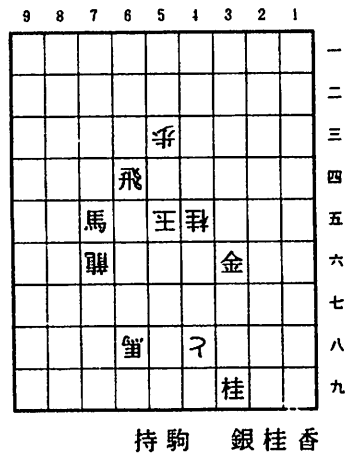
私が創作で理想とする手数は、実は7手や9手なのだ。手
数が二桁になると途端に解く気が起こらなくなる人達は、将
棋の有段者にも結構多い。自分もそんな一人である。

められており、初心者にも分かりやすく書かれている。この
本のお陰で詰将棋の歴史の概略も知ることができた。その中
に二代伊藤宗印「将棋勇略」第75番が紹介されている。龍を
龍にぶつける強烈な初手は印象に残っていたらしい。

いつからか詰将棋を作ろうと考えようになっていたが、
ある日その手が脳裏に蘇り、一つ真似してみようという気が
起きた。どうせならぶつける前に龍を呼んできて、更に龍
を動かしたら、そうして出来上がったのが本作。動機は全
くの物真似だが、別の作品に仕上がったと思っっている。

模倣は創作の第一歩だと思ふ。私はときどき他作のいい手
を盗む。本作はそのまま頂戴したものだが、他に方向を変え
たり、駒の種類を変えたり、意味づけを変えてみたりして手
を借りることもある。詰将棋の著作権が話題になり、類作指
摘で各誌面が賑わいつつある昨今、こうした創作態度はや
り非難されるのだろうか。

本作は初期の作品で、玉方龍の動きや、手順前後を幸運に
逃れている点等満足している。発表の後で同様の捨駒パター
ンの作品が既にあると知ったときには少なからずショックを
受けたが、担当者の兼井氏が好意的に評価してくれたことで
大いに救われ、また励みになった。



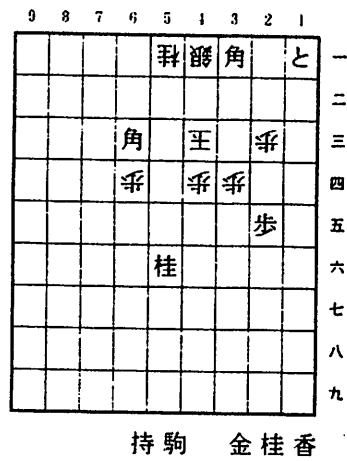
【第44番】 近代将棋 92・11
5九香①5八香、同香、同と、6七桂、同龍、
6六銀、同龍、5六香、同龍、4七桂、同龍、
6五馬まで13手詰。

〔変化〕

①同と、44銀、56玉、48桂まで。
②同馬(57合)、46銀、56玉、45銀、55玉、47桂打以下。

本作は5作中最も新しい作品で、少しは構成というものに
気を配るようになってからのものである。焦点の捨駒をいろ
いろ弄っているうちに、龍の4連続移動の9手詰ができ、結
果的に前作と似たような手順になった。ただ、きれいだけど
少し弱いかなというのが実感だった。

私は逆算というものが不得手で、未だに曲詰が作れない。
煙詰を作る人は天才ではないかと思う。ただ、作品全体の



【第45番】 詰将棋パラダイス 92・1 半期賞
5四金、3二玉(a)3三香、同玉(b)4五桂①同歩、
4四金、3二玉、54角成②4三銀(c)同馬、同桂、
3三金、同玉、2二銀、3二玉、4四桂まで17手詰。

〔変化〕

①32玉、44桂、31玉、41角成、22玉、33桂成以下。
②43桂打、33金、31玉、64馬、42合、32歩以下。

〔紛れ〕

(a) 44桂、31玉、41角成、同玉、32銀、42玉、43歩、33玉、
45桂、22玉、21銀成、13玉で逃れ。
(b) 44金、32玉、54角成、43歩で逃れ。
(c) 43同金、31玉、32銀、22玉で逃れ。

歩合回避の桂捨てが狙いで、歩をどけた所に金を寄る味は

バランスを考えるようになると、普通作を作る場合にも逆算
という手法がある程度必要になってくる。本作、もう少しな
んとかならないかと捻り出したのが、序の香打香合である。

逆算の主な目的としては

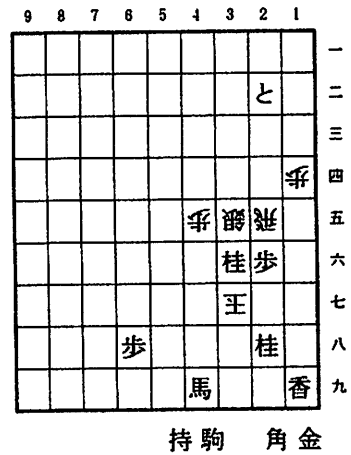
- (1) 形や条件を整えるため
 - (2) 主眼手が剥き出しになるのを防ぐため
 - (3) 変化や紛れに厚みをもたせるため
- などが挙げられるだろうか。私の場合(1)を考えることはほと
んど無い。(2)が目的であるとき、伏線的な手が入れば最高だ
が、俗手や自然な手が効果的なこともあるようだ。(3)は気を
つけないと墓穴を掘る。検討力に自信がないので、紛れより
も変化が主体になる。持駒を見て、合駒で入手できないかな
どよく考える。

本作の逆算は(3)にあたるが、効果の程は作者には分からな
い。ただ味は悪くなく、この4手で作品の価値が高まったと
思っている。配置の面でもうまうまいったと感じ、危なそうな
筋を追ってみて、どうやら大丈夫らしいと判断したとき、完
成という言葉が頭をよぎった。作品が出来ても、いつも何か
しら引かかる感じが残るのだが、本作についてはなぜか完
成したと思えた。不動玉と全手順完全限定が密かな主張。

ちょっといいかなと思う。いきなり持駒を使い切ってしまう
順に少しは抵抗感があるかなとは思っていたが、考えていた
以上に無解が多く、当然と思っていた角成りを心理手と評さ
れたのには吃驚した。詰将棋は解らないものだ。

本作実は投稿図に余詰があった。何かの会合の後の喫茶店
でのこと、何喰わぬ顔で出題したところ山村さんに潰され、
おまけに修正のヒントまで戴いた。投稿から1年近く経って
おり、発表までの期間の長さにうんざりしていたのだが、こ
のときばかりは助かったと思った。もし山村さんに見て貰わ
なかったらと思うと、冷汗が流れる。

棋力のない者にとって、検討ほど厄介なものはない。変化
は時間をかければなんとかなるが、紛れは調べきれぬもので
はない。理論的には全ての順を王手のかからない局面まで追
えばよいのだろうが、実際にはある局面で打ち切らないと、
とても詰将棋など作れない。運良くその後も何作か詰パラの
検討者に救われているが、不完全返送は本当に有難い制度だ。
既発表の作であっても、作家は常に不完全の指摘に脅えて
いる。今まで完全として通っていた名作を次々に機械が潰し
ている。機械が検討を引き受けてくれる時代も遠くはないの
かも知れない。嬉しいような寂しいような複雑な気分だ。



- 【第46番】 近代将棋 91・2
- (a) 6四角①5五桂、同角、4六銀、3八金、2六玉、4四角、3五飛、2七金、2五玉、2六金②同玉、3五角、同玉、2五飛、同玉、1六馬、3五玉、2七桂まで19手詰。

- 〔変化〕
- ①47玉、58金、56玉、38馬、66玉、67金まで。
①55歩、同角、46銀、48金、28玉、46角、同歩、38金、19玉、28銀、18玉、19歩以下。
②34玉、35金、43玉、53飛、42玉、34桂、41玉、85馬まで。
- 〔紛れ〕
- (a) 73角、47玉、58金、56玉、38馬、66玉、67金、75玉で逃れ。

『詰将棋の創り方』（伊藤果著・日東書院）という画期的なタイトルが目をつけた。当時私は詰将棋はプロが作るもの、と思い込んでいたのだ。任意式や逆算式など様々な創作法が、

2五桂、同桂、24角成まで21手詰。

- 〔変化〕
- ①33玉、77角、43玉、61角、52合、35桂まで。
①他合は36桂、33玉、77角、……、44金まで。
②43玉、42角成、同玉、32飛、41玉、31と、51玉、63桂、61玉、73桂まで。
③34銀（金）、同飛、同桂、35銀、33玉、34金まで。

〔紛れ〕

- (a) 36桂、33玉、77角、43玉、61角、52合、44金、同飛で逃れ。

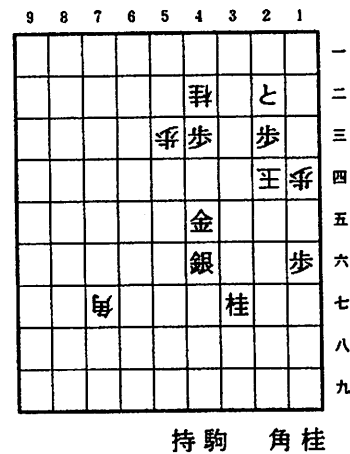
デビュー作。詰朗会作品展で初めて自作が活字になる喜びを味わった5ヶ月後に、近代将棋と詰将棋パラダイスではほぼ同時に初入選を果たすことになる。翌年の元旦に結果稿を載せたパラが届いた。柴田氏の解説と各氏の短評を、呆れる程度度も繰り返し読んだ。最高の正月を迎えたわけだが、この年、喜びは更に大きいものへと膨らんでいった。

本作は、三代伊藤宗看「将棋無双」第10番の模倣である。初めて見る遠打に感動し、飛車を角に代えて表現しようとしたら飛車の中合が現れ、これはものになると思った。原図は14歩16歩43歩の3枚を省き、1筋右に寄せて②の変化が作意となっていた。序盤をいじって課題に合うようにし、詰朗会に持っていって、案の定収束が不評を買った。

工房では柳田氏を師匠と呼ぶ人が多い。私はフェアリーカラオケが出来ない為、まだ弟子入りを果たしていないが、あらゆる面で氏に学ぶところは大きい。詰朗会の席上、氏は私の目の前で「これ面白いね。」と言いつつ原図をあっという間に解き、変化の34飛を指して、「これいい手だね。これ

私のような入門者にも分かるように紹介されていた。何より自分にも作れるかも知れない、作ってみようと思ったことが大きかった。詰将棋作家の知り合いのなかった私にとって、著者の伊藤果プロは師である勝ち手に思っている。その師が塚田賞選考の中で本作の初手を褒めてくれた。服部氏の過大な解説と共に嬉しい思い出だ。

限定打に中合は好きなテーマ。初形の乱れや②の変同、駒の利きの重複感など欠点はいろいろあるが、中盤に金の消去が旨く入り、手順は気に入っている。考えてみれば手順の半分は応手なのだから、合駒など玉方に読みのいる手を入れれば、密度はぐっと高くなるはずだ。良くも悪くも最も私らしい作品かも知れない。



- 【第47番】 詰将棋パラダイス 90・10 看寿賞
- 3五銀、3三玉、2四銀、同玉、6八角①4六飛、(a)同角、3三玉、2四角②同玉、4四飛③3四角、同飛、同桂、4二角、3三桂、3六桂、1三玉、

打ちたいなあー、打たせて（作意にして）よ。」と言った。その言葉が耳に残った。

仕上げは43歩の発見だった。限定打と中合による持駒交換を含む10手で、42桂を一つ飛ばせる手順になった。駄作が詰将棋に変身したのだ。当時はそれでも満足せず、68角のリフレインを考えていたのだから呆れる。また玉を33に置き、攻方35銀を置いて2手伸ばし、序の銀消去の味を増す手もあったが、くどくなるような気がしてやめた。

今のところ私の代表作である。



◆松田圭市作 (48～50番)

「うちあけ花火」

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
		マ					飛		五
		昇					昇		六
				王		昇			七
	角			角					八
			歩	龍					九

持駒 なし

【第48番】詰将棋。ラダイス 92・9
5五飛、5六香、1四角、6七玉、5八龍、同香
23角成まで7手詰。

今宵平塚七夕祭り、ドカーンとナツた瞬間に、想いをうちあけると恋が成就するとか……。

なかなかロマンチックでしょう。

詰バラデビューを期して命名を凝りまくりました。

が、作家生命は「せんこう花火」かもしれない。グスン。

3手目4九角以下の余詰を消すために、2六、3七の二枚の桂、7五が必要です。興味のある方は調べてみて下さい。

3手目4九角以下の余詰を消すために、2六、3七の二枚桂、7五とが必要です。興味のある方は調べてみて下さい。

[illegible]

持駒 金桂桂香

【第50番】 詰将棋パラダイス 92・9
 1 四金、1 二玉、2 四桂、同 桂、1 三金、同 玉、
 1 五香、1 四角、2 五桂、2 二玉、3 三銀、2 一玉、
 3 二金、同 角、2 二銀、同 玉、13 香成、2 一玉、
 33 桂生まで19手詰。

この作品の狙いは、数少ないといわれる桂香の清涼詰です。飛車を犠牲にしての14金引13金。ぐいと捨てる味がいいでしょう。「台駒を動かす」+αは何か?と考えると、思いついたのが「角を逆用してのツルシ桂」でした。

僕はホントろくでもない作家なんです、この作品は「歴史」はムリとしても解答者の「記憶」に残ってくれたらいいなーと思っています。

加藤俊夫――まことに可愛らしい作だが、信じ難い程旨く出来ている。

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								と
				と				
					王			
						歩		
				馬				
				桂			歩	

持駒 飛金金

【第49番】 将棋ジャーナル 91・7
4 三金、2 二玉、3 二金、同 玉、4 二飛、2 三玉、
12 飛成、3 三玉、4 三金、同 玉、4 二龍まで11手詰。

それそれ初手はそれがスジってものだ。そこでスツとすべ
らす。おっと、そっちへ逃げちゃいけないー、そいつは頭から
ドン。初手とラストの捨て駒が43金^りふれいん^{って}やつ
でー。46桂が動かねー^{って}のが気に入ってんだ。イジワルだ
から。

伊藤果流「王様だけが動く」作図ですが、いかがなものでしょう。

「いつの日か松田流『きれいな非実戦型』と言わせたいのですが……」。

≪松田圭市 プロフィール≫

ムツゴロー王国のある超田舎から、湘南平塚CITYに出してきた僕は友達がいまませんでした。さみしいので将棋道場に通っているうちに友達ができましたが、友達どうして勝った負けたを繰り返していてもつまりません。なにしろ向上心がないのです。

そこでコッソリ詰将棋を創り、**“自慢しよう”**、**“みせびらかしてやらふ”**と僕は考えました。

初めは仲良くやっていたのですが、僕だけが雑誌に載ったり、KOBLOに書いたり、フェアリーカラオケなんかやっていううちに友達は去って行ってしまいました。

僕はまたひとりぼっちです。

僕は詰将棋創作という邪悪な（注）行動を慎みました。と、その時詰バラ初登場首位。

「新人離れした旨さ。今後期待大。」

「ベテランのような駒捌き。すごい新人が現われた。」

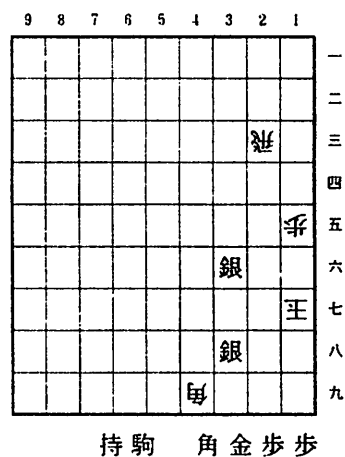
えーい たまわアクマ！ 俺はタマシイを売らんぞ。
絶対、ゼツタ……。

To be or not to be, that is a question

(注) ひねくれていて、わるいようす。

(小学館新選国語辞典新版・70)

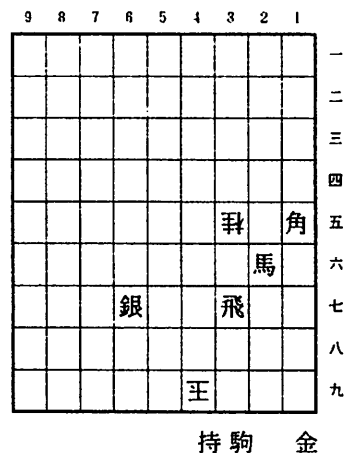
◇三谷 郁夫 作 (51番〜55番)



【第51番】 将棋世界 77・12
5三角、1八玉、1九歩、同玉、64角成、1八玉、
1九歩、1七玉、5三馬、同飛、2七金まで11手詰。

おもいでの初入選作。当時の私の仕事は、お酒と音楽を売る店で演奏することでした。カラオケがこの世に普及する前のことです。簡単なトリオ編成でジャズから演歌までは幅広く聴かせるその店は、聴きに来る人、歌いに来る人、女性の尻を追いかける人で繁盛していました。そんな中で、私と将棋を指すのが目的のひとつというお客さんが何人もいました。ムードのある店内の一隅に将棋盤を囲む異質な空間が存在したのには心の広いマスターとママのおかげと感謝しています。本作が入選したとき、お客さんのひとりが将棋世界を持ってきた「イクオちゃんやったね。これからは大先生だ。」

とおおげさに喜んでくれました。楽しい思い出です。さて、作品。「遠打でしかも取られちゃう所にわざわざ打つなんてすごい手を発明したせい！」というのが当時の私の考え。昔からある手筋だなんてちっとも知りませんでした。二上九段「今月の優秀作。奇妙な感覚に一票を投じた次第。将来のはげみとならんことを祈る。」しかし、九段の励ましをよそに、すぐに十年間ほど冬眠してしまっただけです。



【第52番】 将棋世界 89・9
5八銀、同玉、5九金、同玉、7七飛、6八玉、
5九馬まで7手詰。

冬眠明けの作品。やはり将棋世界へ投稿。飛車と馬で斜めに玉を挟んだこの詰め上がりは大好きな形のひとつ。とどめの馬を何で支えるかでいろいろな作品に逆算ができます。本作は支えを角にすることで大駒の爽快さを出すことができた

だくことができました。

【第53番】 近代将棋 90・10
37飛打、1八玉、2七銀、2八玉、3八飛、2七玉、
1八銀、同と、2八銀、同と寄、37飛上、1八玉、
1六飛まで13手詰。

詰将棋を作ってみようなどと思ったのは、たぶん塚田賞の選評で絶賛されている作品を見て、自分も人にほめてもらいたいと思ったのが動機のひとつだと思います。だから本作が塚田賞を獲得したことは、詰将棋をやっている人にはうれしかった事のひとつです。

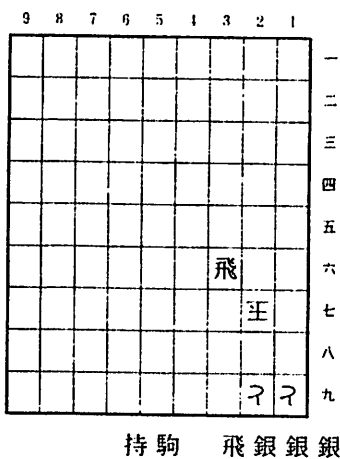
そして、受賞したことを大いに自慢したのですが、本当に理解して「凄い」と言ってくれる人が私のまわりにいなかった。詰将棋をやっている人ばかりだったことでした。

さて、この作品、配置は簡素だし絶妙手の類はなにひとつないのに、妙に詰ましくいところがあり、パズルのような感じで気に入っています。

初形から玉を1八へ移し、持駒に銀を一枚追加して十五手詰になります。「対子図式で持駒も趣向っぽくて、私なら絶対そっちを選ぶ」と、某氏。しかし、易しそうで解図欲が湧きそうな本図を発表。「やさしそうで、ちょっとだけむずかしい。」というのが私の目指す路線のようです。

本当はすごくやさしいのに「むずかしそう」と思われがちな私の人間像を何とかしたいもんだ……。

【第54番】 近代将棋 91・7
2五桂、2四玉、3四飛、2五玉、3八飛、2六玉、
1七銀、同玉、1八香、2七玉、16角成まで11手詰。



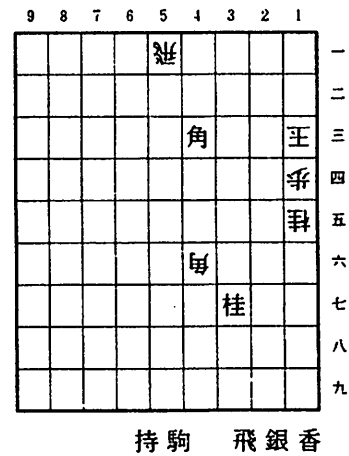
この解説、嬉しくて何百回読んだことでしょうか。中田章道五段って、何ていい人なんだろう……。幸運にも第一回将棋世界年間最優秀の選考で佳作賞をいた

思います。また、銀を邪魔駒とは思えないように配置できたのが自慢。7手詰としては結構難解だったのでは？

自信があつたせいか、投稿ハガキをポストに入れた瞬間から掲載の日が待ちどおしくしてしかたがなくな、毎月将棋世界誌の発売日が近づくとそわそわしていました。しかし、何ヶ月経っても掲載されず、没にされたという選者をうらみ、まったく中田章道五段って何てやつだと、将棋世界の購読もやめてしまいました。それから更に数ヶ月が過ぎ、立読みで久々に将棋世界をひろげたのは、本作の解答発表の月。と、いうわけで、掲載された出題図を見てニンマリするという、詰将棋作家の大切な儀式を欠いてしまったのでした。

中田章道五段「ねらい表現方法とともに完璧で久々に見る七手詰の名作です。」

この解説、嬉しくて何百回読んだことでしょうか。中田章道五段って、何ていい人なんだろう……。幸運にも第一回将棋世界年間最優秀の選考で佳作賞をいた



東京詰将棋工場の例会に出るたびに感じることは、みんな詰将棋に対してとても真剣に取り組んでいるということ。

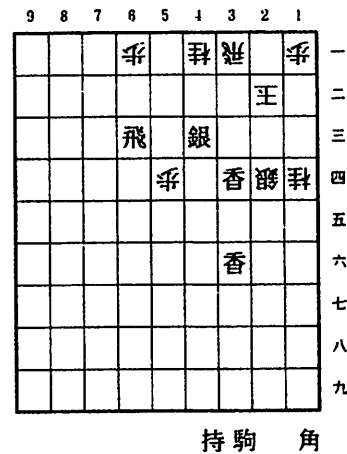
「作らず、解けず」で、ただ遊んでいるような私は頭が下がる思い。聖人の村に俗人がひとり迷い込んだような気さえしてきます。だからせめてこの作品集は頑張ろうと、私のベスト5を出品しました。(全部で十作もないくせにベスト5などよく言えたもんだ……) もう、他から作品集の誘いがあったも作品がありません。計らずもこれが私の遺作集となってしまうようです。

2五地点は角が成るか飛を打つ場所という先入観がはたります。初手2五桂から読んだ人は私の知る限り当時小学校4年の私の息子(超初心者)だけです。3四飛も跳ねたばかりの桂を取られ上部へ抜けられるので指しにくい。2五桂も3四飛も詰将棋らしきのない俗手。これが本筋なわけではないと読みを打ち切ると5手目の3八飛は永久に発見できないことになります。しかも、初手からの2二銀や3三飛がけっ

でも自分の作品がかわいいから、親バカ作家の私は正直に言って本作も上出来だと思っています。欲を言えば桂中台の意味づけを単に2手のばしに限定したかったのですが、ちょっとむずかしいようです。

『公募ガイド』という月刊誌を購読し始めて一年近く経ちへたな鉄砲も何とやらで、コピーライターコンクールや作詞・作曲のジャンルで賞をいただくことができました。もともとチャレンジ精神のない私がここまで積極的に行動し始めたのも詰将棋の世界で思いもよらぬ結果を得たことがバネになったようです。これから先、この愛する詰将棋というものに対して、自分がどうかかわっていきけるか、根性も才能もない私としては、せめて細くとも、長く何より心から楽しんで接していけるようにと思っています。

う手が続く。我ながらすごい心理作ができたものと同様こんでいます。でも実は、お気に入りの詰め上がりから逆算したら偶然こうなってしまった、という事を正直に告白しておきます。塚田賞まで頂けて本当に私は三國一の幸せモンです。



【第55番】 詰将棋。パライス 91・10
32香成、1二玉、4五角①3四桂、同角、1三玉、23角成、同玉、1五桂、同銀、34銀生、3二玉、33銀生、2一玉、32銀生、同飛、23飛成、2二飛、32香成まで19手詰。

〔変化〕
①34歩合、同角、13玉、23角成、同玉、34銀、32玉、43飛成、21玉、22歩、同玉、23龍まで。

バラ初入選作。銀不成3回の9手詰から出発して創作。駒数は増えてしまし、変同も消せなかったし、私に中編は無理のようです。それでも平気で発表してしまうのは、不出来

「いくらツンでも詰まないの！」



◇柳田 明 作 (56番〜60番)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					歩	馬	王	龍	一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛 銀 桂

【第56番】 詰将棋パラダイス 85・4

- 1四銀、同 龍、同 角(1)1二玉、2四桂、1三玉、2三飛(2)1四玉、1五飛、同 玉、32桂成、4二歩、2五金、1六玉、2六金、1七玉、2七金、1八玉、2八金、1九玉、2九金まで21手詰。

(変化)

- (1)34玉は、36飛、35合駒、24飛以下、
- (1)14同香は、25飛、13玉、24馬、22玉、23飛、31玉、43桂、同金、21飛成、同玉、33馬以下。
- (2)23同金は、12桂成、同玉、23角成以下。

変化煩雑というのではなく、何か意表をつく構想を盛り込んで、解けなかった人に「やられた」と思わせるような難解作を狙ってみた。上部に脱出させるような3手目1四同角に

【第57番】 詰将棋パラダイス 84・7

- 7四桂(1)同 歩、7三角(2)9二玉、9三銀、同 桂、8四桂、同 歩、8三銀、同 玉、84角成、8二玉、8三歩、8一玉、72飛成、同 金、8二銀、同 金、同歩成、同 玉、5五角、64桂合、同 角、同 歩、9四桂、7二玉、7三金、7一玉、82桂成、6一玉、6二金まで31手詰。

(変化)

- (1)92玉は、93銀、同桂、81角、同玉、82銀以下。
- (2)73同玉は、85桂、82玉、73銀、同桂、同桂成、同玉、85桂、82玉、73銀以下。

前題とは反対に、まず形を決めてそこから手順を見つけていく、いわゆる「正算式」の創作法。端の歩こそ無いが誠に端正な美濃囲い図式である。初手は端から9四桂と打ちたくなるが同香で詰まない。正解は7四桂で、続いて7三から角を打つか銀を打つかも迷う所だが、7三角から8四角成と活用する順に気が付けば道は開ける。以下飛車も切り、6六の角も桂合入手に活用して、次々と捌けて不動駒2枚のきれいな詰め上がりとなる。

初形が美濃囲いという詰将棋は沢山あるが、その中でも本作は駒捌きが良い方だと思う。初形に目障りな駒も無く、実戦型としては自然に仕上がった作品。

【第58番】 将棋ジャーナル 84・1

- 6八銀、4八玉、4九香、3九玉、4六香、4八玉、5九銀、3九玉、5八銀、4八玉、4九銀、3九玉、3八銀(1)59銀合、同 飛、4八玉、4九銀、3九玉、48銀打、2九玉、3八銀まで21手詰。

始まり、2四桂、2三飛と平然と角を取らせてしまい、ついには1五飛と捨てて上部へ脱出させる。この一連の構想が見抜けないと解くのに手こずるであろう。
自分では後半の金引き手順の遊びが気に入らず仲々発表しなかったが、創棋会の課題作で最終手金引きというテーマがあったので発表した。ところが最近になって詰工房にひょっこり現れた般若一族の黒田氏に本作をお見せしたら、想像していた以上におほめをいただき、今回ここに収録した次第。
発表当時の短評から
駒井信久「上部へ逃げられて詰まないという強い錯覚に見舞われて苦労した。」
馬場雅典「4、8手目の変化を読みきるのに一苦労。見た目以上に手強い作品だ。」
阿部昭男「序の変化が難しい上に、2三飛から1五飛は意表をつかれた。」
さて今回解いた人のご感想は？

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
王	桂	と	飛						一
	王	銀	銀						二
	王	銀	銀						三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 角 銀 銀 桂 桂

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 香

- (1)48玉は、37銀、58玉、49角まで。

(変化)

銀の鋸引き趣向のミニ版である。まずは3五角の利きが邪魔なので一旦は6八銀と開王手し、持駒の香を投入して利きを止める。これで開王手が自由になり、59・58・49・38と玉の背後に回り込み変化(1)の順を見るが、玉方も5九銀中合で抵抗する。発表時、約半数の解答者がこれを見落としたり。本作、21手の中に一度も捨駒が無い。また詰め上がりも重複感があって(なんと初形から2枚も駒数が増える!)一部で不評であったが、私個人としては気にならないどころか、実はけっこう気に入っている。

発表当時の短評から
鈴木悦郎「面白い銀の動き。」
小松裕幸「危うく5九銀合を見落とすところであった。」
亀井陽東「意表をつく銀合のタイミング。」

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				王	香				一
			と	角	と				二
			と	桂	と				三
			零						四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 銀 香 香

【第59番】 詰将棋。パラダイス 86・5

4八銀(1)2八玉、3七銀、同玉、3九香、4七玉、
4八銀、5六玉、5七銀、同玉、5九香、6六玉、
7六金、同玉、7九香、6五玉、8五龍、同金、
6四と、6六玉、6五と、6七玉、85角成、6八玉、
6七馬、同玉、5八金、5六玉、5七金、6五玉、
5六金、5四玉、5五金、4三玉、5四金、4二玉、
41桂成、同玉、5一と、同玉、5二歩、4一玉、
4二歩、同玉、5三金、4一玉、51歩成、同玉、
5二金まで49手詰。

〔変化〕

(1)49玉は、29飛、38玉、39飛、27玉、37飛、18玉、19香、
同玉、28銀、同玉、39銀、37玉、38龍、26玉、29香以下。

こんな詰め上がりをやってみよう、という誠に以て単純な
発想による逆算の作品。最後が金のズリ押し手順になるのは

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				王	香				一
				角	香				二
				歩	金	歩	香		三
				角	香				四
				香	龍	香			五
				香					六
				香					七
				香					八
				香					九

持駒 歩 歩 歩 歩 歩

【第60番】 近代将棋 83・7

7四角(1)3一玉、32角成、同玉、33歩成、3一玉、
3二と、同玉、3五龍(2)34角合、同龍、同桂、
2三角(3)2二玉、34角生、1一玉、2三桂、2二玉、
31桂成、同玉、3二歩、同玉、23角生、2二玉、
45角生、1一玉、2三桂、2二玉、31桂成、同玉、
3二歩、同玉、23角生、2二玉、56角生、1一玉、
2三桂、2二玉、31桂成、同玉、3二歩、同玉、
23角生、2二玉、67角成、1一玉、2三桂、2二玉、
31桂成、同玉、3二歩、同玉、2三馬、3一玉、
にて途中図――

〔変化〕

(1)52合は、同角成左、同金、同角成、同玉、53歩成以下。
(2)桂合は売り切れ。他合は、同龍以下簡単。
(3)31玉は、32歩、22玉、34角成、11玉、23桂、22玉、31桂成
11玉、21成桂まで。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				王					一
				金					二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 香 香 香

〔詰上り図〕

当然だが、詰上り形が限定できないのは困るので(6一玉や
4一玉もある)こんな収束をまず考えた。ついでに序盤で香
を3枚打たせてみよう(つまり不動駒無しになる訳)と考え
る所までは普通の発想だが、「実際に打たせてしまうのだか
らあきれ」-とは発表時の飯尾晃氏の解説。良くも悪くも私
らしい作品ではないだろうか。

17手目8五龍と捨ててからと金を引いていって8五角成、
6七馬と活用するあたりが本作の山場。この辺りは逆算と正
算を併用して作っていた部分で、6七馬捨てが成立するを
発見した時には思わず歓喜の声がこぼれ出たものだ。

発表当時の短評から

森 美憲「絶妙の詰め上がり。」

和田裕之「これはすごいの一語。これでも逆算なんですか。」

塚越良美「8五龍、6七馬がハデな手。全体は金追い趣向。」

駒井信久「強引な逆算という感じではないが、随分難しい変
化を盛り込むものだ。」

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				王	香				一
				角	香				二
				歩	金	馬	香		三
				角	歩	金	香		四
				香		香			五
				香					六
				香					七
				香					八
				香					九

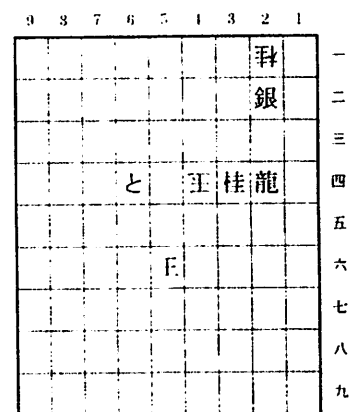
持駒 歩

〔途中図〕

途中図以下 41角成、同金、3二歩、同金、
同馬、同玉、33金打、4一玉、4二金、同玉、
53歩成、3一玉、3三香、4一玉、32香成、同玉、
4三金、4一玉、4二金まで73手詰。

他書との重複を避けたので必ずしも代表作ではないが、長
編を一局。それも最も趣向詰らしいものを選んでみた。角不
成による斜め桂の連取り趣向であるが、全体としては見慣れ
たもので、わずかにワンサイクルごとに入手した桂を2三桂
、3一桂成と玉の振り戻しに使う所だけが珍しいくらいか。
独創性の高さを主張するA型作品がある一方で、こんな作
り方案しみ方もあるというB型作品の典型がこれ。創作の際
には色々ポイントがあって、序中終のメリハリをつける、余
計な駒を排して配置を軽くする、最後はスッキリと捌けるよ
うに構成する等が挙げられる。本作などはその教科書的な作
り方で、最後はきれいに捌けて気持ちのよい詰上り。

◇山下 雅博 作 (61番〜65番)

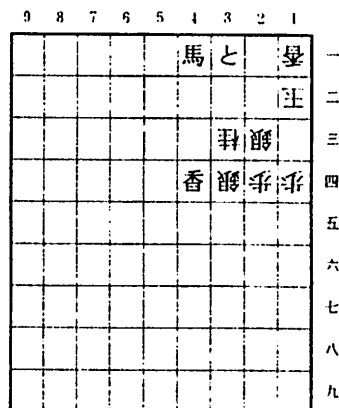


持駒 桂 歩

【第61番】 将棋世界 92・9
3三銀、同 桂、42桂成、31角合、1五歩、同 桂、
3六桂まで7手詰。

本作は山田嘉則氏との合作です。
5手目の15歩が、相手玉を詰める。為でなく、純粋な受けの手である点が狙いで、正に収玉ならではないという手順です。かしこ詰での作例を、私は一寸思い出すことができせん。
打歩に収玉をミックスした、新しいのかそうでないのかよくわからない奇妙な味。とは発表時の若島正氏の解説ですが、何故か今月の優秀作でもあるんです。詰棋友間での評判もてんでバラバラ。今回解いた人は、どう感じられるでしょう。

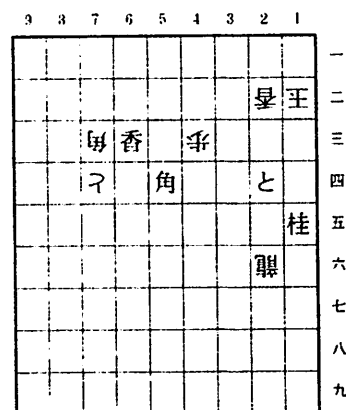
のは止にラッキーの一言、いつもこんな風にいけば嬉しいんですけどね。
発表時の短評を幾つか……
下舞斜太「途中どうやら飛生らしいとわかった時はビックリ、須川卓一「不成しにくい局面での不成が続くのでマイッタ。
収束も素晴らしい。



持駒 金 4 桂 2

【第63番】 詰将棋パラダイス 89・4
2二金①同 玉、2一と、同 玉、1三桂②1二玉、
2二金、1三玉、2三金、同 銀、2二銀、同 玉、
3四桂、同 銀、3二金、2三玉、2一金、1二玉、
22金打、1三玉、2三金、同 銀、3一馬、1二玉、
2二馬まで25手詰。
(変化)

①13玉は23金、同銀、22銀、同玉、32と、同銀、同馬、同玉、
43銀以下。
②13同香は32金、同銀、31金、12玉、22金、同玉、32馬、



持駒 飛

【第62番】 詰将棋パラダイス 92・9
23桂成、同 桂、1三飛、2二玉、23飛生、3一玉、
3四香、33歩合、同飛生、4一玉、43飛生①5一玉、
5二歩、同 玉、5三歩、5一玉、62香成、同 角、
4一飛、同 玉、63角成、5一玉、5二馬まで23手詰。
(変化)
(1)42歩合は32香成、同玉、33飛成以下。
(2)42金合は同飛成、同玉、43金以下。

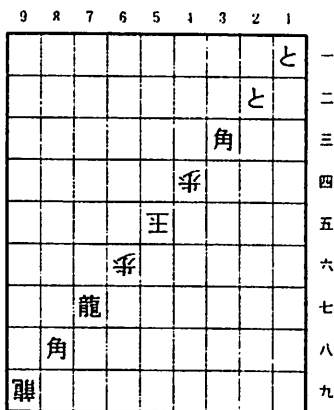
詰方の飛車の連続生といえ、追い回しの長手数モノによく見られる、縦と横に交互に軌跡を描くものが主流のように思います。移動距離は2マスで、玉が斜めに逃げるのが基本形ってやつですね。
本作は横に1マスずつ動くのが狙いで、構造上玉の移動も横型なのは、少し新鮮味があるんじゃないかと思えます。こういう形での表現は今迄ないんじゃないか、といった感じの発想から生まれた作品ですが、33歩合のアクセントがついた

12玉、23銀、同銀、21馬まで。

端正な実戦型を目指したもので、21と13桂の手順を核にした正算モノです。収束も創ったというより、出来ていたっていうのが本場の所です。思いがけずキレイに仕上がりました。

本作、作意自体は手筋モノであるが、発表時の評価は今一つだったんですが、実は結構お気に入り作品なんです。1×1にまとまった構図といい、類例の中でも完成度の高さでは抜群じゃないかって思ってるんですが……でも、やっぱり観バカなんじゃないか？
発表時の短評から……。

伊東政宣「22銀から34桂の、『つなぎ』の部分がスムーズで好印象を与える。



持駒 銀

【第64番】 詰棋めいと 第7号
6六龍、4五玉、44角成、同 玉、5五龍、3四玉、

「ごめんネ♡」と弘法大師は言った…って、それは謝りぢゃ!



9	8	7	6	5	4	3	2	1
と	驥	零	香	香	零			
	角	角	と	科				
香	金	香	銀	王				
	香	香	歩	香				
銀	金	銀	歩	銀				

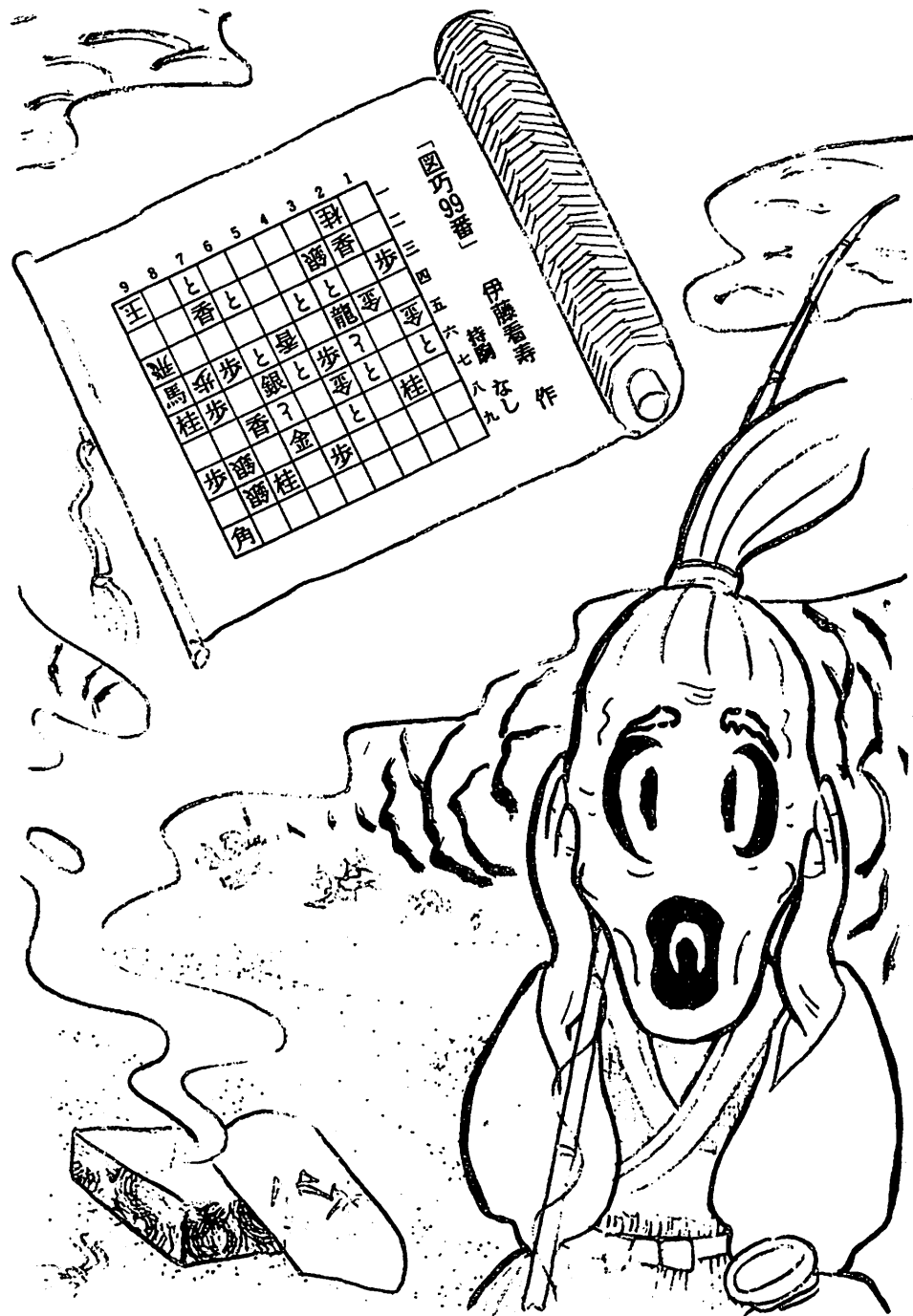
持駒 なし

「古今趣向詰将棋名作選」——私はこの本を何度読み返したことでしようか。飛角図式、一色図式等の盤面趣向から、裸玉、煙詰に迄及ぶ素晴らしい作品群——いつしか私は、こういう作品を創りたいと思うようになっていました……。さて本作の盤面斜一線は、幸運にも完全作第一号との事。詰上りは何作かあるのに、初形条件の(完全作の)作例がなかったなんて……不思議としか言いようがありません。将来「続・趣向詰将棋名作選」が編纂される時、私の作品がその末席に加わる——それが私のささやかな夢なんです。

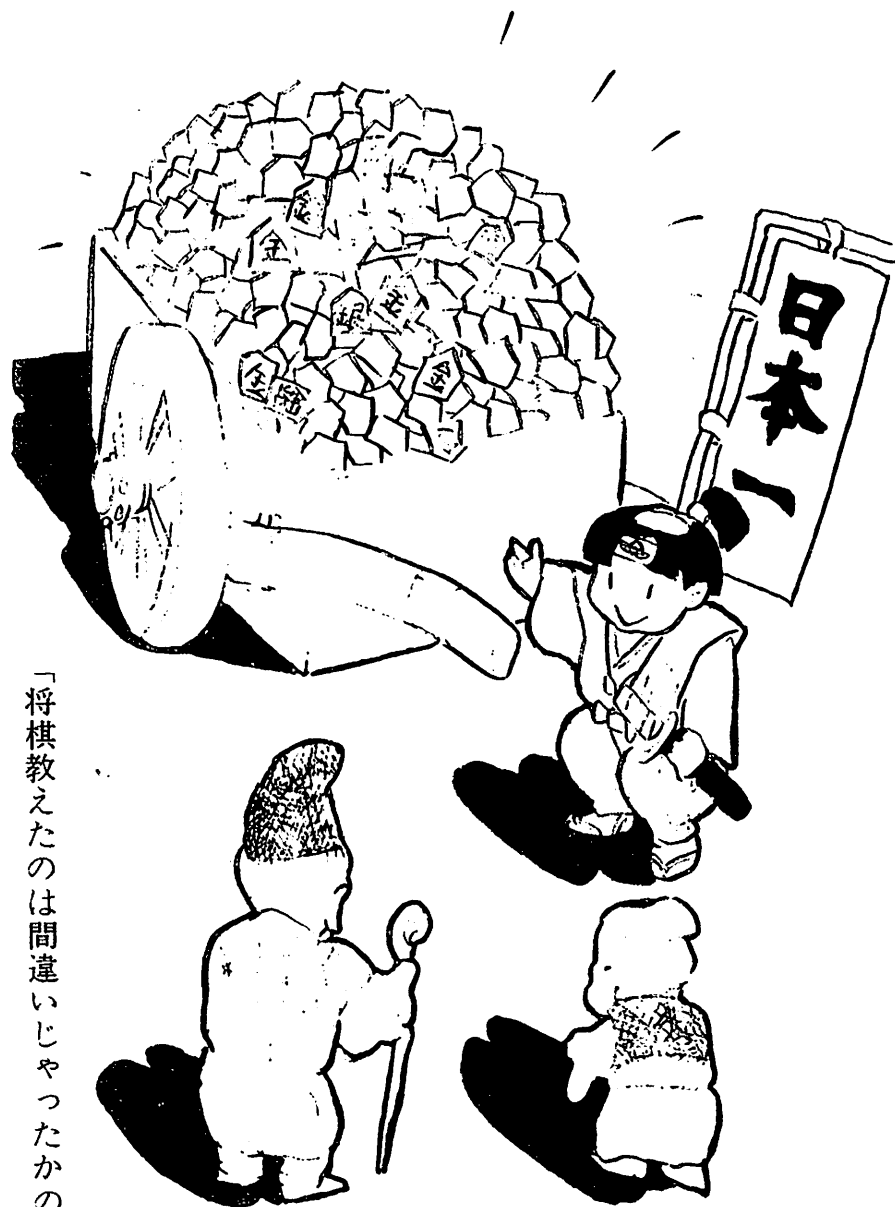
(1) 33玉は53龍、22玉、43歩成、88龍、42龍以下。
(変化)
2五銀、4三玉、4四歩(1) 4二玉、3二と、同玉、5二龍、3一玉、3二歩、2二玉、43歩成、8八龍、31歩成、1一玉、2一と、同玉、3二と、1二玉、3三と、1三玉、2二龍まで27手詰。

【第65番】 詰将棋パラダイス 88・4
2二銀、同金、2五桂、1二玉、22香成、同玉、33桂成、同玉、4三と、2二玉、3三と、同玉、51角成、同龍、3四歩、3二玉、43歩成、同玉、3三金、5二玉、62金打(1) 同龍、同金、同玉、73角成、同玉、6四銀、6二玉、6三飛、7一玉、7二歩、8二玉、93飛成、同玉、8四金、8二玉、73銀成、9一玉、9二歩、8一玉、8二歩、9二玉、8三金、9一玉、81歩成、同玉、8二金まで47手詰。
(変化)
(1) 41玉は51金、同玉、81飛、61香合、62金、同玉、71角成以下。81飛の所、62金以下作意に戻る変別に、解答者総数51名中、21名がはまった——うっしっし。
「ほらね 春がきた」と題して、盤面市松の個展を開催した時の一作です。
前述の「古今趣向詰将棋名作選」の中で私が最も憧れたのは、田中至・工藤紀良両氏の全駒市松図式でした。結局全駒での表現はかなわず、9×5のミニチュア版となりました。いずれ再チャレンジしたいとは思ってるんですけどね。
手順としては序の33桂成、34歩、43歩成の辺りが一つの山場。地味な所ですが、73角成、93飛成の収束へのつながりの部分分がスムーズに運べた辺りも、作者としては気に入っているんです。
発表時の短評から……。
護堂浩之「33桂成、43歩成の辺りの手のつながりが良い。収束も飛角を捨ててうまくまとめている。」

◆ 浦島太郎の真実

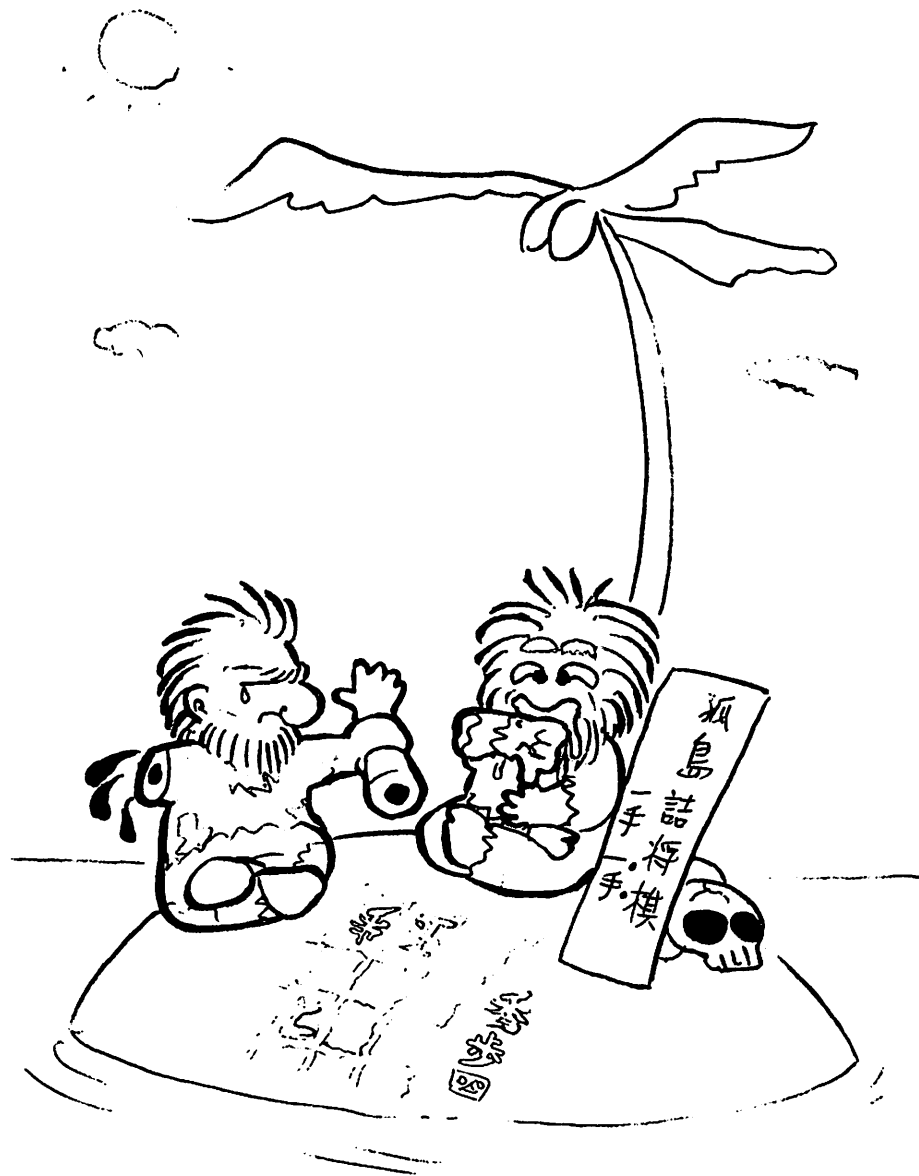


♣ 桃太郎の贈り物



「金銀をやまほど持って帰ったというが……」

「将棋教えたのは間違いじゃったかの」

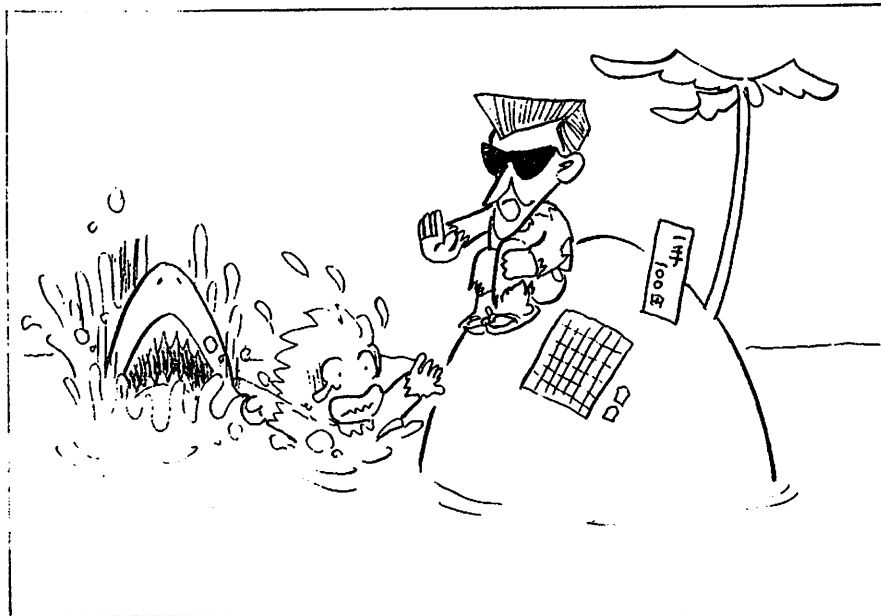


「くそ、オメエの足食い損ねたぜ！」

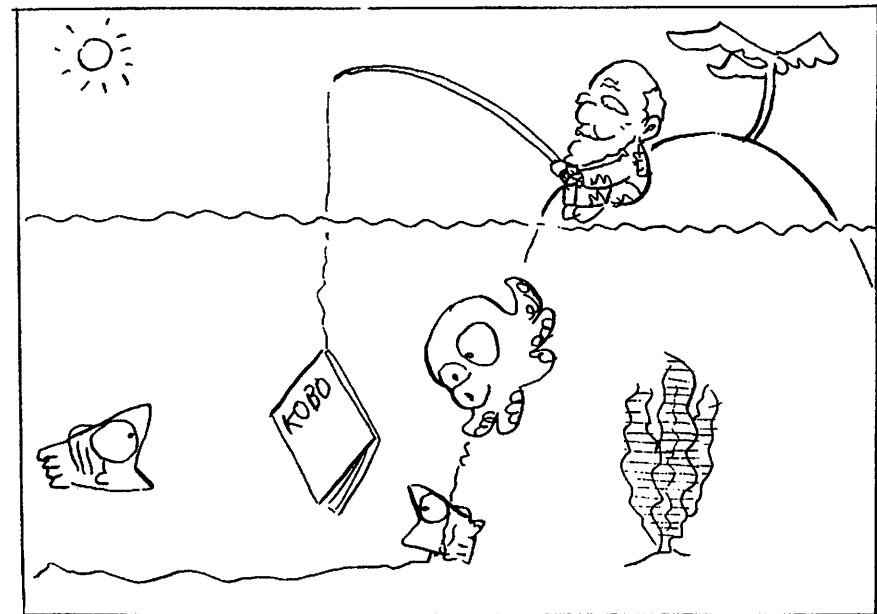


「いくらキミが強くても単独金じゃ詰まないよ」

「お客さん！ 冷やかしたら
あっちへ行ってくれや！」



「これでタイでも釣れたら
わしも太公望ぢやのう……」



今宵みんなでチンチロリン

藤澤 秀樹

皆さんは、チンチロリンと言うのをご存じですか。そうです。どんぶりの中に、サイコロを3個「チンチロリン」と転がして、出た目の大小で勝ち負けを決める遊びです。昔は、ブルーカラーやブータローの方たちの間で、大層流行したそうです。今ではすっかり影をひそめてしまいました。

どうしてでしょうか。おそらくは、麻雀・競馬等のギャンブルに比べ、その賭博性の高さや、地運よりも天運により勝負が左右されるところが嫌われたのではないのでしょうか。

しかし、完全に廃れてしまった訳ではありません。今でも一部のファンの間で、根強い人気を誇っており、さらには継承者を育成しようという動きまで見られるのです。

さて、チンチロリンは親と子のどちらが有利なのでしょう。か。一般には「親の方が有利」と言われていますが、本当でしょうか。又、有利だとすると、どのくらい有利なのでしょう。私は、かねてより疑問に思っていて、いつかチンチロリンを確率で解剖してやろうと考えていましたところ、この本の企画がもち上がり、せっかくの機会ですので、まとめてみることにしました。どのような結果になりますか、皆さんと一緒に計算していききたいと思います。あまり難しい計算はありませんので、電卓片手に、気軽にご参加下さい。では、はじめ

☆ はじめ はじめと言いましたが、計算をはじめの前に、大切なことを決めなければなりません。ルールです。ルールは、地域により多少ことなるようですが、ここでは統一ルールとして、人心研ルールを採用します。(人心研が私が学生時代所属していた学校非公認サークル。正式名称を














人間心理研究会と言ひ、主に麻雀を通じて、人生を語りつつコミニケーションを図る、親睦団体である。)

人心研ルール チンチロリンの部より抜粋

第三条 賽振りは、親・子ともに三回までとし、一旦目が揃




ったら残りの権利を放棄する。

第四条 勝敗は以下のようにして決定する。

- 一 親が、ソロ目・・・の場合は親の勝とする。
- 一 親が、目ナシ・・・の場合は親の負とする。
- 一 親が、・・の時のみ子が賽を振ることとし、子の目がソロ目・・の場合は子の勝、目ナシ・・の場合は子の負、同数は引き分け、その他は目の大きい方の勝ちとする。

第五条 配当の受け渡しは、子の張りコマを基にして、下記の要領で行う。

- は3倍
 - は2倍
- その他の場合は、張りコマと同額とする。

☆ ルールが決まったところで、いざ計算に取りかかりましょう。尚、確率の表し方は、3個のサイコロ(説明しやすいように、A・B・Cとしておきます)の目の出る組合せが、6×6×6通りですから、 $\frac{x}{216}$ とゆう様に、分数で表す事にします。始めに、サイコロを1回振ったときに出る目の確率を求めていきます。皆さんも一緒に、サイコロを振ってみてください。何ができましたか。おや、いきなり・・が出ましたか。なかなかやりですね。それでは、初めにソロ目から計

趣味の詰将棋

清水 英幸

詰将棋を趣味とし始めてから、まだそう時間が経っていない。思えば、ついこの間まではどこにでもいる、健全な「将棋ファン」であった。それが、いつの間にか詰将棋を趣味とし、東京詰将棋工房の主要メンバーとして機関誌を発行、今また作品集の編集まで手掛けているのは、誠に運命というものは奇妙なものと言っしかない。ここでは、如何にして私が詰将棋を趣味とするようになったかを綴ってみたい。その中で、伝説の名著と言われた「詰む将棋パラダイス」を発行するに至った経緯についても触れることができるだろう。

私の将棋歴

将棋を覚えたのは小学校三年の時。友達が指しているのを見て興味を覚え、父親に「教えてくれ」と頼んだら翌日マゲネット盤と入門書を買ってきてくれた。詰将棋との出会いは、この入門書であった。初心者向けに、ルール・用語の説明や開い・定跡に詰将棋と、大変良い本を父は与えてくれたものだ。

ところが、小・中・高と通して周囲に将棋を指す相手がいなかった。仕方なく将棋雑誌を買ってきて駒を並べたり、一人将棋を指すことが多かった。恐らく、詰将棋の創作もその頃自己流で始めたのだろう。記憶には全くないのだが、当時の作が偶然残っている。

実はこの頃、将棋以外の趣味として、テープ・ドラマ（カセットテープにドラマを作って吹き込む）と雑誌製作をやっていた。その時の雑誌に詰将棋が2題載っている。両方

とも不完全だが、高校の時に作って残っているのはこれだけである。

高校の時にはもう一つ、詰将棋に関するエピソードがある。三年の日本史の授業で班ごとの自由研究の課題があり、我が班は「昔の食べ物」について研究する予定であった。ところが三学期になっても一向に研究は進んでおらず、焦った私は急速テーマを「将棋・詰将棋の歴史」にした。当時持っていた将棋の歴史に関する本を抜粋し、門脇さんの「詰むや詰まざるや」と「続・詰むや詰まざるや」を参考にしていた。一人て書いてしまった。この二冊はその頃書店で見かけていたのだが、当時の私には高くて手がでなかった。「日本史の授業に使うのだから」と思い切って買った記憶がある。こうして私は詰将棋ファンが誰もが通る「古典」の世界に触れたのである。

明治大学に現役で合格できたのは全くの幸運であった。「入学したら映画研究会に入ろう」という決意にも関わらず、何故か「将棋研究会」に入部してしまうことになる。ここは上下関係も厳しくなく、何よりも自由な雰囲気がある。居心地が良かったのである。月曜から金曜まで、おおよそ授業のある日は毎日顔を出し、授業をさぼって居続けることもしばしばだった。

定跡の勉強と練習将棋、アルバイトで埋まった大学生活だったが、私にとって幸運だったのは詰将棋の「ライバル」が一人いたことだ。大学の将棋部には、勿論かなり強い人もいるのだが、有段者が必ずしも詰将棋が得意とは限らない。まして「作る」となると、「全然ダメ」という人がほとんどである。そんな中でたった一人だが、詰将棋を作る男がいた。二人とも雑誌に入選できるようなレベルではなかったが、お

互いに刺激しあって「詰将棋」らしきものを作りあった。私のもう一つの趣味「雑誌作り」はここでも発揮された。部内で個人的な雑誌を出すとともに、詰将棋についても十作をまとめて小冊子を発行する。この後詰将棋がある程度出来ること、まとめて作品集にするという行為が習慣化する事になる。

さて、ここまで読んできて「何だ、普通の将棋ファンといっても十分詰将棋ファンじゃないか」と思われた方もあるかもしれない。なる程そうだが、この頃から大学卒業後数年間までは、詰将棋をすることがあっても年に数作、それも長いこと離れていてたまに思い出したように出来るといったくらいで、作品レベルも低く、雑誌には載ったこともないという程度。詰将棋パラダイスは、その存在を知るのみで実際に見たことはなく、他に詰将棋を作る人を見たこともなかった。将棋雑誌を買っても、きちんと全部の記事を読んで、なおかつ興味のある棋譜はちゃんと並べていたのだから、詰将棋欄しか読まない今とはえらい違いなのである。

ところがそんなある日、急に詰将棋に対する熱が自分自身に蘇って来たのだ。丁度大学の将棋研究会の夏合宿にOBとして参加しようという直前、例によって作品集（「余詰宝庫」という）を土産としてまとめた。ところが熱はそれだけではおさまらず、とうとう「詰将棋パラダイス」を新宿将棋センターで購入。4ヶ月後の90年1月号より定期購読を始めることになる。

『詰バラ』と『詰むバラ』

【清水氏談】「『詰将棋パラダイス』を初めて手にとっ

た感想は、それは驚きでした。何といっても全ページ詰将棋！虫食い算やフェアリーもありましたが、「こんな雑誌があったのか」という感じで、完全に自分は「こっち側の人間」という感覚に襲われてしまいました。取り敢えずは幼稚園・小学校・中学校の解答を自分に課しましたが、自分の書いた短評が載ってしまっただけでその恥ずかしさに短評をしばらく書かなかったのも懐かしい思い出です。

「詰将棋パラダイス」にはひかれたものの、当初はバラ独特の言葉や用語・言い回しが理解できず、部外者であるという感を強くしたものだ。例えば「詰バラ会員・イコール購読者である」ということを理解するのに半年くらいかかった。アイドルのPNが多いのも閉口したし、フェアリーの世界に至っては完全に「外国語」の感覚であった。若島さんの「盤上のパラダイス」を書店で見つけて読んだのが随分バラの世界を理解するのに役に立ったようだ。

そうこうする内に約1年が過ぎた12月初め、バラの世界にだいぶ馴染めてきたかなと感じ始めたある日、ふいに

「バラのパロディ本を作ったかどうか」

というアイデアが天の啓示のように浮かんで来た。もともとパロディの類は子供の頃から好きだったし、本を作るのは雑誌製作が趣味だから出来る自信はあった。唯一のネックは作品数だった。果たして、人様に見せられる作品が必要数あるだろうか……。創作ノートや作品集を引っ張り出し、翌年1月に出来た何作かを足して並べてみた。うん、何とかなりそうだ。

タイトルは初めから決まっていた。「詰む将棋パラダイス」。「詰む将棋」という言葉は、自作に対する総称として割合気に入っていた。本全体が『詰バラ』のパロディでありながら作品集でもあり、文章で笑ってもらって作品は添え物にしよ

うーという感じで製作方針は決まった。

まず取りかかったのは図面の作成だった。当時私が使用していたワープロは何年も前に買った富士通のオアシスライトK。外部記憶装置もなく、文節変換で24ドット、画面表示は14字×2行という代物だが、これでそれまで五十冊以上の個人雑誌を発行してきたから何ら不安はなかった。しかし図面の作成はひたすら手間がかかった。飛車なら「飛」という漢字をたくさん打って、それをハサミで一字ずつ切り、図面用紙にピンセットと糊で貼るという作業の繰り返し。やっと出来たと思ってサイズが合うように縮小コピーしたら、何と文字が予想以上に小さくなってしまった。市販の図面用紙を使ったのが失敗だったのである。さんざん迷った末図面を作り直すことにした。どうせ作るならいいものを、と思ったからである。

図面さえ出来れば後は楽であった。文章は苦手ではなかったし、むしろ初めて書く「結果稿」や「湯川詰子」さんのエッセイ、編集日誌や読者サロン、選題の言葉など楽しみながら打ったものだ。かなりの部分は打ちながら考えたもので、下書きもろくにせず、字数計算もまるでなかった。版下の出来栄えには、それなりに満足していた記憶がある。

詰工房との出会い

実はこの頃、バラに詰工房（当時はまだACTIIと呼ばれていた）の会合報告の記事が載っていた。参加者がわずか5名しかいないとかで、東京近県の人の参加を呼びかけていた。「可哀想だな」という思いと、「詰キスト」ってどんな人なんだろう」という興味とで行くことにした。もっともその時「詰むバラ」の原稿が半ば出来上がっていたこともあって、

心理的には参加しやすかった。それでも会場の「きゅりあん」に向かう途中、何度か帰ろうとしたのは事実なのだが……。会場に一時に入ると、眼鏡をかけた若い男の人が一人。互いに自己紹介をするとその人が「金子清志さん」だという。あの高校担当の！

担当者なんて詰棋の神様みたいな人かと思っていたので、随分若い人なんて驚いてしまった。（その後こうした有名人には次々に会い、ほとんどミハー気分となる）金子さんに「確か清水さんは、作る方ですよ」と言われる。バラの7月号の「ヤング・デ・詰将棋」に初めて自作が載ったので、それを見ての発言かもしれないが、単なる当てずっぽうだったのかもしれない。

次に現われたのが川さんで、いきなり対面詰の作品を披露されて脳みそはウニとなってしまった。また、夕方にやってきたのが「名誉幹事長」と噂される摩利支天さんで、何故か初対面の私の名前が摩利さんの手帳にすでに書き込まれていた。驚いた。後にも先にも、こんな体験は初めてだろう。

また2次会の喫茶店ではデビュー前のアイドルの名前が飛びかうなど、「詰キストはアイドルに詳しくないといけないのか」と、間違った認識を植えつけられてしまった。結局この日、鞆の中には「詰むバラ」の図面を入れてあったのだが自作を披露することはせず、代わりにカラオケの腕を披露して皆の注目を浴びたのである。

翌3月ついに待望の『詰む将棋パラダイス』が完成の運びとなった。コピー機で10部複写し製本。1部を詰バラ編集部へ、5部を親しくなった摩利さんに送付した。ところがそれから数週間、何の反応もなかったのである。「少しは反響があるかな？」と期待していただけに当てが外れた感じでガッカリしていたが、これが嵐の前の静けさであった。

そして、今……

名前ばかりが先行して有名となってしまったが、今ようやくツキの嵐も沈静化した感がある。今は詰工房の機関紙「K O B O」を出しながら月に1回の詰工房や詰明会等の会合へ出向き、詰将棋の話をしたり酒を飲むのを至上の楽しみとしている。

さて、詰将棋を自らの趣味と思い始めたのは丁度『詰むバラ』発行直前、その頃は日常のかんりの部分を詰将棋が占有していた。それまで大して大きな部分を占めていなかった詰将棋が、その意味を広げてきたのである。

詰将棋は自分にとって何なのだろう？ それは正しく「自己表現の場」だった。詰将棋が芸術であろうがパズルであろうが、どちらでも構わないと思う。自分の趣味は大抵何らかの自己表現であったが、それに詰将棋がジャンルとして加わってきた感じなのだ。

今後自分の人生の中で、詰将棋から離れていく時があるかもしれない。そうすることがあっても、この世界と、この世界で知り合った人のことは忘れずに生きていこうと思う。

（おわり）

とある日曜日の朝、摩利支天さんから電話がかかって来た。金子清志さんと江口恭一さんも一緒にいる。『詰むバラ』についていろいろ聞いて頂いた後、「今日国分寺で詰明会という会があるんですけど来ませんか？」という誘い。誘われるままに出席するとそこはとても真面目な世界。こういう硬派な勉強会的な雰囲気も好きだなと思っていたと、摩利さん達が遅れて登場。やああってから「詰むバラ」の回し読みが始まった。自分は「あれが森田さんか。あっちの人が昔ジャーナルで担当をしていた柳田さん……」と舞い上がっているところへ、一躍「変な本を作った変な奴」という感じで見られて小さくなるばかりだった。

この後は自分でも恐ろしくくらくらに、トントン拍子に話が進んでしまう。まず摩利さんが「詰むバラ」を印刷したいんだけど……と無料で印刷を申し出てくれる。さらに「全国大会で売りたいので、作者には是非一緒に来て欲しい」と言われ大阪へ。多くの詰棋人の前で「詰むバラ」80部を完売する。さらに、摩利さんが朝霞チェスクラブで湯川博士さんに「詰むバラ」を見せたことから、週刊将棋紙上で大々的に記事にされてしまう。詰キストはおろか、全国的にも有名な人になってしまった！（と思っていたのは自分だけかもしれないが）またこの記事が元で会社の社内報にも二頁に渡り取り上げられて社内でも顔が知られてしまった。残念なことにファンレターは来なかったが。

さらに湯川さん著の『面白ゲーム将棋』でもついでに将棋や必取将棋の棋譜で、そして「資本還元将棋」の創始者として紹介された。翌年の「第一回 詰将棋大賞」（主催・詰工房）では見事に大賞の栄誉に輝くという、まさに怒濤のツキまくり！ 麻雀で言えば大三元・字一色・四暗刻単騎を親で連続してあがったようなツキの嵐であった。

プラパズルで芸術を

私と彼女との出会いは、もうかれこれ24年以上も前の話になってしまった。正確な日は覚えていないが、私と彼女の初めての関係が1968・9・21であるからその数日前である事は間違いない。まだ彼女の本当の難しさも知らぬままに、いきなり11段の階段に挑戦したところ、偶然にも「出来てしまったのである」。

その後しばらくは次作が出来ず閑々とした日が続いたが、最後の方まで残しておくと思立てやすいピース(2×2の正方形を含むもの。8種類ある。口片と表示する。)がある事を知り大量生産の時代が訪れた。下積の時代が長かったような記憶があるが、製作月日を見ると、わずか2か月足らずのことだった。大量生産出来る様になると、ただ組立てただけでは物足りなくなる。そこで、いろいろなテーマを決めて、より難易度の高い組合せに挑戦するようになった。

彼女は私にとって生涯の友であろう。滅多に会う事は無くなったが、たまに会うと何時間でも付き合う事になる。彼女のよさは、難しさではない。私の意匠を「受け入れて」くれるところにある。

今回は、詰将棋の本にパズルとして共通性のあるプラパズル600の作品を載せてみたいと思ひ筆を取った次第である。かねがね作品集を出してみたいと思っていたのだが、自費出版となると二の足を踏んでしまう。すべて自分だけで、本に

するだけのページを埋めるのは困難である。有名作家に、「おんぶにだっこ」という形になってしまおうが、又とないチャンスと思い、原稿作成にとりかかった。

ところでプラパズル600とはいったい何ぞや、と思われる方もあろう。プラパズル600とは、昭和40年頃、株式会社「天洋」から発売されたパズルで、1片が正方形6個で構成されている。片の数は全部で35個ある。したがってそれを入れるケースは正方形6個×35=210個分の面積を要する。しかしこのケースが、3×70、5×42、6×35、7×30、10×21、14×15の長方形だと、この中には組合せられないことが数学的に証明されている。一体どのように証明するのかは今だにわからない。4色問題のようにコンピュータで強引に解くのだろうか。エレガントな証明があるのなら、ぜひ拝見したい。

プラパズル600は、当時、富士通のコンピュータFACOM 270120で全組合せを解明しているということ、子供心にも(昭和43年当時12歳)、すごい人達がいるものだと感じた。大人になってから、コンピュータ(パソコン)も安価で(シャープX-1、30万円)手に入るようになり、正方形5個で構成されているパズル(片の数は12個)のプログラムを、解説書を参考にしながら作ったことがある。コンピュータならもっとも全組合せを解明していくであろう。しかし、その中のキラリと光る宝石に気付く事はない。人間だからこそ、芸術的なものを意識して作れるの

だと思ふ。例えば俳句で、17文字の配列をすべてコンピュータがプリントアウトしたとする。しかし、その中の意味の通る文字の配列をコンピュータの作品とは呼びがたい。ましてコンピュータがすべての俳句を作ってしまったとは、誰も思わないだろう。その中には、確かに作品の価値がある文字の配列が存在する。17文字の配列が「あああゝんんん」というもので、有限であることは誰でもわかっている。プリントアウトしようがしまいが、その膨大な数の中から文学的なものを探し出さなくてはならない事に変わりはない。だからコンピュータが単に17文字の配列をすべてプリントアウトしたものは文学的には無意味である。

同じような事がプラパズル600にも言えると思う。パズルの場合、全組合せの解というのはそれなりの価値がある。しかし芸術として考えた場合は別である。コンピュータが、もくもくとプラパズル600の全組合せをプリントアウトしても、その中から芸術的なものを捜したすのは困難である。その中にキラリと光る宝石があるはずだが、それを捜しださない限り作品とは呼びがたい。結局、人間が芸術的なものを意識して作るほうが手取り早いし面白い。

一人よがりのところもあるかもしれないが、盤面に駒を配置して華麗な詰手順を見つけて出す詰将棋に似ているところを感じとっていただけたと思う。最近、詰将棋の世界でもコンピュータが使われ始めた。フェアリー詰将棋の完全検討プログラムが開発され、余詰捜しに驚異的な威力を発揮してい

る。詰将棋作家の人数、寿命は限られているので、コンピュータで完全検討出来るようになった事は非常に喜ばしい。完全検討出来るようになれば、検討の手間は省けるので、そのぶん創作に没頭できる。ミニコミ誌に不完全作がなくなるので、密度の高い内容になる。また裸玉のような単純な配置で短手数数のものはコンピュータで作られ始めていて聞く。私などは古い考えなのかもしれないが、少々ひっかかるものがある。創作の喜びというものがなくなっていくのではないのか、と危惧してしまうのだ。ただ、それが作品となりえるのかを選ぶのは人間である。裸玉そのものも人間よりコンピュータ向きかもしれない。ところで、その作品は選んだ人の作品となるのだろうか。

話がずいぶん横道にそれてしまったがコンピュータを芸術に利用する場合の考えを少し述べてみたかった。(まとまらなかったが。)話をプラパズルに戻す。正方形7個で構成されているパズルが発売されたいと子供の頃から思っているが、一向にその気配がない。パソコンで作るのも手だが画面が小さい。何かいい方法がないものだろうか。いい方法があったら御教示願いたい。

F O R M

美しい形を組み込むのが目的。主に直線的に分割するものと、階段状に分割するものがある。#で形を示した。FOI 011 F O I 06は「天洋」から出題された課題作である。

SYMMETRY

2つのピースの組み合わせによる対称形をできるだけ数多く配置するという分野。数が多くなる程、急激に難しくなる。対称形を1~9、A~Dで示した。

SEQUENCE

対称形を反転した時、次のピースと再度対称形になるように組み合わせる。それを連続させることによりピースを移動させるもので、最も好きな分野である。移動していく様になにやら歯車の回転のようで面白い。

このテーマでは、SEQUENCE同志の交差、同じピースを2度使用する等のバリエーションがある。

また対称形でなくても特別に移動できるものもある。現在3種類発見している。

SEQUENCE部分を\$又はSで示した。中の数字、アルファベットはピースが移動していく順序を示す。又、SEQUENCE同志の交差をXで示した。数字が2つあるのは同じピースを2度使用したものである。

MANY TRANSFORMATION

主に四角形を多く組み込んで、数多くの変換ができるようにしたものである。一つの基本形から300万通り以上の変換ができるものも発見している。

IDENTITY

2つのピースの組み合わせで、同一型を数多く配置するという分野。

SLIDE

スライドさせてピースを移動させるもの。

FUSION

各分野を2つ以上融合させたもの。いろいろ考えられるが、SEQUENCEとFORMのFUSIONが一番面白いと思う。ピースによってはSEQUENCEの移動回数が少ないものがあるので、そういうものとFORMを組合せることにより作品らしくしていくわけだ。他の組合せは、それぞれの持味が引き出されない可能性が高い。

以上、文章ではわかりにくいと思いますが、プラパズルN°600を持っている方は、並べて鑑賞(?)していただければ幸いです。

1993.2

佐藤伸夫

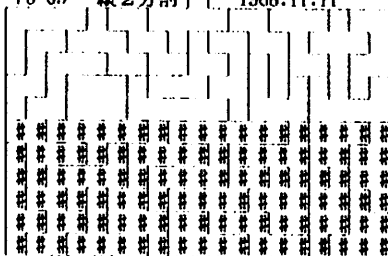
FORM 1

処女作 購入後2~3日で完成した。
残しておくべき「片」(以下□片)の存在を知らなかった為□片の密集はみられない。
F0-01 11階段 1968.9.21



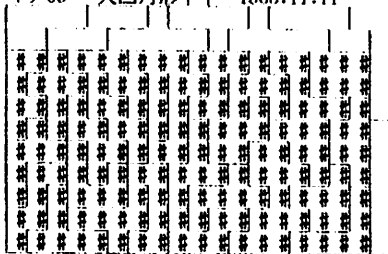
右下に□片の密集がある。平易。

F0-03 縦2分割 1968.11.11



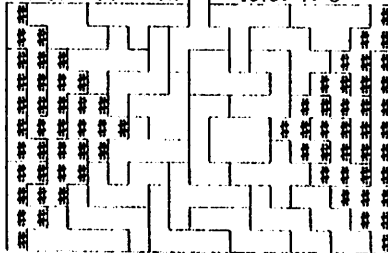
右辺に□片の密集がある。平易。

F0-05 大四角形 1968.11.11



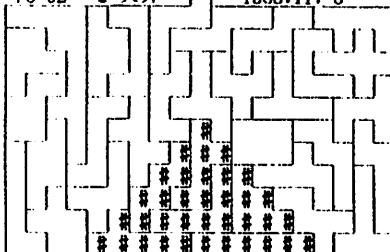
階段をつくる片が多いため制約をうける。
□片の密集は見られず難しい。

F0-07 ツインクス 1973.7.8



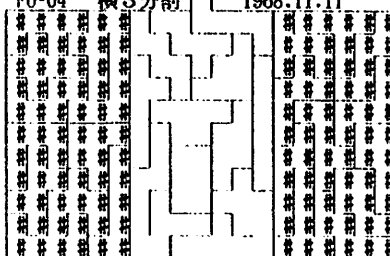
残しておくべき「片」の存在を知り、量産の時代に入る。左辺で完成させた事がわかる。(□片の密集がある。)

F0-02 ピラット 1968.11.8



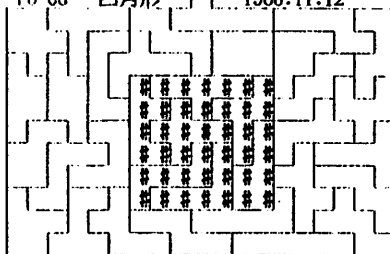
中央に□片の密集がある。平易。

F0-04 横3分割 1968.11.11



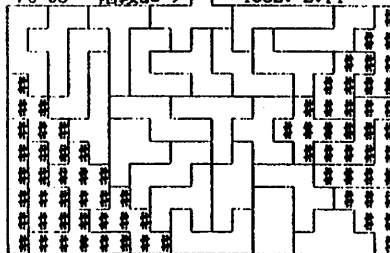
左辺に□片の密集がある。平易。

F0-06 四角形 1968.11.12



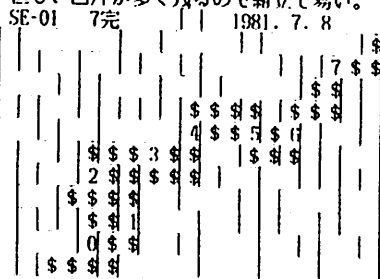
F0-07と比べるとやや平易。

F0-08 階段&トラ 1982.2.14

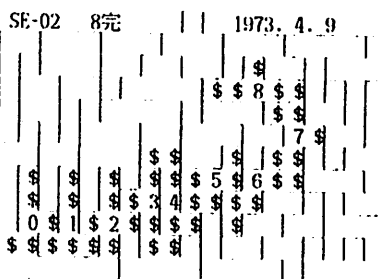


SEQUENCE I

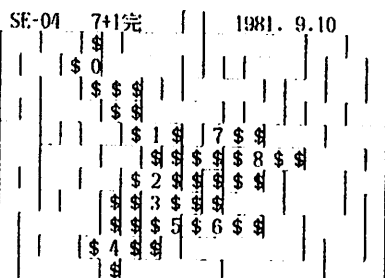
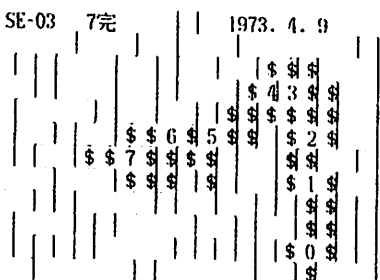
連続部分がコンパクトにまとまらず苦勞する。
但し、□片が多く残るので組立て易い。



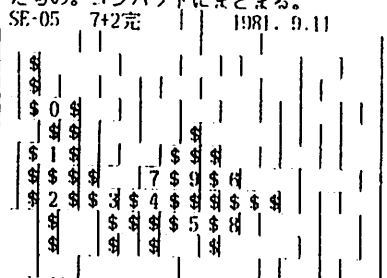
上側の中央に□片の密集がある。平易。



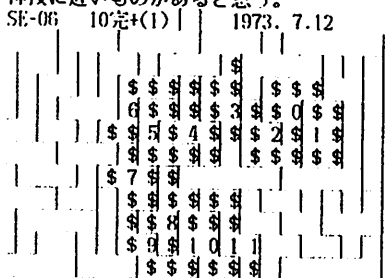
SE-03の3番目の片を2度使用したもの。



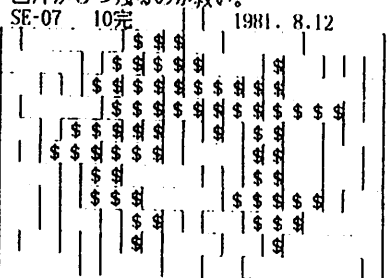
SE-03の1番目と3番目の片を2度使用した
もの。コンパクトにまとまる。



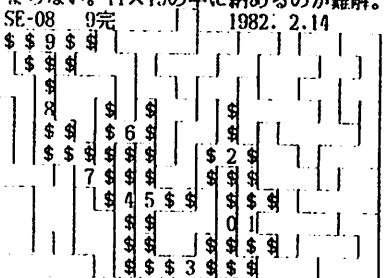
□片が2つしかのこらず非常に難解。
神技に近いものがあると思う。



連続部分がコンパクトにまとまらず苦勞する。
□片が5つ残るのが救い。

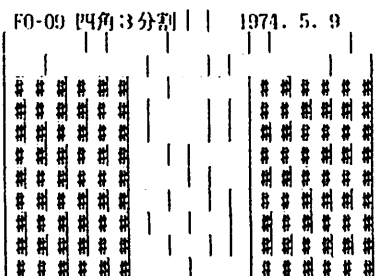


長い片にので連続部分がコンパクトにまと
まらない。11×19の中に納めるのが難解。

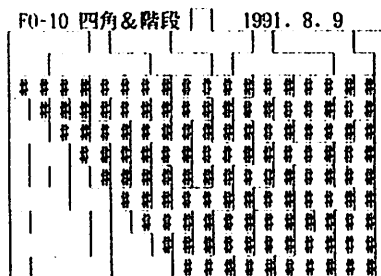


FORM II

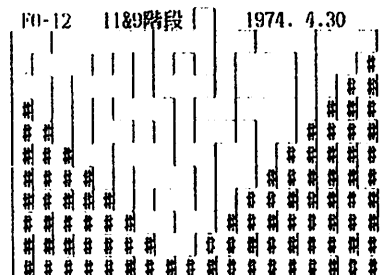
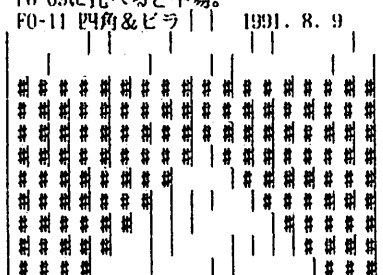
F0-05の内部を3分割したもの。角に置く
片に制約が有り条件としては厳しい。



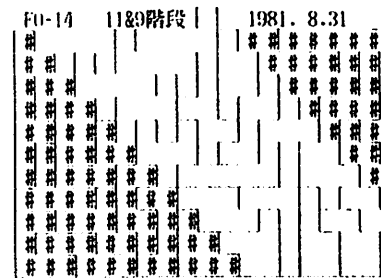
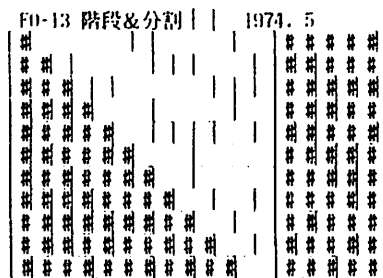
F0-05の内部に8段の階段を入れたもの。
F0-09に比べると平易。



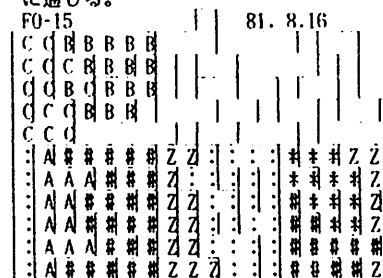
F0-05の内部にピラミッドを入れたもの。
F0-09に比べると平易。



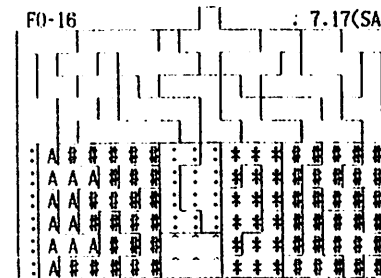
F0-01の階段にF0-04の分割を入れた。



2分割を4分割した。MANY TRANSFORMATION
に通じる。

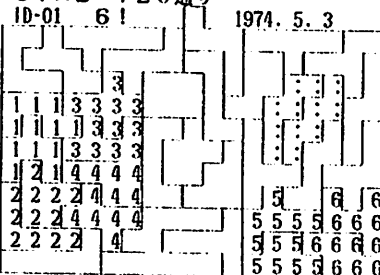


2分割を5分割した。



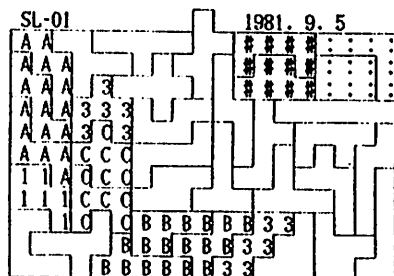
IDENTITY

2つの片の組合わせで同一の形を多く作るのが目的。その形を発見するのがミソ。
6!×2=720通り



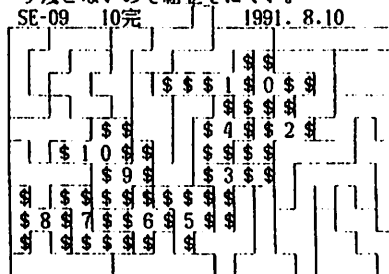
SLIDE

1~3及び長方形がスライドにより移動出来る。

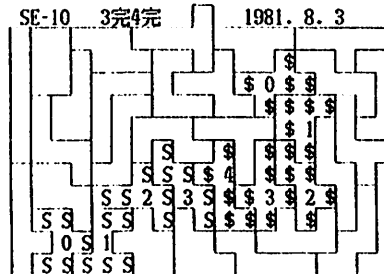


SEQUENCE II

連続部分を作るのに苦労する。□片をあまり残せないで組立てにくい。

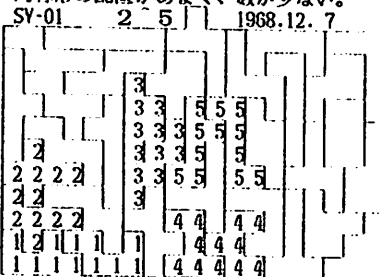


連続回数の少ないもの同士を組入れた。

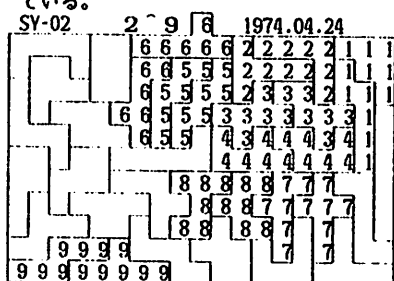


SYMMETRY

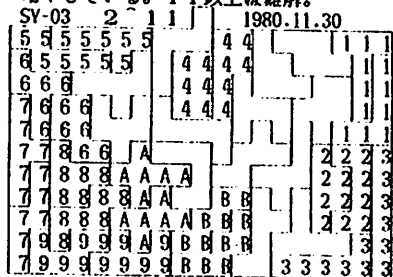
対称形の配置があまく、数が少ない。



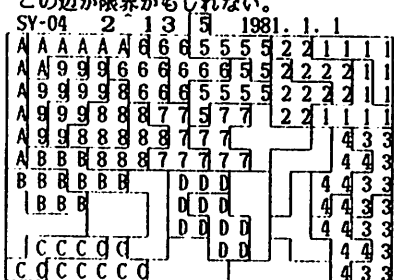
対称形の配置をすきまなく並べ数を増やしている。



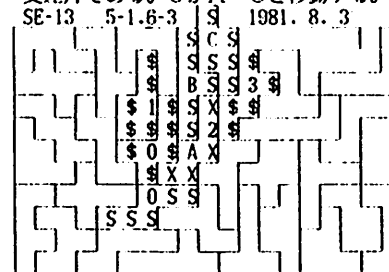
さらに対称形の配置をすきまなく並べ数を増やしている。1以上は難解。



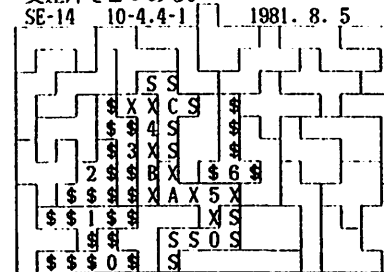
対称形を除くとわずか9片しか残らない。この辺が限界かもしれない。



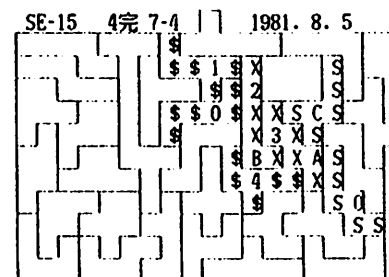
2つの連続部分を交差させている。X片が交差片である。OがA~Cと移動する。



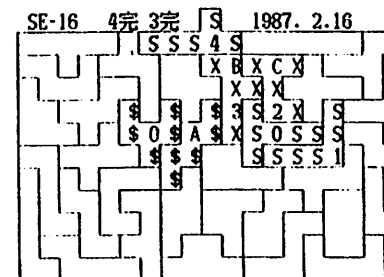
2つの連続部分を交差させている。X片が交差片で2つある。



2つの連続部分の交差で片方は完全。

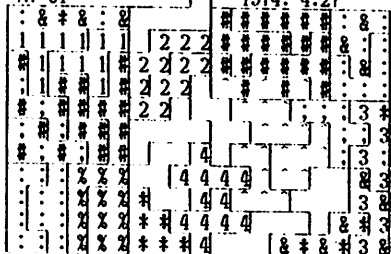


2つの連続部分の交差で両方とも完全。



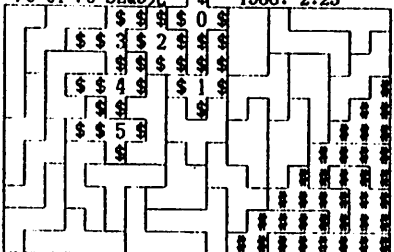
MANY TRANSFORMATION

計算は省くが、300万以上の変換可能。



FUSION

FU-01 FO-SEQ5完 1986. 2. 23



多国籍の蒼い流星

王泉 慶安

詰上房月例会に出席する為に、静岡から新幹線に乗り込んだ私は、終着の東京駅へと降り立つ。

人は皆、足速だ。流れに巻き込まれない様、私も小走りになる。乗り換え口を抜け、中央通路を通って、京浜東北線の下りホームに出た。これから快速電車で、大井町駅へ向かうのだ。次の電車が来るまでしばらく時間がかかるようだ。薄曇りのある冬の日であった。静岡で生まれ育った私には、東京の寒さは特に厳しい。と、突然、電車の入線すべき方向から発進方向に向かって、一陣の木枯らしが吹き抜けて来た。体中に言葉にならない感覚が走る。

（……まだ昼間だというのになんて寒さなんだ……）

思わず周囲を見回した瞬間、私はある失敗に気がついた。地元にいる時と同じ服装で来てしまったのだ。他の人は皆、一様に何枚か着込んでいる。静岡と東京は同じ関東なのに、何故こんなにも気候が異なるのだろうか、何だか不思議な気分になっていると、やがて私の乗るべきライトブルーのスマートな車体が轟音とともにホームに滑り込んで来た。

東京地方の駅のホームと電車の間隔は総じて広いので、子供の頃は乗降時には少なからず恐怖感を覚えたものだ。そんな事を思い出しながら車内に乗り込むと、中はかなり暖かく感じられた。暖房が効いているからなのか、それとも乗客の熱気のせいだろうか。座る場所がなかったため、乗って来た入口のちょうど反対側のドアの車窓の風景を眺めながらその付近をぼんやりと立っていると、やがて近くから女子大生らしき二人の会話が聞こえてきた。

て女性の方は男性の方に頭をもたれかけている。見ている方が恥ずかしくなったので、思わず周囲に目を移すと、サンGLラスに髭を蓄えたアメリカ兵や、右手に就職情報を持ったアラブ人などが立っている。左斜め前方のシルバースhirtにはチヨゴリを着た若い女性が、表紙の題名にハングルの文字の書かれた本を熱心に読みながら座っている。

（ここは本当に日本なのか……）

瞬間、そう思った。私の家は用宗漁港に近いので、よくフィリピン人（と思う。フィリピンシヨのナイトクラブが漁港のそばにあるので）を見掛ける。そして南安倍川橋のたもとには朝鮮学校もあるので、中島交差点の辺りを歩いているチヨゴリ姿の女学生も珍しくない。しかし、これほど多種多様な外国人を一度に目の当りにするのは、静岡ではまずありえない事である。考えてみれば、自分も外国人から見れば外国人なのだが、この時はそんな事はどうでもよくなって、ただただ、目の前の異様な状況から逃げ出したいくなった。唯一の救いは先程の大胆なカップルの会話がいつの間にか日本語になっていた事である。どちらも両国語が話せるのだ。

（……だつたら最初から今いる国の言葉で話せよ……）

やがてドアが開いた。私の心の中の呼び掛けを無視して、彼等は品川駅のホームへと消えて行った。

入れ替わりに高校生ぐらいの清楚なお嬢さんが乗車してきた（尤も、船戸陽子などは見た目で歳を判断できないが）。

彼女は私の目の前、ちょうど日米のカップルが座っていた辺りに腰掛けようとした。静電気でミニスカートがまとわりつくのだらう、座る瞬間指で裾をまくり上げたので、中のものが見えてしまった。私は正視が恥ずかしくなったのと、その瞬間的な光景を思い出さず、しばらく下を向いていたが、やがて彼女の視線がこちらに注がれている事に気がついた。

「ねえねえ、昨日入部してきた経済学部の男の子、超カッコイイと思わない？」

「何だよ、オメー結構とれえなあ。年下のガキにいかれちゃったのかよ。」

私は二人の方をちらっと一瞥した。ぞんざいな言葉遣いであるが、応えていた方もお嬢様風のうら若き女性であった。最初に話し掛けた女の子はそういう意味で言ったんじゃないというように事を抗弁していたが、その時私はすでに外の風景に目を戻し、耳だけで彼女達の会話を聞いていた。やがてスキーがどうのこうのという話になったが、件の経済学部の男の子の話題に戻ると、最初に話し掛けた女の子のオクタイブが高くなる。やはり本当は気があるらしい。

浜松町駅を通過した辺りで窓の外に東京ガスの建物が見えてきた。そしてその建物と列車の間には何本ものレールが見える。レールを見ているうちに、東静岡駅の跡地を連想してしまった。すると東京ガスが草薙球場でモノレールの連絡橋が長沼大橋だ。などと馬鹿な事を考えているうちに、列車はやがて減速を始め、田町駅に停車した。

乗客の乗降に伴い、一時的に空席ができたので、私は最もドア寄りの座席に腰掛ける事ができた。二人の女子大生はここで降りた。そして彼女達と入れ替わりに、東南アジア系とおぼしき二人の男女が乗り込み、私の隣に座った。やがて彼等は会話を始めたが、言葉は全く分からない。時折、言葉の端々に「トキョー」「シナガワ」「ケントホク」等の日本の固有名称を識別できる程度である。一方、目の前からは英語が聞こえる。見るとアメリカ人ないしはヨーロッパ人（本当は人種が違ふのだから、私はその方面には疎いので識別できない）とおぼしき男性が隣の日本人女性（服装が派手なので日本人と思つたのである）の膝に大胆にも手を置き、そし

最初は自分の恥すべき行為（と言ってもわざとではないのだが）を非難しているのかと思つたが、そうではなく、何とこちらに向かって微笑みかけているのだ。それどころか、手を振っているではないか。この少女はそうした行為を逆に歓迎してしまう性格なのか、それとも知能が少々足りないのではないかと色々勘繰っていたのだが、しばらくしてようやくそれが私に対する視線ではない事に気がついた。私の隣で若い母親が赤ん坊を抱いていたのである。少女はその赤ん坊に向かって微笑みかけ、また手を振っていたのだ。

母親の方も（と言っても少女とは十歳ぐらいしか違わないのだが）視線に気がついたようで、我が子の手を取り、女の子の方に向かって振らせている。当然の事ながら、その幼児は母親の行為の意味に気づかず、きょとんとした顔をしている。幼児は男の子だろうか、それとも女の子だろうか。

電車は三度減速を始めた。いよいよ大井町、私の降りるべき駅である。私は少女と母子の間に生じた和やかなムードについて巻き込まれてしまい、またそのムードを壊したくない気持ちにかられたので、しばらく動くのを躊躇していたが、ドアが開く直前になって意を決して立ち上がった。電車を降りる時、私は少女の傍らを擦れ違つたが、彼女は私の方を見向きもしなかった。どうやら先程の事に気がついていないようである。3人は依然として無言の会話を続けていた。

エスカレーターを昇り、改札口で精算料金を払う。改札口を出て左の方向に少し歩くと、いつものようにきゅりあんが見えてきた。電車の中にいたのは僅か十分程であるが、実に様々な経験をした。きゅりあん館内のエレベーターの中で、私はそれらを思い出していた。会場に入ると、見知った顔が私に向かって軽く会釈した。何だかほんと安心した。

詰将棋雑誌の簡単な作り方

服部 敦

お金をかけず、危険も冒さずに一國一城の主になるにはどうすれば良いか、それは簡単です。なんでもいいからミニコミ誌を作れば、「一応」その願いは果たせます。まあ、読者一人、とか2〜3人というのでは満足できません、というのであれば、多少の苦勞と工夫は必要ですが。

まずB5の紙を一枚用意します。まず、何でも良いから、雑誌のタイトルを考えて、それを一番上に書きます。それから自由。好きな事を書いていいし、イラストを書いてもいいし、とにかくやりたいようにやって下さい。最初から余り力まずに。発行人の挨拶だから何かかっこ良い事を書かなければ、なんて考えると何も書けなくなるし、書いても後で読んで大笑い、なんて代物になります。悪い例が「将」の創刊号の巻頭。あれはなんだったんだろうね、まったく。

雑誌を創刊するんだから何を載せようか、どんな編集方針で行こうか、なんて事を考え過ぎるのも禁物。作っているうちにそういう事をどんどん変えられるのが、小回りの利くミニコミ誌の長所です。大体、何も書かない前から先の先まで読んで、最善の策を選ぶことができる、なんて人間がいたら超能力者。そんな人間がミニコミ誌なんかやっているのはもったいない。政治家か外交官になって下さい。

部数を増やす為には何を書いたらいいか、などと思惑を働かせるのも最悪です。貴方はそんなコセコセした打算ばかり働かせていなければならぬ俗世間から逃れたいが為にミニコミ誌を作ったのだし、実際にどんな性質の読者が集まるかわからない内に予想が立てられる訳がありません。

何で書くか。これは自由ですが、字が巧い人は手書きが良いと思います。手作りの味が出るし、イラストなんかも書き加えられるし、途中図なんかも自由に入れられるし。この場合注意すべき事は、コピーすると線が予想よりずっと太くなってしまふ事です。鉛筆や万年筆の原稿は見辛くなります。安いボールペンも同様。シャープペンシルか細書きのサインペン、細書きの高級ボールペン等が良いと思いますが、私はこの方面は詳しくないので自分で研究して下さい。まあ、無難なのはワープロを使う手でしょう。ワープロは富士通が一番便利で、値段が高くてかさばるのが我慢できるのなら外字をフロッピー毎に200以上、漢字辞書を2000以上作れるオアシス30AXが特に重宝します(穂上君、山下さん、今度おこして下さい)。つまりサカサ字やチェスの駒なんかも全部外字にして、漢字辞書で呼び出してしまえば楽なわけ。欲しい方には私が作った外字と漢字辞書をフロッピーに入れてお分けします。東芝のルボも色々な機能が割合簡単に使えるので、結構愛用者が多いようです。

ともかくにも一枚埋められたら、これが輝かしい雑誌の第1頁。後は同じように2頁目、3頁目を作っていけばいいのですが、詰将棋の雑誌だから詰将棋の図面が載っていないければならない、という事はありません。確か「詰将棋情報」や「申棋会会報」の創刊号には詰将棋が全然載っていないかったです。詰将棋をどこに持って来るか、これも編集者が勝手に決めて良い事。「将」で最初の方に行儀良く並んでいるのは、その方が楽だからに過ぎません。「KOBQ」は最初の頃、けっこうまじめに詰将棋を載せていましたが、今はそんなものは中の方の日当たりの悪い場所に押し込めておいて、編集長が好き勝手にだべっています。

問題は何頁目でやめるか、の方です。見開きで奇数、というものが実現できたら、世界的にも珍しい雑誌になりますが、多分ダメでしょう。偶数にするとして8頁にするか800頁にするかという難しい問題を見事に解決してくれるのが下料金という世俗的要素です。定形下料金は25g(重力加速度ではない)まで62円、50gまで72円。ところがそれを一寸でも越えたと一挙に百75円までハネ上がります。この不連続性こそがミニコミ誌の頁数を決めるのです! 具体的には、B4のコピー用紙3枚が62円の限界、7枚が72円の限界。薄い紙だともう少し入れられますが、精密な秤が無い場合は危険を冒さない方が良いでしょう。この「定形下料金の法則」によって大抵のミニコミ誌は両面印刷の場合で12頁または24頁、片面印刷の場合で12〜14頁ぐらいにおさまる事になります。頁数が決まって、その量だけ原稿を作れば創刊号は出来上がり! しかし忘れてはならないのが発行人の住所氏名と誌代の額。前者を忘れて後者だけ、という事がないようにくれぐれも気を付けて下さい。年に何回発行するかも、書いておく方が信頼度を増します。場所は、ガメツイ発行人の場合は巻頭に、そうでない人は巻末に載せるのが普通です。

原稿ができたら今後は印刷。ガリ版刷り、ノスタルジーを感じてとても好きなのですが、字がヘタな私なんかには高嶺の花だったし、そもそも今では用具を手に入れるのにも一苦一死しなければなりません。簡易印刷機については良く知りませんが、どうやらほとんどの者が手書きで原稿を作らなければならぬので、これも字がヘタな人には向いていません。印刷屋に頼めば楽ですが、これは部数が500以上にならないとコストがべらぼうに高く付くのでダメ。という訳で、結局はコピー機で印刷する事になります。

最近家庭用コピー機が進歩したと言われていますが、まだまだ駄目。A4しか使えないのが普通で、トナーや用紙の価格が非常に高く1枚当たりのコストも高くなるし、両面コピーや縮小拡大コピー等の機能がついていない事が多いし、しかも大変に壊れやすいとか。家庭用コピー機を使うのはやめましょう。業務用のコピー機は性能が抜群だけど、値段が高くて減価償却に何年かかるか分かりません。そういえば、「春棋会」というミニコミ誌が昔、ありまして、字がきたない事を気に病んでいた発行人が、字が巧くてミニコミ誌発行の前例もある某氏の、印刷を担当するという申し出を渡りに舟とばかり快諾したところ、その某氏が「会報」の巻末で、俺のコピー機の減価償却に何円かかるからコピー代は1頁何円だ、と値上げを宣言したから驚いたのは会員と発行人。この人はどうも最初から、購入して持て余していたコピー機の代金を会員に肩代わりさせる為に、そんな申し出をしたみたいで、腹を立てた発行人が雑誌を廃刊にしまったので、このもくろみは結局成功しなかったのですが。皆さんはこんな非常識なことはしないように。評判を落とします。

話が脱線しましたが結論は「コピー屋のコピー機を使え」です。最近東京ならばB4が1枚で10円を切るのが普通。地方でも20円というところは少数で、まあ10〜15円でできるでしょう。大抵の機械で両面コピーや縮小・拡大印刷など、ミニコミ誌に欠かせない機能がついています。残念ながら写真コピーが綺麗に写る機械は少数派です。

さて大切なのは誌代をいくらするかです。それには作成の経費がいくらかかるかが問題になってきますが、余り厳密に考えるのは興をそぎます。例えばナマ原稿を作成する

のに必要な鉛筆代やワープロのインク代、紙代なんか考えていたらきりがありません。ドンブリ勘定でいいのです。ただし下料金と印刷代の事は、流石に無視する事ができません。

まず下料金は先に述べたように62円から72円に抑えらるゝとて、問題は印刷代の方。コピー料金はB4で1枚10円、15円と考えると、1枚で2頁が収まるので、結構安くできそうですが、そう旨くはいきません。特にコピー屋以外に置いてあるコピー機は機械が整備されていない事が多くて、トラブルが予想以上に多いのです。特に多いのが、両面コピーで裏面をコピーさせた時に紙にシワが寄ってしまうという物。ひどい時は半分以上がダメになってしまいます。1回で2枚分がバーになってしまふので、これはこたえます。また誌面に変な汚れが出たり、トナー切れ寸前でかすれたりする事もよくあります。また機械は大丈夫でも表と裏の位置がひどくズレたり、うっかり逆さまにコピーしたり、頁を間違えたりと人間の方もしばしば失敗をやらします。もちろんこういうのを全部省いてはキリがないので、私も、ある程度我慢できる物は使っているのですが、あんまりヒドいのは使えないので、この分のコストを考慮する事は必要です。

おおまかな経費が計算できたところで、いよいよ誌代を決める事になりますが、雑誌を長続きさせたいのなら赤字は避けろというのが大原則です。最後までごく少数の内輪の会員だけで、しかも頁数も一定のままで発行を続ける場合には赤字が出て大して負担にはなりません。が、会員の数や頁数を自由にしたい、という場合、雑誌が発展すればするほど、赤字が増えるというのでは、雑誌継続の大きな足かせになります。赤字の金額も予想よりはずっと大きくなります。某誌なんか十万円以上も赤字がたまって潰れかけたほどです。

返事を出さなくても良いところ、手紙の良さがあるのです。もし半分も返事が帰って来れば、その事に感謝をしなければなりません。むしろ、思わぬ時に年賀状や暑中見舞いなどを頂いて嬉しくなる事が多かったです。つまり、返事を貰えなくても貴方の気持ちはちゃんと相手に伝わっているのです。決して失望してはいけません。また、私の場合には、何ヶ月もたつて、もう忘れたという頃になって「入会を希望します」というお便りを頂いた事が何度ありました。いかにも詰棋ファンらしいひょうひょうとした態度が嬉しくて、かえって印象に残ったものです。

ところで、返事の中には「会員にして下さい」とはっきり書いてくる方と、そうでない方がいます。問題は後者の方々を会員とみなすかどうかですが、私は避けるべきだと思います。入会を無理強いするのは良くないからです。もちろん、どうしても読んでももらいたい憧れの相手に対して雑誌を送り続けるのは、決して失礼な行為ではありませんが、その場合には「読んで頂くのが目的で勧誘ではない」事をはっきりさせておく方が良くも知れません。

また入会を希望しただけで、誌代をいつまでたっても送って来ない相手にも、送付は避ける方が良いでしょう。いったん購読しますと宣言しておいて雑誌の送付を受ける以上、購読を取り消す時には連絡を出すのが当然の義務です。とはいへ、送られて来た雑誌が面白くないからといって、すぐに購読取消の手紙を書くのは大変な勇気が要ります。特に、内気な人間が多い詰棋愛好家の場合はなおさらです。そういう相手にどんな雑誌を送るのは、かえって気まずい結果を招く恐れがあるので危険です。これは雑誌の実物を見ておらず、

具体的には1号200円、頁数が多い場合は300円から400円ぐらいが相場でしょうか。「将」の場合は12頁で200円、24頁で400円でしたが、最近コピー機のトラブルが大幅に減って単価も下がったので300円に値下げしました。

こちらの準備が終わったところで、いよいよ、誰に送るかという大問題が生じます。棋友が大勢いけば、挨拶代わりに1部ずつ送るのが一番自然で穏当なやりかたです。私の場合は摩利支天氏、若手同士の交流の場を持ちたいと色々な活動をしている時だったので、その趣旨に賛同する形で、摩利支天氏特製の「詰棋人住所録」を使って、面識のなかった若手の方々にもばらまきました。またバラや詰研会報、詰棋の詩に掲載されたベテラン作家の方々にも贈呈しました。

この場合、余り内気になっては駄目です。詰棋のミニコミ誌なんて、宗教や不動産の勧誘ビラなんかと違って毒にも薬にもならないものだし、詰棋が好きなのが詰棋の雑誌を買って不愉快になるはずがありません。だから仲間を増やしたかったら、面識のない方に雑誌を送りつけても別に失礼には当たらないのです。特に田代達生さんのように、詰棋を一種の文化遺産とみなす観点からあらゆるミニコミ誌を資料として収集している方も居られますから、そのような方には、むしろ送らない事の方が失礼、といえるかも知れません。

さて、送った相手から返事が来ます、しかし全部の方から返事を貰えると思うのは大間違い。私が「将」を配布した時には、返事を貰えたのは約6割ぐらいでしょうか。鶴田主幹が詰バラを復刊した時に、だいたい4百人ぐらいの旧会員に通知を出した時も返事は2百あまりだったといえます。元々、

人の噂をたよりに入会を希望して来た方の場合には特に大切な事です。私の場合は、入会希望者には見本として1と2冊贈呈し、誌代を送って来なかった相手に対しては、次号が完成した時に継続の意思があるかどうかをまず葉書で問い合わせ、返事或いは誌代の納入のあった場合だけに次号を送る事にしています。同様に、しばらくの期間は会員でいて誌代を送ってきたが、その後音信が全く途絶えて誌代が未納になっている場合にも、適当なところで催促の通知を出して、それに対しても返事がなければ送付を打ち切るべきです。

基本的な環境が整ったところで、いよいよ会員から作品や文章が送られて来ます。それをどのように誌面に活かしていくか、これが一番大切な事です。これには決め手が一切ありません。というより「お手本」を示して、みんながそれに習うというのでは、同じような雑誌がやたらに増えるだけで面白くもなんともありません。ただ一つだけ書くのであれば、編集者が一番熱心にやっている事が一番会員の心を捕らえるという事でしょいか。「将」のように結果稿を読みやすくしていかに作れば、作品の投稿が増えます。「詰研会報」や「めいと」のように研究モノを何よりも大切にすれば、優れた論文がどんどん集まります。「KOBQ」みたいに肩ひじ張らない読み物を多くすれば、類は友を呼ぶで、そんなのがドサッと来ます。「詰研会報」みたいに地方で誠実に雑誌を作っていれば、その地方の有力会員がどんどん入会してきます。「ちえつくめいと」みたいに家族的雰囲気大切にすれば、投稿文の雰囲気も自然と家族的雰囲気になってきます。「東京詰将棋広報」みたいに情報を高密度に圧縮して提供すれば情報が向こうからどんどん集まって来ます。「カピタン」や「将棋パズル」みたいにどんなフェアリー作品やパズルもO

Kとすれば、この世の者ならぬ変態作品が山のように集まります。『詰棋討論』みたいに会員に対してケンカを売りたいければ、望み通りに敵をたくさん作る事が出来ます。『詰将棋情報』みたいに詰棋界の内幕を暴露したければ、そういう噂話がどんどん集まって来るし、ついでに怪文書もどっさり来ます。後の方に述べた、極端にデフォルメしたみたいな個性があるミニコミ誌の方が読んでいて楽しいかも知れません。(でもあの『すんぴーとびくす』に高橋和ちゃんのサインや船戸陽子さんの話がどっさり集まるのはなぜなんだろう。主催者がそれほどまでに若い女性に熱心なのだろうか)

ではここで、以上にあげたミニコミ誌の主催者の一覧を紹介しておきます。

『将』発行者＝服部 敦 (〒336浦和市常盤7-9-15。大体月刊。B5・24頁で1冊3000円)

(★今のところ豊富な投稿作品と、日本一見やすい結果稿がウリ。将来は発行者が所蔵する将棋とチェスの膨大な収集作品を、誌上で全て紹介していくのが夢。それと、会合報告も大切にしたい。)

『詰研会報』発行者＝森田正司 (〒185国分寺市東元町2-14-15。月刊。B5・12頁で年間2千円)

(★散逸の恐れがある一般誌、新聞の資料の複写、近将、世界、マガジン掲載作の出題図面の紹介、作品の会員による検討機関「詰将棋クリニック」が売り物。数少ない手書き編集も魅力。)

『詰棋めいと』発行者＝森田正司 (不定期刊。A5・百頁余

りの活字誌で1冊千円〜千数百円(頁数による)。
(★きわめて豊富な研究論文が売り物。特に毎号必ず掲載される、何十頁にも及ぶ特集記事は圧巻。出題作品も数は多くないが質が高く、結果稿も良い。)

『KOB』発行者＝清水英幸 (〒115東京都北区赤羽台1-2-19。1983。B4・20頁余りで誌代は大体送料のみ。不定期刊(現状では年4〜5回))

(★とにかく読み物が豊富。詰棋人が書いたものならば、詰棋に全然かんげいなくともOKだから、自然とそういう物が集まる。驚いた事に連載マンガまで載る。ジャーナルの編集をしていた鈴木さんのイラストや船戸陽子さんの随筆も載る。誌上座談会やインタビューもある。柳田師匠もこの雑誌の常連。)

『東京詰将棋広報』発行者＝金子清志 (〒140東京都品川区南大井6-18-13。1985。年間5000円)

(★詰将棋の会合を中心とした情報を、たったハガキ1枚の裏表にギッシリ紹介した、まるで集積回路みたいなミニ雑誌。残念な事に現在休刊中。)

『すんぴーとびくす』発行者＝王泉慶安 (〒421-01静岡岡市用宗3-12-127。年6回。5000円)

(★駿棋会の直後に発行されるB4・1枚のミニ雑誌。主催者がだべっているだけ、と思うとヘンテコな作が1局紹介されたり、神無太郎氏の連載論文が載ったり、ワケのわからんところが魅力。発行者が静岡にやけにこだわって観光案内を始める事がある。)

『ちえっくめいと』発行者＝湯川博士 (〒351-01和光市新倉2-18-4-17。B5・12頁。年6回で1200円)

(★湯川氏とジャック・ピノー氏が主催する、朝霞チエスクラブの会員の消息が中心の家族的雑誌。会員が指した実戦の記事や、初心向けの序盤解説など。日本では珍しくチエスの実戦に力を入れている所が貴重。チエスプロブレムが毎回6局掲載される。)

『カピタン』発行者＝服部 敦 (不定期刊。B5・24頁。1冊3000円)

(★フェアリー将棋を中心に、あらゆるボードゲームに関する研究と作品を扱う。古将棋やチェスなど、日本に存在する他のどんな文献にも掲載される事がないような貴重な記事が豊富に掲載される。)

『詰恋会会報』発行者＝原田章雄 (〒028久慈市栄町37-126-11。A5・16頁。年6回。1冊2000円)

(★毎回、課題作を会員の間から公募して全て掲載するのがメイン。大変家族的な雑誌で、色々と楽しい趣向があるが、ここでは秘密にしておく。東北地方の有力詰棋人が続々と参加し始めたのも魅力。)

『詰将棋情報』発行者＝車田康明 (〒321-43真岡市熊倉3450-12。年4回。1冊2000円)

(★詰棋界の内幕を次々と暴露する反体制爆弾雑誌。怪文書のコピーが毎回掲載される。別冊として「詰将棋過激情報最先端」「特別会員用資料」「詰将棋雑誌経営」なども、次々に発行されている。)

スペースが少し余ったので最後に一言。私が今、一番期待しているのは、ローカル色の強いミニコミ誌の台頭です。ミニコミ誌が少数の会員同士の交流の場であるとすれば、それが一地方を拠点にしていれば最も自然で、また最も長続きする雑誌になるはず。今、『詰恋会会報』にそのような性格が少しずつ備わって来つつあるのは注目値する事です。『すんぴーとびくす』もこの線で行けば、案外(失礼)息の長い雑誌になるかも知れません。今、詰棋人同士の交流が活発になって盛り上がりつつある九州や北海道、四国などにもぜひ雑誌が欲しいと思います。必ず魅力ある雑誌になると思えますし、その地方の若手がどんどん伸びてきて、いずれは詰棋界を背負って立つようになると思えます。チャンスはそうあるものではありません。今の内に創刊して下さい!

ずいぶん長くなってしまいましたネ。それだけミニコミって面白いんです。貴方も雑誌を一つ作ってみませんか。

つめきクン

第186回 詰工房探訪の巻

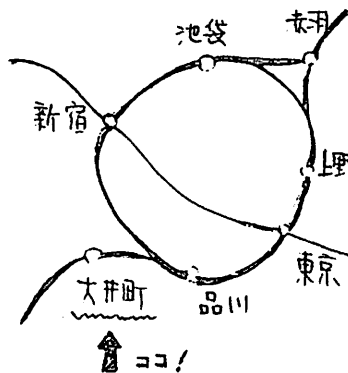
今日は東京詰将棋
工房訪問じゃ。詰工房はどこで
やってるかわかるかな
つめきクン

知りません

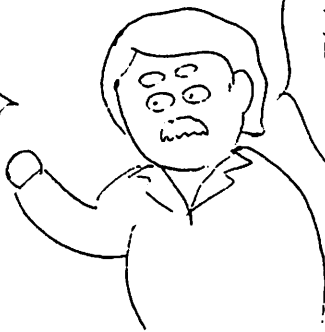


つめきクン

つめき博士

場所は大井町駅前
一きりあん
駅のまん前じゃ。

……じゃ。

PM 1:00
きりあん博士！ こっちらから
駒の音が聞こえて
きます！うむ、
入ってみたい
な。

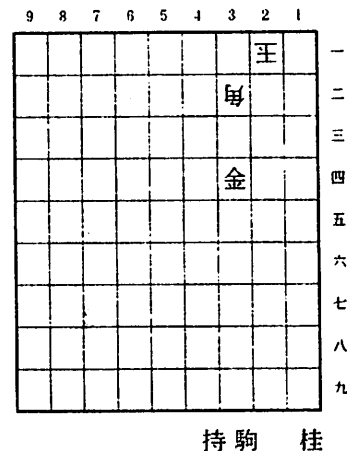
パチ、パチ…

ところで……「ばか自殺詰って何のこと？」
「対面って、どういう意味？」
などと、思っているあなた。無理ありません。
出題図面の左に「ばか自殺詰6手（安南）」などと書
いてあるものがありますね。それは、その図面における
ルールです。このように普通の詰将棋とルールの異なる
ものも、本書では同様に収録しています。特に注記のな
い部分は、普通の詰将棋と同じルールです。

「ばか詰」 攻方は相手の王様に王手を掛け、受方は王手を
はずす。ここは同じです。普通の詰将棋では、受
方は「できるだけ詰まないように」逃げる訳です
が、ばか詰では、あなたのお好きなように、つま
り詰ませ易いように動かして下さい。その代わり
に指定の手数以内で詰めなければなりません。
「ばか自殺詰」 ばか詰と同様に進めますが、詰ませるのは
攻方の王様です。最後に逆王手を掛けさせて、そ
の時にぴたり詰まされるようにします。これも、
指定手数以内で詰めなければなりません。
「ばか千日手」 やはりばか詰と同様に進めますが、指定手
数以内の偶数手で出題の図面を復元します。
それに続いて「一」で書いてあるのは、駒の動かし方につ
いてのルールです。次のルールでは、ある条件で、駒の性能
（動き方）が変化します。
「対面」 敵味方の駒が向かい合って接した時は、その双
方の性能が入れ代わります。
「安南」 味方の駒同士が縦に接した時は、前の駒は一マ
ス後ろの駒の性能で動くことができます。

〔鏡〕

王手を掛けられた時は、王様は王手を掛けた駒
の性能で動くことができます。両王手の場合は、
どちらの駒の性能でも動くことができます。



右図を例に説明しましょう。

安南ルールでは、3三桂と打つても王手になりません。打
った桂は金の性能だからです。また、例えば4一桂と打つて
も（王手ではないが）反則ではありません。4二に味方の強
い駒が来れば動けるので、行き所のない駒とはなりません。
対面ルールでは、2二桂と打つと王手になります。打った
桂は玉の性能になっていきます。反対に2一玉は桂の性能で
すから、1三玉と逃げるよりありません。また3三桂と打つて
も王手になりません。3三桂は角の性能です。
鏡ルールでは、3三桂と打つと1三玉と逃げるよりありま
せん。桂を打った時に、玉は桂の性能になってしまいます。
いずれのルールも「条件」が解消すれば、元々の性能に戻
ります。二歩や打歩詰は、その歩の性能に関わらず禁手です。



5時で一旦
しめて2次会に
向かう訳ですね



PM 5:00

(2次会)



昔は一旦喫茶店へ行っていたが、
最近はずいぶん居酒屋へ向かうのが主流じゃ。
ダラダラと何時間も過ごしておる。



PM 8:30

ようやくみんな
「ちょう吉」から
出てきました。



右端が
ありし日の
摩利支天さんじゃ



ワッ！
いきなり大勢の
詰リストが……



昔はカードゲームも
多かったが最近では詰将棋
をやることも多いようじゃ。
基本的には「何でもアリ」



中央にいるのが
世話人の
金子さんじゃ



金子です。

詰工房は会費500円。
但し女性と高校生以下は無料。
参加資格は「詰将棋が好きな人」
連絡先は 〒140
品川区南大井6-8-3-305
金子清志まで。



金子清志氏



夏期強化合宿

夏期強化合宿
という名目で
ゲームをやったり
酒飲んだり、
まあ普段と同じ
活動をする訳じゃ。

今年も例によって
加賀氏別荘にて
8月14、15、16日に
予定されておる。

カラオケ
付きじゃ

これは行く一手ですね

ぜひ皆さん、参加しましょう!!

Let's Go To TUMEKOBO.



又、飯
清水英幸

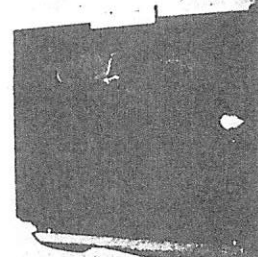
おわり

PM 9:00

なへかへいはいはんし
とてうそけいく
さこころじんし
つかい
ぬにこはすうなへか



お名前
年齢
性別
職業
趣味
特技
得意分野
得意分野



これが噂のリバース
カラオケですか?

松田さんがマイクを握って
おるので多分そうじゃろう。
尤も最近ではカラオケもマンネリで
他に行こうとする動きもあるようじゃ。

ボクがここね。

※ カラオケの「中」

以前は
「サトリ-館」
↓
最近では Box

どうじゃな、つめきクン
これで少しは詰工房のことが
分かったかな?

その他にも
冬は詰将棋大賞
選考会。
夏になると……

工房向に
ベスト1
歌 - ミュウ
不喰 - 山下

ハイ、何となく
詰将棋やって
酒飲んで歌うたう
会合だとい
うことは判り
ました。

← 沢真ハ

馬

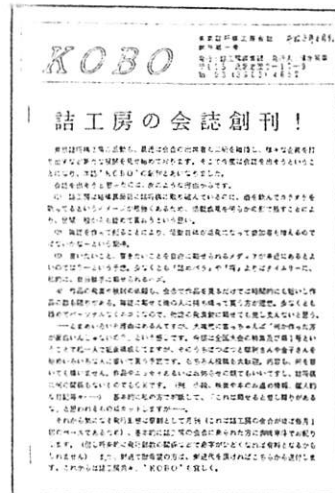
機関紙『KOBBO』の歩み

本誌『KOBBO』のタイトルの元となっているのは、東京詰将棋工場の機関紙『KOBBO』であります。91年6月に創刊されて、以来93年4月現在まで13号を発行している弱小ミニコミではありますが、ざっとその足跡を追ってみたいと思います。

【創刊第一号】 91・6・9 10頁

主な記事——創刊の言葉／全国大会道中記／今月の詰む将棋／会合報告／ついたて将棋

創刊号です。この当時詰工房と言えは「カラオケ」というイメージが付きまとっており、何とかそれを払拭したいという思いと、何でも気軽に発言できるメディアがあればなあ、という清水の提案で発行しました。創刊号の内容はほとんど全国大会のルポ。写真をベタベタ貼り付けたのが「詰将棋ミニコミ」としては新鮮だったようです。この時の「ついたて将棋」の記事が湯川博士さんの目に止まって、後の「面白ゲ



ーム将棋」のついたて将棋の棋譜につながりました。創刊から3号までは、続くかどうか不安だったので無料で発行しました。

【第二号】 91・7・28 16頁

主な記事——会合報告／詰将棋改造講座／「詰むパラ」インタビュー／TOKYO OSCAPE／覆面座談会／必取将棋

冒頭の「会合報告」は初参加の柳田さんが書いておられます。何とこの時参加者が20名を数えました。5名の過去を思えば夢のような人数です。

連載物が二つ始まっています。一つは「仮面ライター&ゲル作家」氏による「詰将棋改造講座」。これは7号まで続きましたが、これを最後にパタッと止まってしまいました。もう一つは何と女流プロである船戸陽子さん(当時まだ高校2年生)のエッセイ「TOKYO OSCAPE」。何故『KOBBO』に女流プロのエッセイが、と思われるでしょうが、その詳細は長くなるので割愛します。ともかく話題になりました。船戸さんのせいで北は北海道から南は九州まで広く購読希望者が殺到したものです。このエッセイも6号を最後にパ



【第四号】 91・10・6 22頁

主な記事——第一回駿棋会報告／インタビュー 富樫昌利氏／詰将棋の作り方／詰むパラとコミケ

第四号より誌代五十円。ちなみに送料は実費を頂いています。

王泉慶安さんが発起人で開催した駿棋会の会合報告が載りました。また、柳田さんの力作「詰将棋の作り方」が連載物として始まっています。この連載は10号まで続いているが、現在中断中です。

鈴木芳広さんからカットを送って頂き、よりビジュアル化しました。連載物も定着し、ポリウムは結構あります。

【第五号】 91・11・10 28頁

主な記事——詰将棋大賞のお知らせ／月例会報告／余詰みま専科／詰工房23回の軌跡／リレーエッセイ 松田圭市氏／詰工房課題作／週刊将棋の記事

第23回の詰工房で22名という記録達成。しかも船戸さんが参加され、この模様が「週刊将棋」紙上で大々的に掲載されまさに詰工房破竹の勢い!

という訳でそれまでの詰工房の歴史を振り返る企画物の記事も出ました。また巷で噂され続けていた詰工房の曲詰がパラと同タイミングでお披露目。「今月の詰む将棋」は「余詰みま専科」と名を変え、『KOBBO』唯一の作品欄として今後も存続しております。

また、送料を考慮しこの号より袋綴じから両面コピーとなりました。郵送先もこの時点で23人。今の約半分ですから「週刊将棋」や「パラ」の宣伝が効いたものと思われれます。

タツと終わってしまいました。何か嫌な事でもあったんではないか? (お、思い当たる事が……)

【第三号】 91・9・1 22頁

主な記事——詰朗会報告／フェアリーランド／連載まんが「つめきクン」／夏期合宿フォト／詰キスト・インタビュー 武者昌紀氏／朝霞チェスクラブ 1周年パーティー

連載物が増えて頁数が徐々に増えています。加賀孝志さんによる「入門者向フェアリーランド」が開始。現在まで続いている人気コーナーとなりました。また「連載まんが「つめきクン」」も始まりました。「詰キスト・インタビュー」もこの時に始まっています。

8月に加賀さんの別荘宅で行なった合宿のルポを載せる予定でしたが、摩利さんの原稿が間に合わない為急遽写真のみで誤魔化しています。



【第六号】

91・12・8 28頁

主な記事——第2回将棋会／プロアマチュア・シロート／リレーエッセイ 山田嘉則氏／金子事務局局長大特集／将棋のある風景／勝手にページジャック

この号よりワープロを買い替え紙面が奇麗になりました。鈴木芳広さんが「勝手にページジャック」を。また金子さんの連載エッセイも始まりました。しかしやはり好評だったのは「金子事務局長大特集」でしょう。ペールに包まれた金子氏の謎が一つ解き明かされたのです。

なおこの号より百円に値上がりしました。



【第七号】

92・1・11 24頁

主な記事——年頭所感／新春座談会／詰研忘年会レポート／リレーエッセイ 川清雄氏／会合に行こうよ／佐藤伸夫の仏至トーク

目玉記事は新春座談会。と言っても実際には12月の詰工房の酒の席で録音したものです。例によって危ない発言が多くそれをまた平気で掲載しました。



【第十号】

92・7・19 36頁

主な記事——本出版計画／森英生さん個展／インタビュー エッセイ 江崎正美氏／読者のページ

この号で初めて詰工房作品集の計画が出されました。また、前号発送時葉書を送って読者の近況をそのまま「読者のページ」として掲載するとうう常套手段も使われて、音信不通だった船戸さんの返事も載せることが出来ました。しかし、何と言っても編集長が力を入れたのが、かつての



詰研忘年会と、それに伴う横浜詰工房（これについては後述）のレポートもあります。

佐藤氏の仏至トークはこの後何回か掲載されることになり。また金子氏の「会合に行こうよ」はその後、岩本さんと誌上交通を繰り返すことになりました。

【第八号】

92・3・23 32頁

主な記事——上半期10大ニュース／結果／リレーエッセイ 弘光弘氏／インタビュー 馬詰恒司氏／赤面山スキーツアー／詰工房会合報告／詰将棋大賞メイン記事は「第1回詰将棋大賞」と一史上最長を狙う会合報告。実に11頁を金子さん一人で書かれました。

また「赤面山スキーツアー」など、いよいよ詰将棋とは何の関係もない記事がはびこっています。ちなみに両面コピーの関係上頁数が4の倍数となる為、32頁分作らなければならない、いろいろ苦心の跡が見られます。

【第九号】

92・5・17 28頁

主な記事——類作について考える／全国大会in百石／タイム・トラリアル／ブリッジへの誘い／第1回詰工房指将棋大会

「ブリッジへの誘い」は金子さんの連載物。ブリッジも氏の趣味の一つです。

全国大会の記事は後に紹介する臨時増刊号と併せて読むとまた一段と深く内容が分かります。

第1回詰工房指将棋大会は企画としては面白かったのですが、詰将棋をやりに来た参加者には不評でした。斎藤吉雄さ

んが優勝しましたが、多分第2回は無いと思います。

『将棋ジャーナル』誌上を賑わせた「裏読者のページ」。

【第十一号】

92・10・10 28頁

主な記事——本計画概要決まる／第9回九州G報告／双玉詰将棋／夏期合宿レポート／将世5手詰コンテスト

この号は特に核となる大きな記事はありませんが、「将世5手詰コンテスト」は、当時十万円で話題をさらった同コンテストの結果発表前に、実質「詰パ」幼稚園を担当していた金子さんの目で十万円作を予想、全作品に簡単なコメントを頂いたものです。予想は見事に外れましたが、優秀作はさすがに半分当たりました。

また「つめきクン」が何故かストーリーから外れて現代に戻り、登場人物が透明人間化してしまいました。作者スランブが原因です。

【第十二号】

93・1・9 24頁

主な記事——年頭にあたって／詰研会報200号記念大会／プロブレムの課題コンクール／明解 詰将棋用語事典／番外編つめきクン 作品コンテスト

「プロブレムの課題コンクール」は山田嘉則さん。前回の「双玉詰将棋」に続く投稿で、岩本修さんと同じくたびたび

詰工房の過去と未来について語る

出席者 金子清志 清水英幸 鈴木芳広 中岡清孝 松田圭市 柳田明

清水 今日です、『KOBQ』の座談会ということで、詰工房の過去を振り返りながら、なおかつ先の展望といえますか……。

柳田 リーチ。

清水 だから……そうゆうの記事にならないんですけど。(笑)

柳田 あ、そうか。昔野口英世がね。清水 それは「てんぼう」だって……。

(笑) そうじゃなくてですね、詰棋界の未来まで広げて、早い話が何を喋ってもいいと。そうゆう事でちょっとお話をしようと思う訳です。

ACTIIの船出

清水 今回の詰工房は何回になりましたか？

「器物破損以外は何でもあり」とか言われて、何のことかさっぱり分からない。(笑)

松田 「何すんですか？」「いや、詰将棋はやらないんだけど」(中岡氏爆笑)

金子 摩利さんで、人誘うとき全部そうなんだよ。誰誘うときも「器物破損以外は何でもあり」。(笑)

清水 分かんないんだよね。説明になってない。
中岡 それ凄いいルールですね。原則が、松田 いや、だからね、学生運動か何かかって。(一同笑) 何か危ないのかなーって、どうしようか迷ったんだ、行く時。

詰工房のおこり

清水 そもそもその出来たきっかけがよく分かんないんですが、

金子 きっかけはね、伝え聞くところによると、一回目をやる前の年の年末に、「詰朗会B組」ってのがあって、5人ぐらいでやったのかな。あの時のメンバーがね、摩利支天と相馬康幸と田島秀男、奥村理也、池田俊哉。それを相馬さんの家でやった

金子 この間やった4月29日が三十五回です。

清水 『KOBQ』の5号(註1)です。この時の記事が「詰工房 23回の軌跡」。この時からすでに十二回もやってしまった訳ですが。

金子 フォローできるだろうか。

清水 でも金子さん、一回からほとんど参加してるから……。

金子 全部参加してる。知らない間に世話人になっちゃった。元々世話人は摩利さん(註2)だったんだよね。中岡 これ摩利さんがやろうとゆうことで始めたんですか？

金子 摩利さんがあの時松戸住んで、第一回松戸なんです。岡部雄二さんとか小林敏樹さんとか、あの辺が結構主力メンバーだった。

清水 その時の詳しい報告が、この

らしいんですよ、それから何か話が發展して、摩利さんが自分で『将』に広告出したり、葉書を結構近辺の人に。彼、東京近郊の詰将棋やる人とか大抵知ってて。それで葉書出しまくって。一回目が十月ぐらいに松戸でやって。

清水 やっぱこの「ACTII」という名前からして、ACTIの東京バージョンという思いが。

金子 ACTIも彼がふっかけてたから。今嵐直樹だったけ、あの辺けしかけて枝川(真也)君とかね。浜田博とか、清水 これ(第一回リポート)を読むと「どのような会にするか各方面から意見を聞いて回ったが、とりあえず当初の予定通り、年に2回作品展を行なう。それ以外はなにも課題がない」。(山下雅博氏談)と書いてあります。(笑)

金子 それは全然目的は達成されてないね。
清水 まあ当初の予定だからそれはしょうがないですね。結局それで金子さんが事務局長とゆう立場になったのは？

金子 事務局長と一つの間にか言われるけどね、なった覚えはない。清水 幹事長……世話人か。

『将』の22号に載っているんですね。「今新しき伝説が生まれる」という……。「ACTII Vol.1」リポート」ということで、このように。(『将』を出席者に見せる)
中岡 何か活気のあるものが出来たと、凄いいましたね。あの頃。

『何でもアリ』

松田 初め、詰朗会にたまたま出たら摩利さんからまれてさ、(一同笑)何か「詰工房」ってのが来るから来いって言われてさ、「どうゆう会合なんだ」って聞いたたら、何か「器物破損以外は何でもする」とか。(一同笑)

清水 そうそう。(自分も)いきなり

松田 やっぱ「詰将棋広報」(註3)の葉書を出して事務局って感じが定着したんじゃないの。俺はそんな感じがするけどなあ。

清水 途中で一回組織図みたいの書いたでしょ。私が戻った頃に。

金子 あれはギャグだよ。ギャグ。清水 「どこまで本気でやるの」とか言われて。

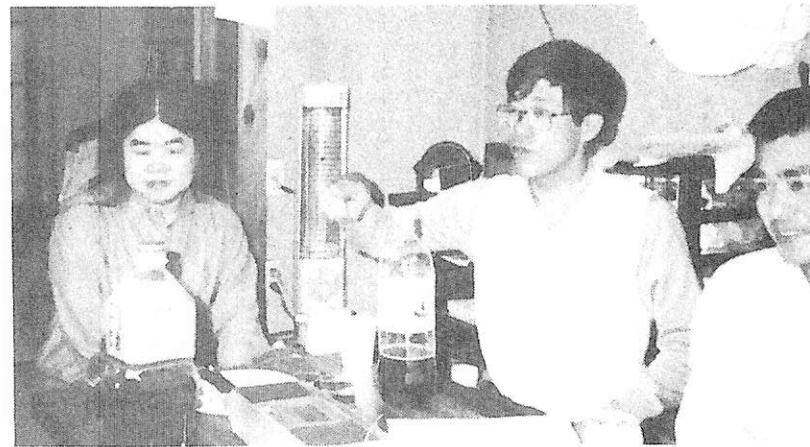
金子 「事務局」があって、「広報局」とか「出版局」とかあって。(笑)松田 あれ面白かったよね。清水市代さんの葉書で、「事務局御中」とか書かれてあって。(註4)
金子 うちに来るのみんなそうだよ。「東京詰将棋事務局御中」とかで来てる。

松田 俺も初め何かなーって思ってた。多分これは詰バラの下請け顧問かなーとか。(一同笑) 東京でやってる詰バラの関係の組織かなーと思ってる。

詰工房興亡史

清水 最初の三回までは新松戸市民センターでやっている。結構人散いすね。

右から中岡氏・柳田氏・鈴木氏



93	92	91	90	89	88
2月 第2回詰将棋大賞	8月 第2回夏期強化合宿 (作品集の発行全国大会に伸びる)	6月 『将棋ファン読本』発行 (この頃作品集発行計画持ち上がる)	3月 略称T.T.M.に、葉書バラ撒き作戦 全国大会にて『詰むバラ』頒布	9月 A.C.T.II船出 会場、飯田橋に	12月 詰朗会B組結成
	5月 詰工房指将棋大会開催 全国大会で詰将棋イントロクイズ	7月 『K.O.B.O.』創刊 参加者20名 『K.O.B.O.』に船戸女史の原稿掲載	3月 A.C.T.II作品展出版 会場、大井町きゅりあんに		
	3月 第1回詰将棋大賞	8月 加賀さん宅にて夏期強化合宿	9月 一周年記念 山田康平氏未到着事件		
	2月 『週刊将棋』に記事載る	10月 船戸女史会合参加 参加者23名	11月 (この頃、参加者5名と低迷期) 名称『東京詰将棋工房』に		

金子 新松戸でやってて、そこはね会場は2ヶ月前からしか取れないんですよ。部屋代がかかって、駅から遠いんだよね。それで4回から飯田橋の東京都庁の中にあるセントラルプラザっていう。

清水 駅の真ん前ですよ。

金子 駅の上に立ってるというか。ここだったらタダだから。

清水 七回までは飯田橋でやって。金子 やっぱり回数重ねていくと、2ヶ月前でないと予約できないというのがネックになってきて。詰バラに広告出すと、出した月か間に合わないかどっちかなんですよ。

清水 この頃までは特に大きな事件というのはいなかったんですか。五回に浜田博初参加でいろいろ(『K.O.B.O.』に)書いてありますが。

金子 翌日が創棋会だった。この近所のカラオケ・スナックでさんざん騒いで、そこから例の各駅の鈍行(東京発・大垣行)で大阪に行って。清水 この時にA.C.T.IIの作品展を出したという。

金子 出した。出してボロボロだった。清水 あれは、面白かったですね。あの結果稿は、(註5) 一通り解説してその後「裏の解説」とかで担当

が関呑舟さん。あれは大笑いしました。

金子 A.C.T.IIの4文字を出して全部潰れたの。全部関さんが余詰指摘して来てね。

清水 「A」が新井健さんですか。あとの3つが金子さんで。

金子 私が予備作用意したら全部予備作が載ってしまったという。あれは流石に結果稿書く気力なかったもんね。なかったことにして下さい。

(笑)
清水 八回より場所を「きゅりあん」(註6)に移して。

金子 そこは6ヶ月前から取れる。場所代はかかるんだけど。今借りてる部屋は四千円・五千円ぐらいする。8人来るとペイできるのかな。

清水 それで、第十二回が丁度一周年記念ということで。何か「前宣伝したにも関わらず何もなかったのでひんしゅくを買った」と書いてありますが。(笑)

金子 その頃からちょっと低迷期に入っていく。

清水 そうですね。この頃からだんだんと、九回の時10名だったのが、5名・9名・7名・7名・5名・5名・5名とゆう時代が来るわけですね。ここ

が一番低迷期だった訳ですね。(笑)
中岡 冬の時代ですね。

柳田 ほとんど氷河期だな。

金子 5名たって実質全く同じ参加者が3名ぐらいいる筈だからな。

中岡 駿棋会状態ですね。

清水 十四回の時は、菊田(裕司)さんが来てんだけど山田(康平)さんが来れなかったという。

中岡 あ、迷ったんでしょう。

金子 何かね、大井町の駅で降りて道に迷ったとか。

清水 あれは指将棋の大会でこっちに来たのかな。

金子 そうそう。何か途中から来るとかゆう話だった。菊田君は早目にやめて帰ったとか。

柳田 ただ負けただけじゃないだろうかとはいうけど。

清水 十三回の時に摩利さんが来てませんね。

金子 その位から欠勤が目立つようになった。

清水 摩利さんが「四時半の男」と言われ出したのはいつからなんですか?

金子 仕事かわってからだけどね。

清水 それとは非聞きたいのは、詰工房と言うと「カラオケ」というイメ

ージがかなりありましたが、どこかへんでそういったイメージが定着してしまってたんでしょう。

金子 松戸の時はカラオケ行ってた。多分最初に行ったのは五回だよ。そのカラオケ屋ってのは、私がボトルカード持ってたんですよ。1年間無料のボトルカード。一万八千円でそのハウスボトルが無料なんです。来るとおつまみ代だけで飲める。

清水 それで盛んに行っていたと。かなり『将』に会合報告書いてますね。

中岡 「A.C.T.II」から名前変わったのいつなんですか。

金子 詰バラの編集長に言われて、校正の時に「A.C.T.II」と「A.C.T」を間違えるから変えてくれとか言われて。

清水 十五回の時ですね。

金子 2次会の喫茶店でモヤモヤとして決めちゃったんだよね。話し合ってもせずに決めてしまった。

柳田 悪い名前じゃなかったような気がする。その後「工房」が独り歩きして「ナントカ工房」が……。 (一同笑) (註7)
中岡 その後「カレー工房」とか。 (一同笑)

清水 カレー工房は全然違う。摩利さんの例の「葉書ばらまき作戦」が行なわれたのは？

柳田 ベトナム戦争みたいだな。

金子 湯川（博士）さんが来るのがあるでしょ。その時に「そんなのやっぱり会報作んなきゃ駄目だよ」ってゆう話になって、私が葉書一枚だけのを作ったんですよ。僕はそんなにネットワークないから、摩利支天氏に「これ何枚コピーしてもいいから」って原紙渡して「配って」って言ったから、えっらい配ったんだよね。

中岡 二百枚位ですか？

金子 東京の女流棋士全員配ったって中岡 えーっ！

清水 プロ棋士にも配ってる筈でしょ、金子 屋敷さんとか、先崎……

柳田 よく配りましたねえ。誰が払ったのそれ？

金子 （摩利さんの）自腹ですよ。だってそんなに配ると思ってないもん。その時彼、印刷所勤めてたからね。清水 私が出たのがその一個前の十六回。91年の2月3日で、この時にパラの会合報告で、5人しかいなくて、何か東京近県の方の参加どーのこーのって書いてあって、かわいそうだなとゆう思いとですね、詰キストを

見たことがないんでどんな人かなと（一同笑）。そうゆう興味で参加したんですが、その時は私は鞆に『詰むバラ』（註8）の図面を持ってたんですが見せることなくその日は過ぎてしまっただけ。

金子 詰将棋やんなかったですからね、あの頃はまだ。

清水 いきなり「はげたかの餌食」というカード・ゲームをやってて。最初入ったら金子さんと川（清雄）さんがいたんですよ。で、川さんに対面話を見せられて、何がなんだか分からない世界に……。その後自己紹介した後に「はげたかの餌食」を。

金子 あの頃、凄く流行ってた。

清水 で、例によって夕方に摩利さんがやって来て、「清水です」って言ったから、手帳の中に私の名前がすでに書いてあるという事実を知って、何なんだこの人は、と……。笑。

金子 ちゃんと住所とか電話番号も書いてあるんだ、彼の場合は。

黄金時代の到来

清水 それで湯川さんに会報出さなきゃ駄目だよとゆう風に説得をされて、

清水 カレー工房は全然違う。摩利さんの例の「葉書ばらまき作戦」が行なわれたのは？

柳田 ベトナム戦争みたいだな。

見たことがないんでどんな人かなと（一同笑）。そうゆう興味で参加したんですが、その時は私は鞆に『詰むバラ』（註8）の図面を持ってたんですが見せることなくその日は過ぎてしまっただけ。

金子 湯川（博士）さんが来るのがあるでしょ。その時に「そんなのやっぱり会報作んなきゃ駄目だよ」ってゆう話になって、私が葉書一枚だけのを作ったんですよ。僕はそんなにネットワークないから、摩利支天氏に「これ何枚コピーしてもいいから」って原紙渡して「配って」って言ったから、えっらい配ったんだよね。

金子 詰将棋やんなかったですからね、あの頃はまだ。

中岡 二百枚位ですか？

清水 いきなり「はげたかの餌食」というカード・ゲームをやってて。最初入ったら金子さんと川（清雄）さんがいたんですよ。で、川さんに対面話を見せられて、何がなんだか分からない世界に……。その後自己紹介した後に「はげたかの餌食」を。

金子 東京の女流棋士全員配ったって中岡 えーっ！

清水 で、例によって夕方に摩利さんがやって来て、「清水です」って言ったから、手帳の中に私の名前がすでに書いてあるという事実を知って、何なんだこの人は、と……。笑。

清水 プロ棋士にも配ってる筈でしょ、金子 屋敷さんとか、先崎……

金子 あの頃、凄く流行ってた。

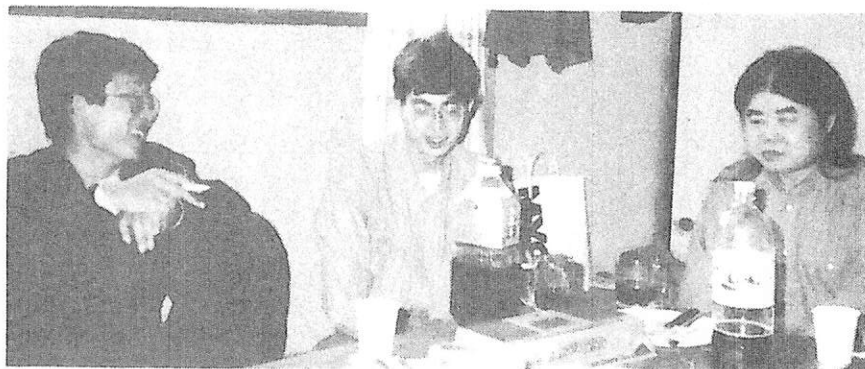
柳田 よく配りましたねえ。誰が払ったのそれ？

金子 ちゃんと住所とか電話番号も書いてあるんだ、彼の場合は。

金子 （摩利さんの）自腹ですよ。だってそんなに配ると思ってないもん。その時彼、印刷所勤めてたからね。清水 私が出たのがその一個前の十六回。91年の2月3日で、この時にパラの会合報告で、5人しかいなくて、何か東京近県の方の参加どーのこーのって書いてあって、かわいそうだなとゆう思いとですね、詰キストを

清水 それで湯川さんに会報出さなきゃ駄目だよとゆう風に説得をされて、

左から松田氏・金子氏・鈴木氏



柳田 そうですねえ。3回葉書が来たんだその頃。

清水 この時に『KOB O』を発行してるという。

柳田 いいタイミングだった。

船戸女史参加

中岡 二十回の記念イベントはなかったんですか？

松田 あ、「ツメコウボウ」の曲詰作るの何回の記念だったけ？

清水 三十回じゃないの？

金子 二十回だと思う。二十回から始めて。

松田 検討して、「ボ」が集まらないとか。

柳田 「メツボウ」とか。（註9）

金子 あった、あった。

清水 そしてついに、夏期強化合宿までやってしまったという。

鈴木 何を強化したんですか？（一同笑）

柳田 でもあの時はまだ「将棋」と名がつくものをやってた。

清水 合宿で何やったかという「ゲーム・トライアスロン」。

柳田 中国象棋、チェスとトランプ将

略称も「T T M」ということになって、それが功を奏してか十八回はいきなり初参加の人が5名もいる訳ですね。この中で松田さん・長山（聡）さん・川口（信博）さんは詰朗会から……。

松田 そうそう。詰朗会で摩利さんに……。この時まだ、詰バラとてなかったんだよ。この時に詰工房ってのが4月の21日にあるから、何か訳の分かんない会合だけでも、人が足りないから来てくれって。（笑）

清水 武者（晶紀）君とか藤沢（秀樹）さんは葉書のほうからじゃないですか？

金子 そうかもしれないね。

清水 この頃から段々盛り上がってきて、十九回の時も12名。加賀（孝志）さんが初参加。加賀さんはどうやって来たんですかね？

柳田 電車で来たんだらう。

金子 加賀さんなんか昔からの解答者だから、摩利さんが葉書出したのかもしれない。

清水 十七回の時は（湯川さんが）取材に来ただけで記事にならないって事で載らなかったんだ。で、ついに二十回は参加者20名になってしまいうという。柳田さん初参加ですが。

棋。

清水 資本還元将棋と王手将棋。六種類くらいありましたね。2日間に渡ってやったんですよ。誰が優勝したんだっけ、加賀さんだった？

金子 レポートが残ってないんだよね。

柳田 取り敢えず『KOB O』の写真で参加者が大体分かる。

清水 この後、盛り上がりつつも二十三回目まで河原（泰之）さん、須田（将一）さん、富樫（昌利）さん、船戸（陽子）さん、三谷（郁夫）さんという凄い面子が全員初参加。

中岡 船戸さんの参加は大きいですね。柳田 大きかった。

松田 あの時ビックリしたよね。

清水 たまたま湯川さんも来てて、これが『週刊将棋』の記事に載りましたね。（註10）

中岡 女性に参加したのは凄いなあ、九州グループでは考えられない。

清水 やっぱり船戸さんが『KOB O』に書いてて、その中から来る気になった……。

松田 この頃はなかなか活気があったな。

金子 「この頃は」とか言わないように。

松田 これから段々減っていくんでし

よう？

金子 今でもね、入れ代り立ち代わり
来てる人が一遍来るとこれくらい
(二十三回23名)の人数になる。

松田 船戸さんのインパクトが大きか
った。これから楽しくなるのかな
ーと思ったら静かになっちゃったから
なあ。(一同笑)

中岡 これがピークだった訳ですね。
清水 丁度あの時船戸さんは、詰朗会
と詰工房の区別がついていなかった。

(笑) (註11)

柳田 船戸さんに限ってない。
清水 場所が同じでメンバーが同じだ
から。

金子 詰朗会だって意識して来るのは
初参加の人と橋本哲さん位だよ。

中岡 色をつけないと。詰朗会はこう
ゆう事やってるけど……。

金子 詰朗会はこうゆう事やってるけ
ど、詰工房はこうゆう事やってない
と。(一同笑)

柳田 正確な表現だ。

中岡 だから、「よし今日はやるぞ！」
と思っ詰朗会のもりで来たら、
「工房じゃないか、何もやってねえ
じゃねえか」って怒って帰っちゃっ
たりして。(笑)

清水 まあ普通は(詰朗会は)課題が

あるからあんまり間違えないでし
うけどね。
松田 俺は初めは詰朗会は作品を作
て行く、詰工房は遊びに行くって
うね、そうゆう風に切り換えてた
だけ。

ヨコハマ工房の歴史

清水 そもそもヨコハマ工房というの
は実体があるんでしょうか。これも
今ヨコハマ工房な訳でしょ。通算何
回目ですか？

柳田 最初が麻雀で次がカラオケで、
あとスキー編があって、この間麻雀
1回やったな。

清水 北志賀(スキー)はヨコハマ工
房と言っているのか。

柳田 北志賀工房だ。(一同笑) 五
回目ですね、今日は。

金子 何でも「工房」つけりゃいい。
(笑)

柳田 これ(「KOB」明と清志の
北東北一周弥次喜多道中)はもう命
削って書きましたからね。スキーの
写真だけの中身がないのとえらい違
いだよ。

中岡 これは面白かったですね。東北

の旅編は。ぐんぐん引き寄せられて
行く。なんちゅうか、ペンが走って
るなあって感じ。
柳田 彼(中岡氏)がきつと九州から
こっちへ来た話を一冊にしてくれる
だろう。(一同笑)

他のイベント

清水 あと、「詰将棋大賞」を2回ま
でやってしまいました。これはそも
もどうゆう話で？

柳田 酒の席で出たに違いない。
金子 もともとギャグでしょ。あれは
あんな大きくするつもりじゃなかっ
た。

柳田 詰バラに送ったら、詰バラが堂
々と。「看寿賞じゃねんだこれは」
って思ったけど。

金子 あれ看寿賞より扱いがでかいん
だもん。(笑) 一頁半まるまる出
てるし。

中岡 受賞すると凄く名譽な感じ。

柳田 何にも出ない。

清水 だから何かあげましようとか言
ってるんだけど、全然まとまらない
し財源もない。(笑)

中岡 湯川さん凄く喜んで原稿書いて

ましたよ。

清水 今回の第2回の大賞にしたって
受賞者が知らないと思うんですよ、
受賞通知を受けてない。バラにも載
ってないし。(笑)

柳田 勝手に選んでるだけ。

清水 あと他に詰バラ幼稚園を担当し
たという……。

金子 もう忘れたいあは。(註12)

中岡 あれ摩利さんが担当TTMでし
ようって言ったんですか？

金子 そう、しようって言い出して、
一回目の選題の言葉を書いたの、彼
がそれで終わっちゃった。

清水 「A.C.Tとの対抗戦の話」とい
うのが自然消滅しましたが、

金子 A.C.T対詰工房5番勝負」と
なかなか具体的な話になってたんだ
よね。メンバー選考まで行ってたん
だけ。

柳田 短編・中編・長編・カラオケと
か。

金子 カラオケない。(笑)

清水 「カラオケ」とか「大食い」と
か(詰バラの)記事にならないもの
は駄目と言われて思わす萎えてしま
った。「麻雀」とか。

金子 何かね、普通の詰将棋三部門と
フェアリー二部門に分けて、選手の

選考まで行ってた筈んだけどおじ
ゃんになってしまった。

清水 あとは他に、「将棋ファン読本」
(註13)とかマスコミにも広く有名
になってしまった。「近将」にも
(「KOB」の)広告が出てしま
ったし。

松田 あれびつくりしたよね、凄いわ
つくりした。

今後の詰工房

清水 まあ大体こんな感じで振り返
るかなと……。

鈴木 お、背後霊が……。

清水 どうですか、金子さん、ずーっ
とやって来まして。

金子 最近情性になってるから、
清水 最近固定化してきましたよね、
面々が。

金子 京大グループとか卒業と同時に
東京に雪崩込むケースが多くて、

清水 やっぱり会合報告をいろいろ載
せない駄目ですね。

松田 でも静かな会合は静かな会合で
いんじゃないの。

清水 一時期テーマ云々と騒いでいた
こともありました……。

の旅編は。ぐんぐん引き寄せられて
行く。なんちゅうか、ペンが走って
るなあって感じ。
柳田 彼(中岡氏)がきつと九州から
こっちへ来た話を一冊にしてくれる
だろう。(一同笑)

他のイベント

清水 あと、「詰将棋大賞」を2回ま
でやってしまいました。これはそも
もどうゆう話で？

柳田 酒の席で出たに違いない。
金子 もともとギャグでしょ。あれは
あんな大きくするつもりじゃなかっ
た。

柳田 詰バラに送ったら、詰バラが堂
々と。「看寿賞じゃねんだこれは」
って思ったけど。

金子 あれ看寿賞より扱いがでかいん
だもん。(笑) 一頁半まるまる出
てるし。

中岡 受賞すると凄く名譽な感じ。

柳田 何にも出ない。

清水 だから何かあげましようとか言
ってるんだけど、全然まとまらない
し財源もない。(笑)

中岡 湯川さん凄く喜んで原稿書いて

金子 (メンバーの)固定化はしてな
いと思うんだよね、あんまり。

清水 最近は一時期よりずっと詰将棋
やってますよね。

金子 ゲームやなくなっちゃったな、
あまり。

清水 昔ずーっとカードゲームだった
りチェスだったり中国象棋だったの
が、最近みんな詰将棋。

松田 仲西さんがね、中国象棋持って
来てたよね。

柳田 本来の姿に戻ったような気がす
るがなあ。

金子 あと居酒屋行って何時間もある
ことが多くなってきた。5時半から
10時半までいたことがあった。

柳田 長かったなあ、二合徳利で十本
位あけたもんなあ、二升かこれは、
とかあの時驚いたもんなあ。

清水 今後はどうなるんでしょうねえ
(笑) どうゆう方向へ行くんです
よいか？

松田 最近また京大出た頭のいい人が
参加すればレベルが高くなるんじや
ないのかな……。こうゆう作品集も
また出す予定があるんでしょう？

柳田 いやー、当分出ないだろうね。
金子 個人作品集をこういうタイプで
出す契機になるんじゃないかな。こ

うすれば割りと、やる気になれば簡単に出来ますよ、と。

清水 期間的に短く出せる、そうした実例にしたいですね。中岡さんなんかどうですか、詰工房、端で見ていて。

中岡 うーん、実際参加してみないと雰囲気は伝わりませんからね。活字だけでは。

清水 自分もこの前初めて香龍会に参加してみても、「あ、全然違うもんだな」と思ったけど。

柳田 本来の会合の在り方に近づいてきたんじゃないかな。ボードゲームをやっているとおかしな感じするよね「やるな」とは言わんけど。昔は詰将棋やってくる人が（詰工房には）いなかった。（笑）

清水 何か詰工房の歴史を見ると最初に創設期があって、それから落ち込んだ時期があって、盛り上がりつつ来た時期があって今また第四期ということか、成熟期という感じがする。

柳田 今回本を出すというのはその中で非常に大きな出来事でしょうね。次に出るのは五年後か十年後か分からないけど。

清水 いろいろテーマを持たそうとして指将棋大会までしたことがあった

が、あれは参加者には不評だった。（笑）

松田 「工房を何とかして発展させなきゃ発展させなきゃ」って言って、それが人数を増やすって感じだったけどさ。何か目先を変えて人を集めるって感じだったけど。

清水 新しい人を参加させるってゆー動きはいいと思うんですけど、潜在的に会合とかに来たいという人を。そうゆう人たちを（会合に）定着させるという動きも本来あっていいんだらうけど、そうゆうのがうまくいってきただろうかよく分からない。

柳田 雰囲気としての詰工房らしさを考えれば、やっぱり来た人がやりたいうことをやるというので、いいんじゃない。

清水 まあ、結論はまとまりませんが、一応「詰工房の未来は明るい」ということにしたいと思います。（笑）強引過ぎますか、やっぱり。

『注釈』

註1……東京詰将棋工房の機関紙『K OBO』のこと。清水英幸発行。
註2……詰将棋界のネットワーク・サバ。詰工房三大始祖の一人。

現在、消息不明？

註3……金子清志発行による葉書の会報。

註4……女流プロ清水市代さんが金子清志に「詰将棋広報」に対して暑中見舞を送った事がある。

註5……ACCTIIの作品展の結果稿が詰パラに掲載された記事を指す。
註6……大井町駅前にある。詰工房の会合開催場所。

註7……柳田氏主催のヨコハマ工房などのこと。
註8……名著『詰む将棋パラダイス』のこと。

註9……「ボ」「ツ」が潰れて「ボツ」。さらに「メ」と「ウ」も潰れ「メツボウ」と言われた。

註10……10月30日付の『週刊将棋』『将棋大好き大集合！』に大きく取り上げられた。
註11……詰朗会（つめろうかい）という会合も同じ場所で開催されている。

註12……最近結果稿が落ちたりしている。
註13……柳田氏の記事で詰工房も写真入りで大きく取り上げられた。

執筆者プロフィール

- ①生年月日・現住所
- ②職業
- ③おもな詰将棋歴
- ④当面の目標など
- ⑤他の趣味
- ⑥本書の刊行にあてて一言



馬詰恒司（うまづめ・こうじ）

- ①昭和41年2月3日・神奈川県
- ②旭化成マイクロスステム勤務
- ③詰パラ入選4回・近将入選2回
- ④詰パラ半期賞・看寿賞各1回
- ⑤作品完全率5割
- ⑥読書（純文学以外）
- ⑦パソコンで遊ぶこと、その他
- ⑧参加できて光栄です。



王泉慶安（おういずみ・けいあん）

- ①昭和37年9月12日・静岡市
- ②会社員
- ③現在、駿棋会世話人
- ④特になし
- ⑤特になし
- ⑥無事刊行を期待します



加賀孝志（かが・たかし）

- ①昭和18年・千葉県浦安市
- ②道路公団関連会社「道栄」勤務
- ③詰棋四段
- ④完全作百局達成
- ⑤囲碁二段、オセロ二段、競技麻雀三段、指棋四段



金子清志（かねこ・きよし）

- ①昭和42年2月8日・東京都
- ②公務員
- ③作図での受賞は、詰パラ半期賞4回、詰将棋ジャーナル賞（佳作）、妖精賞、ほか
- ④自分の部屋を掃除すること
- ⑤麻雀、ブリッジ
- ⑥腱鞘炎になりそう



川清雄（かわ・きよお）

- ①昭和22年12月8日・東京都
- ②公認会計士
- ③FL登壇21回
- ④詰パラ初入選
- ⑤関西演芸鑑賞
- ⑥詰棋も趣味の一つだから、気楽にやればよい



- 松田圭市（まつだ・けいいち）
 ①昭和42年8月4日・平塚市
 ②POST MAN
 ③詰バラ初登場首位
 ④これで終わりにしようかな、どうしようかな
 ⑤ふざけた文章を書くこと
 ⑥「詰むバラ」を超える楽しさを全詰キストへ送りたい



- 藤沢秀樹（ふじさわ・ひでき）
 ①昭和35年4月26日・東京都
 ②会社員
 ③平成3年度解答順位戦百一位
 ④将棋世界五段コース卒業
 ⑤マンガ蒐集（諸星大二郎、星野之宣等）
 ⑥原稿提出が遅くなったおわびに、20冊引き取ります



- 服部 敦（はっとり・あつし）
 ①昭和32年11月9日・埼玉県
 ②自由業
 ③近代将棋・夜の詰将棋担当、ミニコミ誌『将』『カピタン』発行
 ④フェアリー発表作完全率9割
 ⑤囲碁、自然観察
 ⑥第二弾に向かって出発進行！



- 佐藤伸夫（さとう・のぶお）
 ①昭和31年4月18日・福島県
 ②地方公務員
 ③詰バラ入選5回・解答者バラダイス入選1回
 ④音楽と映像が一体となった芸術作品の創作 ⑤トライアスロンをこのまま続けること
 ⑥作品集みんなで出せば怖くない



- 斎藤吉雄（さいとう・よしお）
 ①昭和28年4月7日・千葉県
 ②学習塾経営
 ③なし
 ④詰バラ入選10回
 ⑤ジャズ・軽音楽を聴くこと
 ⑥隣に写っているのは知り合いの子



- 河原泰之（かわはら・やすゆき）
 ①昭和40年1月28日・東京都
 ②やとと会計事務所に就職
 ③塚田賞中編1回
 ④県府都と引越したので、次は道？
 ⑤特にありません
 ⑥崇高な本になればいいな



- 山下雅博（やました・まさひろ）
 ①昭和43年5月22日・国分寺市
 ②会社員
 ③詰バラ入選20回
 ④43年後の詰バラ入選百回
 ⑤読書・ビデオ鑑賞
 ⑥本書の続編はあるのだろうか？



- 柳田 明（やなぎだ・あきら）
 ①昭和31年7月17日・横浜市
 ②公務員
 ③看寿賞長編。塚田賞特技、短編。
 ④順位戦A級キープ（難しい……）
 ⑤テニス、スキー、映画等々。
 ⑥しばらく静かにしたので（どこが！）また動きだそうかと……。



- 三谷郁夫（みたに・いくお）
 ①昭和30年11月14日・大宮市
 ②会社員
 ③塚田賞2回、将棋世界年間佳作賞
 ④作曲コンテストで優勝する
 ⑤音楽、公募挑戦
 ⑥これが私の遺作集



- 富樫昌利（とがし・まさとし）
 ①昭和37年5月10日・東京都
 ②地方公務員
 ③看寿賞・塚田賞各1回
 ④年に3作入選
 ⑤ボーッとしてること
 ⑥清水さん、ご苦労さまでした



- 鈴木芳広（すずき・よしひろ）
 ①昭和31年5月20日・神奈川県
 ②フリーター（将棋関係の編集、校正 ③門外漢
 ④「OH! 漫画工房」を出す（略称不可）
 ⑤マンガ、ゲーム類
 ⑥「さあ、次は奇想曲の逆襲だ」です、お師さん？



- 清水英幸（しみず・ひでゆき）
 ①昭和37年11月22日・東京都赤羽
 ②無職（ひえい）
 ③詰バラ入選2回
 ④詰工房をメジャーにする（ウソ）
 ⑤雑誌製作、賭博など
 ⑥「か、買ってくれ！」

編集後記

★富樫氏の選題の言葉にあるように、飲み屋で盛り上がった「本計画」だったが、「ワープロも普及しているしフロッピーで貰えば校正も楽ですよ」という読みはあまく、ほとんど打ち直しするハメになった。今、金子氏のキーボードを叩く音が、詰工房の会場に響いている……。 (清水)

★あー、ドタバタと忙しかった。一時は、7月の全国大会にとても間に合いそうもなかったのですが、清水さんが鬼編集長ぶりを発揮して、とうとうここまで来た。無事にできあがるのが奇跡のようである。まとまって形のある仕事は「しないはず」の詰工房としては、初めてのきちんとした仕事だが、果たしてその出来は？ パート2が出る、なんてことはないだろうなア……。 (柳田)

★アマチュアの詰将棋作家の作品集に対する思い入れは、想像を越えるものがあります。「一生に一度は作品集なるものを作ってみよう」という人がほとんどなのです。それから考えると、この本ときたら……原稿を読み返してみても、一体これは何の本なんだろうと、ふと疑問に思ってしまった。ああ、なんて無責任な人なんだろう、私は。現在、入稿前日、いや当日の未明。山盛りの灰皿を脇に置いて、まだワープロ叩いてる。とても準備期間が1年もあったとは思えませんなあ。 (金子)

東京詰将棋工房作品集

K O B O

ー我ら愉快的仲間たちー

頒価 一、〇〇〇円 (送料を含む)

平成5年7月1日発行

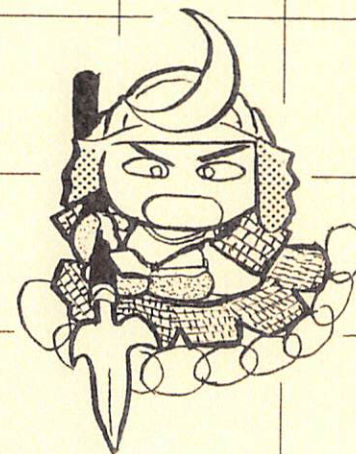
発行者 東京詰将棋工房 〒一四〇

品川区南大井六―八一三―三〇五
郵便振替 東京三―七〇八八五

(名称) 東京詰将棋工房

印刷所 日本コム株式会社

(無断複写・転載を禁ずる)



KOBO

頒価 1000円